

大学基準4. 教育内容・方法・成果

4-1 教育目標、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針

中期目標

【目標1】教育目標、学位授与方針および教育課程の編成・実施方針を、定期的に検証し適切に維持する。

【目標2】教育目標、学位授与方針および教育課程の編成・実施方針を、大学構成員(教職員および学生等)に周知し、社会に公表する。また、認知度を向上させる。

(1) 全学教務委員会

中期計画【計画1】(目標1に対応する計画)		達成度評価指標【指標1】	
[1-1] 教育目標と学位授与方針との関連性および一致度を測るための指標を作成し、両者の間の整合性を検証する。 [1-2] 教育目標と教育課程の編成方針との関連性および一致度を測るための指標を作成し、両者の間の整合性を検証する。 [1-3] 教育課程の編成について、入試・就職等多様な観点からの設計を行う。		[1-1, 1-2, 1-3 共通] ①関連性対照表を作成し対照表に基づいて一致度を検証する。あるいは関連性の低い項目を抽出する。	
2019年度	年次計画内容	計画実施状況	指標に基づく中期目標の達成状況
	[1-1] 教育目標、学位授与方針および教育課程の編成・実施方針の適切性等を検証する指標を引き続き検討する。	3つのポリシーを見直すことで、教育目標、学位授与方針及び教育課程の編成・実施方針の適性を見直した。	達成度 80% 改訂した3つのポリシーをPDCAサイクルとして回してさらなる検証を行っていききたい。
2020年度	年次計画内容		
	[1-1] 教育目標、学位授与方針および教育課程の編成・実施方針の適切性等を検証する指標を引き続き検討する。		

(2) 経営学部

中期計画【計画1】(目標1に対応する計画)		達成度評価指標【指標1】	
[1-1] 教育目標と学位授与方針との関連性および一致度を測るための指標を作成し、両者の間の整合性を検証する。 [1-2] 教育目標と教育課程の編成方針との関連性および一致度を測るための指標を作成し、両者の間の整合性を検証する。		[1-1] ①関連性対照表(参考例参照)を作成し対照表に基づいて一致度を検証する。あるいは関連のない(弱い)項目を抽出する。 [1-2] ①関連性対照表(参考例参照)を作成し対照表に基づいて一致度を検証する。あるいは関連のない(弱い)項目を抽出する。	
2019年度	年次計画内容	計画実施状況	指標に基づく中期目標の達成状況
	[1-1] 新キャンパスでの学部再編に向け、経済学部との協議を経ながら、教育資源の強みを活かした教育目標と教育課程を構築する。	新キャンパスでの学部再編に向け、経済学部との協議を重ねながら、新学科の教育目標と教育課程について踏み込んで検討し、カリキュラムとして提示した。	経済学部との連携をさらに密にし、魅力ある学部創りに向けた取り組みが継続的に必要であるし、新学科の教育についての深い議論・検討が必要である。
	[1-2] 現行カリキュラムでの改善、特に初年次教育やグローバル教育について、さらに充実させるための検討を行う。	1年生に対する講演会の開催や経営学の入門科目と基礎ゼミナールを連動させるなどの充実化を図った。また、グローバル教育ではインターンシップ提携先を開拓し充実化を図った。	入学者数と教員数に変動があっても、現行カリキュラムでの教育成果を向上させる検討と努力が引き続き必要である。
2020年度	年次計画内容		
	[1-1] 新キャンパスでの学部再編に向けて2019年度に検討してきた教育目標と教育課程を実現するために、その実行案を具体的に策定し、段階的に取り組む。		
	[1-2] 2020年度の1年次生の急増に伴う初年次教育の充実と現行カリキュラムでの教育のさらなる充実を検討し、実行する。		

中期計画【計画2】(目標2に対応する計画)		達成度評価指標【指標2】	
[2-1] 刊行物、ホームページ等を通じて公表する。またガイダンス等で周知し認知度の向上を図る		①刊行、掲載実績 ②教育目標、DP、CPの認知度調査	
2019年度	年次計画内容	計画実施状況	指標に基づく中期目標の達成状況
	[2-1] 大学のホームページを活用し、経営学部の教育活動やその成果を具体的に公表する。	ホームページで公表を継続している。	教育活動や成果をホームページで公表するようになっているが、他学部と比べても記事が少ないので、より積極的な取り組みが必要である。
2020年度	年次計画内容		
	[2-1] 大学のホームページを活用し、経営学部の教育活動やその成果を具体的に公表する。		

(3) 経済学部

【計画1】(目標1に対応する計画)		達成度評価指標【指標1】	
[1-1] 教育目標と学位授与方針との関連性を確定し検証する。 [1-2] 教育目標と教育課程の編成・実施方針との整合性を検証する。		[1-1]①教育目標とディプロマポリシー [1-2]①カリキュラムマップ	
2019年度	年次計画内容	計画実施状況	指標に基づく中期目標の達成状況
	[1-1] 教育目標と学位授与方針に沿った教育ができているかを引き続き検証する。	教育目標と学位授与方針を確認した上でカリキュラム編成を行ったほか、現行の内容を踏まえて学部再編後の新学科の教育目標及び学位授与方針の検討を行った。	①教育目標と学位授与方針との関連性を確定し、継続して検証している。

	[1-2] 1)教育課程の編成・実施方針に基づいてカリキュラム運営できているかを引き続き検証する。 2)現カリキュラムの点検を行い、適宜変更を行う。	1)コースの魅力を伝えるために、コースごとに履修を推奨する科目を選定し、履修要綱に掲載している。 2) 現行カリキュラムの点検を行い、それを踏まえて学部再編後の新学科のカリキュラムの構築を行った。	コース別の履修を推奨する科目については、履修要綱に記載することに加えて、ビジネス演習 A の授業などで学生への周知を徹底しており、カリキュラム運営に支障がないようにしている。
2020年度	年次計画内容		
	[1-1] 教育目標と学位授与方針に沿った教育ができているかを引き続き検証する。		
	[1-2] 1)教育課程の編成・実施方針に基づいてカリキュラム運営できているかを引き続き検証する。 2)現カリキュラムの点検を行い、適宜変更を行う。		

【計画2】(目標2に対応する計画)		達成度評価指標【指標2】	
	[2-1] 刊行物、ホームページ等を通じて公表する。 [2-2] オープンキャンパスやガイダンス等で周知し、認知度の向上を図る	①刊行、掲載、説明実績	
2019年度	年次計画内容	計画実施状況	指標に基づく中期目標の達成状況
	[2-1] 1)全学的な「学科パンフレット」の廃止に伴い、「履修要項」以外の刊行物において、学位授与方針および教育課程の編成・実施方針を掲載するかどうか検討する。 2)ホームページを有効に活用し、ゼミナール活動や授業内容などを広報する。 3)予算がかかる事業についてはホームページ等で外部への公開を義務付けることを検討する。	1)予算が削られたため、学科ごとのパンフレットは作成されなかった。そこで独自の資料を作成し、パンフの機能を代替させた。 2)ホームページを有効に活用し、ゼミナール活動や授業内容などの広報を行った。 3)完全な義務付けには至っていないが、予算措置を伴う事業については、ホームページ等で積極的に広報するよう促した。	1)学科のパンフの完成は7月にずれ込んだが、秋のオープンキャンパスで配布した。また、オープンキャンパスに参加した高校生宛に、封書を郵送し、その中に学科パンフの縮刷版を添付した。 2)学部の様々な取組について、意識的にホームページに掲載し、積極的な広報活動を行った。
	[2-2] 教育目標、学位授与方針および教育課程の編成・実施方針等について、学部ガイダンスやオープンキャンパス、保護者懇談会にて説明を行い、周知を図る。	各学年の学部ガイダンスおよび3回のオープンキャンパスにおいて、教育目標、教育課程について説明を行い、周知を図った。	10月以降2月までの間に、新学部新学科の目的、教育目標、3つのポリシーを新しく作成した。
2020年度	年次計画内容		
	[2-1] 1)全学的な「学科パンフレット」の廃止に伴い、「履修要項」以外の刊行物において、学位授与方針および教育課程の編成・実施方針を掲載するかどうか検討する。 2)ホームページを有効に活用し、ゼミナール活動や授業内容などを広報する。		
	[2-2] 教育目標、学位授与方針および教育課程の編成・実施方針等について、学部ガイダンスやオープンキャンパス、保護者懇談会にて説明を行い、周知を図る。		

(4) 人文学部人間科学科

中期計画【計画1】(目標1に対応する計画)		達成度評価指標【指標1】	
	[1-1] 教育目標と学位授与方針との関連性および一致度を各年度の学科会議で検証し、齟齬があれば修正する。 [1-2] 教育目標と教育課程の編成方針との関連性および一致度を各年度の学科会議で検証し、齟齬があれば修正する。	[1-1] 学科会議での検証の過程と結果を記録し、定期的な検証と維持が行われていることの指標とする。 [1-2] 学科会議での検証の過程と結果を記録し、定期的な検証と維持が行われていることの指標とする。	
2019年度	年次計画内容	計画実施状況	指標に基づく中期目標の達成状況
	[1-1] 教育目標と学位授与方針との関連性および一致度を、来年度の履修要綱を作成する時期までに学科会議で検証し、必要があれば修正する。	[1-1] 2020年度からの新カリキュラム策定にあたって、教育目標に照らして学位授与方針を見直し、学科会議、教授会を経て確定させた。	新たな教育目標と学位授与方針は、今後大学案内などで周知する予定である。【指標：学科会議の記録】
	[1-2] 教育目標と教育課程の編成方針との関連性および一致度を、来年度の開講科目を確定する時期までに学科会議で検証し、開講科目に適切に反映する。	[1-2] 2020年度からの新カリキュラム策定にあたって、教育目標と学位授与方針に照らして教育課程を全面的に見直し、各開講科目を設置した。	新たな教育課程にかんする学則変更は手続きを終え、2020年度から実施する運びとなった。 【指標：学科会議の記録】
2020年度	年次計画内容		
	[1-1] 新カリキュラムに即して新たに設定した教育目標と学位授与方針との関連性および一致度を、実際の運営のなかで検証し、必要があれば学科会議で検討する。		
	[1-2] 新カリの教育目標と教育課程の編成方針との関連性および一致度を、実際の運営のなかで検証し、必要があれば学科会議で検討する。		

中期計画【計画2】(目標2に対応する計画)		達成度評価指標【指標2】	
	[2-1] 年度当初の学年別ガイダンス等で周知し認知度の向上を図る。 [2-2] 刊行物、ホームページ等を通じて公表する。	[2-1] ①教育目標、DP、CPの認知度調査 ②新年度ガイダンス資料実績 [2-2] ①教育目標、DP、CPの認知度調査	

			②刊行物、ホームページ等の掲載実績
2019年度	年次計画内容	計画実施状況	指標に基づく中期目標の達成状況
	[2-1] 教育目標、学位授与方針および教育課程の編成・実施方針を、年度当初の学年別ガイダンスにおいて周知する。教育目標、DP、CPの認知度は、全学的な調査を通じて検証する。	[2-1] 教育目標、学位授与方針および教育課程の編成・実施方針を、年度当初の学年別ガイダンスにおいて周知した。教育目標、DP、CPの認知度調査については、調査の対象と調査を行える機会を具体的に検討する。	[2-1] 2017年度からは新入生意識調査と在学学生学修行動調査のなかで教育目標などの認知度を調査している。本学の教育目標を「(よく)知っている」と答えたのは、2019年度の全学部の新入生のうち54%、同じく2年生のうち38%程度であった。 【指標：学科会議・教務委員会の記録】
	[2-2] 引き続き、学科ホームページにも教育目標、DP、CPの掲載を行い、認知度の向上を図る。	[2-2] 引き続き学科ホームページにも教育目標、DP、CPの掲載を行い、認知度の向上を図った。	[2-2] 学科ホームページにも掲載した。 【指標：学科ホームページ】
2020年度	年次計画内容		
	[2-1] 新カリキュラムに即して新たに設定した教育目標、学位授与方針および教育課程の編成・実施方針を、年度当初の学年別ガイダンスにおいて周知する。教育目標、DP、CPの認知度は、全学的な調査を通じて検証する。		
	[2-2] 引き続き、学科ホームページにも教育目標、DP、CPの掲載を行い、認知度の向上を図る。		

(5) 人文学部英語英米文学科

中期計画【計画1】(目標1に対応する計画)			達成度評価指標【指標1】
[1-1] 教育目標、学位授与方針および教育課程編成方針を適切に維持するために、現状を分析し点検と評価を行う。			連関性対照表(参考例参照)を作成し対照表に基づいて一致度を検証する。あるいは連関のない(弱い)項目を抽出する。
2019年度	年次計画内容	計画実施状況	指標に基づく中期目標の達成状況
	[1-1] 教育目標、学位授与方針および教育課程の編成・実施方針を適切に維持するため、点検と評価を引き続き行う。	今年度は、外部講師によるFD講習会ならびにワークショップにおいて、学科の教育目標、学位授与方針、および教育課程の編成・実施方針に関して意見交換を行った。その後、学位授与方針を中心に3つのポリシーの見直しを行い、修正を加えた。	次年度も教育目標、学位授与方針および教育課程編成方針の適切な維持に向けて、点検と評価を継続する。 【指標 江別市内四大学共同FD研究会(2019年9月18日実施)資料/「3つのポリシーに関する規定(新旧対照表)(英語英米文学科)」】
2020年度	年次計画内容		
	[1-1] 教育目標、学位授与方針および教育課程の編成・実施方針を適切に維持するため、点検と評価を引き続き行う。		

中期計画【計画2】(目標2に対応する計画)			達成度評価指標【指標2】
[2-1] 教育目標、学位授与方針および教育課程の編成・実施方針を、出版物や大学ホームページに掲載し、広く一般に公表する。また新入生には、ガイダンス等で周知し、学生の認知度の向上を図る。			①大学HP ②新年度ガイダンス資料 ③履修要項
2019年度	年次計画内容	計画実施状況	指標に基づく中期目標の達成状況
	[2-1] 教育目標、学位授与方針および教育課程の編成・実施方針を学生に周知させる方法について、引き続き検討する。また4月ガイダンスでの学科独自の認知度調査を継続して行い、その結果を検証する。	次年度から修学ポートフォリオを利用して学位授与方針を周知させることとなり、その内容を学科会議で議論した。また学科独自の教育目標認知度調査を今年度も継続して行った。その結果、学年が上がるにつれて教育目標の周知度が向上していることも確認できた。	次年度も教育目標認知度調査を継続し、その成果を検証する。また新たに修学ポートフォリオの実施を始める。 【指標 2019年度第2回学科会議「学科の目的に関するアンケート実施結果」/2019年度第9回学科会議「修学ポートフォリオの実施について」】
2020年度	年次計画内容		
	[2-1] 教育目標、学位授与方針および教育課程の編成・実施方針を学生に周知させる方法について、引き続き検討する。		

(6) 人文学部こども発達学科

中期計画【計画1】(目標1に対応する計画)			達成度評価指標【指標1】
[1-1] 教育目標と学位授与方針、教員養成の理念などを現状と将来を配慮して検証し、再構成する。 [1-2] 教育目標と教育課程編成方針との関連性および一致度を測るための工夫をする。			[1-1] [1-2] ①教育目標に基づいた学位授与方針や教員養成の理念 ②教職課程履修カルテ
2019年度	年次計画内容	計画実施状況	指標に基づく中期目標の達成状況
	[1-1] 教職課程・保育士養成カリキュラム改訂にあたり、現在の教育目標と学位授与方針の検証をすすめる。	FD研究会を契機とした3つのポリシーの見直しにあたり、教職課程・保育士養成カリキュラム改訂および2020年度から社会教育主事(社会教育士)課程導入との整合性を検討し行った。	調査を3/3実施。検証を2/2を実施。達成3/3を実施。 【指標「計画表」D4-1-1:「第1段階」】 【指標「カリキュラムマップ」】 【指標「保育実習ハンドブック」】※現物 【指標「5. 卒論評価2018年度」】 【指標「8. 講義ごとの単位修得率」】 【指標「7. 卒業率推移表」】 【指標「卒業研究の評価」】
	[1-2] 教育目標と教育課程編成方針の実効性を追求すべく、教員希望学生の「教職課程履修カルテ」の記入と活用を促し、保育士養成課程の「保育実習ハン	全学年での「教職課程履修カルテ」の記入を担当教員全員でチェックをおこなった。保育士養成課程の進行状況を実習報告会などでおこない「保育実習ハンドブック」の有効	調査を1/1実施。検証を2/2を実施。達成1/1を実施。 【指標「計画表」D4-1-1:「第2段階」】 【指標「カリキュラムマップ」】

	ドブック」の活用を促進する。	性を確認した。今後は実習要件の確認など計画的な学修を促すための活用が求められる。	【指標「教職課程履修カルテ」※現物提出】 【指標「保育士実習報告会」資料】
2020年度	年次計画内容		
	[1-1] 新型コロナウイルス対策による諸々の体制変容下において教育目標と学位授与方針が適切に維持できていることを検証し、再検討する。 [1-2] 教育目標と教育課程編成方針の実効性を追求すべく、教員希望学生の「教職課程履修カルテ」の記入と活用を促し、保育士養成課程の「保育実習ハンドブック」の活用を促進する。		

中期計画【計画2】(目標2に対応する計画)		達成度評価指標【指標2】	
[2-1] 刊行物、ホームページ等を通じて公表する。またガイダンス等で周知するとともに、教育実習・保育実習等を通して認知度の向上を図る。		①刊行、掲載、閲覧実績 ②教育目標、DP、CPの認知度調査(全学) ③ホームページ更新数、閲覧数	
2019年度	年次計画内容	計画実施状況	指標に基づく中期目標の達成状況
	[2-1] 学科の教育目標、学位授与方針および教育課程の編成・実施方針について、大学構成員全員が理解を共有し、社会に認知できるように努める。新しくなった大学や学科のHPを積極的に利用して、認知度を向上させる。	ディプロマポリシー、カリキュラムポリシー、アドミッションポリシーを教職員・学生が共有し、学力の3要素に適合した評価と指導の体制を構築しつつある。各種の説明会はもちろん刷新されたHP、SNSなどを活用してこれを積極的に発信していくことができた。	現状分析を3/3実施。検証を2/2を実施。達成2/2を実施。 【指標「計画表」D4-1-2】 【指標「履修要項」】 【指標「HPのアクセス状況」】 【根拠資料 リニューアルしたホームページ】
2020年度	年次計画内容		
	[2-1] 学内における周知徹底を続ける一方、学外へは新型コロナウイルス対策によってアピールと周知方法がオンライン上で行われる可能性が高くなった。SNSをはじめとするオンライン上の周知徹底方法について工夫し今まで以上に教育目標や学位授与方針が伝わるように努める。		

(7) 心理学部

中期計画【計画1】(目標1に対応する計画)		達成度評価指標【指標1】	
[1-1] 教育目標と学位授与方針について、関連性及び一致度を測る指標を作成し、両者の整合性を検証する。 [1-2] 教育目標と教育課程の編成方針について、関連性及び一致度を測る指標を作成し、両者の整合性を検証する。		[1-1] 関連性対照表(参考例参照)を作成し対照表に基づいて一致度を検証する。あるいは関連のない(弱い)項目を抽出する。 [1-2] 関連性対照表(参考例参照)を作成し対照表に基づいて一致度を検証する。あるいは関連のない(弱い)項目を抽出する。	
2019年度	年次計画内容	計画実施状況	指標に基づく中期目標の達成状況
	[1-1] 心理学部臨床心理学科の、教育目標、学位授与方針と教育課程の編成・実施方針について検討する。	全学的方針のもと、本年度はアドミッション・ポリシーならびにディプロマ・ポリシーについて見直しを行った。また現行カリキュラムとの適合性について検討した。	第9回、第11回及び第12回教授会において、アドミッション・ポリシーならびにディプロマ・ポリシーの見直しについて審議した。【指標：第9, 11, 12回教授会議事録】
2020年度	年次計画内容		
	[1-1] 心理学部臨床心理学科の、教育目標、学位授与方針と教育課程の編成・実施方針について引き続き検討する。 [1-2] 2022年度新カリキュラムの設定に向けて準備を進める。		

中期計画【計画2】(目標2に対応する計画)		達成度評価指標【指標2】	
[2-1] 人文学部においては、「教育目標」、「学位授与方針」および「教育課程の編成・実施方針」は、大学ホームページ上で公開し、大学構成員(教職員および学生等)は、必要なときに自由にそれを参照することができるようにする。また、これらを「履修要項」に明示しこの媒体を利用して参照することも可能にする。更に、入試説明会、オープンキャンパスなども積極的に利用し、社会への周知を図る。		①大学ホームページ ②履修要項	
2019年度	年次計画内容	計画実施状況	指標に基づく中期目標の達成状況
	[2-1] 「教育目標」と「学位授与方針」、さらにそれらによる教育効果について、教員間で検討する。	全学的方針のもと、アドミッション・ポリシーならびにディプロマ・ポリシーについて見直しを行った。ディプロマ・ポリシーについては、現行カリキュラムとの適合性について検討した。	アドミッション・ポリシーならびにディプロマ・ポリシーについては、次年度にHPで公表される予定である。なおカリキュラム・ポリシーについては、心理学部は設置後4年を経えていないため、変更しない。【指標なし】
2020年度	年次計画内容	計画実施状況	指標に基づく中期目標の達成状況
	[2-2] 公認心理師養成プログラム等の整備状況について、引き続きホームページに公表し周知する。	公認心理師養成カリキュラムの適切な運用に関して検討し、周知方法等についても検討していく。	ホームページの資格・検定欄において、引き続き「公認心理師(国家試験受験資格)」として説明している。 【指標なし】
2020年度	年次計画内容		
	[2-1] 「教育目標」と「学位授与方針」、さらにそれらによる教育効果について、教員間で引き続き検討する。 [2-2] 公認心理師養成プログラム等の整備状況について、引き続きホームページに公表し周知する。		

(8) 法学部

中期計画【計画1】(目標1に対応する計画)		達成度評価指標【指標1】
[1-1] 教育目標と学位授与方針との関連性及び整合性を検証する。 [1-2] 教育目標と教育課程の編成方針との関連性及び整合性を検証する。		[1-1] ①教育目標と学位授与方針を比較対照して、文章上の整合性を示す。 [1-2] ①教育目標と教育課程の編成方針

4-1. 教育目標、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針

			を比較対照して、文章上の整合性を示す。
2019年度	年次計画内容	計画実施状況	指標に基づく中期目標の達成状況
	[1-1] 教育目標と学位授与方針を比較対照して、文章上の整合性を検証する。 [1-2] 教育目標と教育課程の編成方針を比較対照して、文章上の整合性を検証する。	[1-1] 新たな教育目標とその下での学位授与方針を2020年度に向けて策定した。 [1-2] 新たな教育目標とその下での教育課程の編成方針を2020年度に向けて策定した。	[1-1] 新たな教育目標とその下での学位授与方針を2020年度に向けて策定した。 [1-2] 新たな教育目標とその下での教育課程の編成方針を2020年度に向けて策定した。
2020年度	年次計画内容		
	[1-1] 教育目標と学位授与方針を比較対照して、文章上の整合性を検証する。 [1-2] 教育目標と教育課程の編成方針を比較対照して、文章上の整合性を検証する。		

中期計画【計画2】(目標2に対応する計画)			達成度評価指標【指標2】
[2-1] 刊行物、ホームページ等を通じて公表する。またガイダンス等で周知し認知度の向上を図る。			①印刷物、HPなどへの掲示実績
2019年度	年次計画内容	計画実施状況	指標に基づく中期目標の達成状況
	[2-1] 教育目標、学位授与方針および教育課程の編成・実施方針を、印刷物、HPなどを通じて公表するとともに、ガイダンス等で周知するように努める。	[2-1] 教育目標、学位授与方針および教育課程の編成方針については、その要点について法学部独自ホームページ、ニュースレターなどを通じて公表するとともに、在学生のガイダンス等で紹介し認知度の向上を図っている。	[2-1] 法学部の独自ホームページでは、「カリキュラムの概要」「コースとカリキュラム」「法学部の学び」の項目を設け、教育目標、学位授与方針および教育課程の編成方針について、それらの要点を紹介している。大学ホームページ法学部コーナーでも、教育目標およびそれに則した諸活動を紹介している。またニュースレターを通じて、高校に、また在学生に紹介し認知度の向上に努めてきた。
2020年度	年次計画内容		
	[2-1] 教育目標、学位授与方針および教育課程の編成・実施方針を、印刷物、HPなどを通じて公表するとともに、ガイダンス等で周知するように努める。		

(9) 大学院法学研究科

中期計画【計画1】(目標1に対応する計画)			達成度評価指標【指標1】
[1-1] 本研究科の教育目標、学位授与方針および教育課程の編成・実施方針を検証する。			[1-1] 検証作業を行った回数。
2019年度	年次計画内容	計画実施状況	指標に基づく中期目標の達成状況
	運営会議などを通じて、前期・後期に少なくとも1回、年2回は検証作業を行う。	3ポリシーの見直し作業ならびに教育目標の変更を行なった。	[1-1] 検証作業を行った回数：3回
2020年度	年次計画内容		
	運営会議などを通じて、少なくとも1回、検証作業を行う。		

中期計画【計画2】(目標2に対応する計画)			達成度評価指標【指標2】
[2-1] 刊行物、ホームページ等を通じて学内外に公表する。また、学生にはガイダンス等で周知し、認知度の向上を図る。			① 刊行物、サイトへの掲載実績。
2019年度	年次計画内容	計画実施状況	指標に基づく中期目標の達成状況
	①『大学院案内2020』及び大学院ホームページにおいて学内外に公表する。 ②大学院独自サイトの構築について検討する。	①『大学院案内2020』及び大学院ホームページにおいて学内外に公表した。 ②大学院独自サイトの構築については実験的に構築したが、その是非を含めてさらに検討する。	① 刊行物、サイトへの掲載実績：達成
2020年度	年次計画内容		
	『大学院案内2021』及び大学院ホームページにおいて学内外に公表する		

(10) 大学院臨床心理学研究科

中期計画【計画1】(目標1に対応する計画)			達成度評価指標【指標1】
[1-1] 臨床心理士養成指定大学院として認定協会からの要請を満たすカリキュラムを維持し継続する。			①カリキュラム
2019年度	年次計画内容	計画実施状況	指標に基づく中期目標の達成状況
	[1-1] 臨床心理養成指定大学院としてのみならず、公認心理師指定大学院としての、教育目標、学位授与方針および教育課程の編成・実施方針を、定期的に検証する。	全学的な3ポリシー見直しがあり、当該研究科としても協議の上、マイナーチェンジを行った。	① 達成
2020年度	年次計画内容		
	[1-1] 臨床心理養成指定大学院としてのみならず、公認心理師指定大学院としての、教育目標、学位授与方針および教育課程の編成・実施方針を、定期的に検証する。		

中期計画【計画2】(目標2に対応する計画)			達成度評価指標【指標2】
[2-1] 拡大事例検討会などのイベントやホームページに適切な情報を掲載する。			① 掲載実績
2019年度	年次計画内容	計画実施状況	指標に基づく中期目標の達成状況
	[2-1] 事例検討会などの案内や大学院入試説明会、ホームページなどにおいて	計画に沿って遂行した。学科・研究科・心理臨床センターが関わる市民講座にてパンフレットなどを配	① 達成

	て研究科の情報を適宜、掲載する。	置した。また戦略的予算を獲得し、学部と院の関係や、資格の説明、就職状況などが一体的にわかる、高校生向け（高校教員向け／高校生保護者向け）パンフレットを作成した。	
2020年度	年次計画内容		
	[2-1] 事例検討会などの案内や大学院入試説明会、ホームページなどにおいて研究科の情報を適宜、掲載する。		

(11) 大学院地域社会マネジメント研究科

中期計画【計画1】(目標1に対応する計画)		達成度評価指標【指標1】	
	[1-1] 教育目標と学位授与方針との関連性および一致度を測定する指標を作り、大学院の構成員で検証する。 [1-2] 教育目標と教育課程の編成方針との関連性および一致度を測定する指標を作り、両者の間の整合性を大学院の構成員で検証する。		[1-1] ①関連性対照表(参考例参照)を作成し対照表に基づいて一致度を検証する。あるいは関連のない(弱い)項目を抽出する。 [1-2] ①関連性対照表(参考例参照)を作成し対照表に基づいて一致度を検証する。あるいは関連のない(弱い)項目を抽出する。
2019年度	年次計画内容	計画実施状況	指標に基づく中期目標の達成状況
	[1-1] 教育目標と学位授与方針との関連性にもとづき教育目標と学位授与方針の一致度を測る指標について検討する。	関連表は前年度作成し検証を実施した。今年度は実施していない。	
	[1-2] 教育目標と教育課程編成方針の関連性および一致度の結果に基づき、関連性を高める方策を検討する。	今年度は検討していない。	
2020年度	年次計画内容		
	[1-1] 教育目標と学位授与方針との関連性にもとづき教育目標と学位授与方針の一致度を測る指標について検討する。		
	[1-2] 教育目標と教育課程編成方針の関連性および一致度の結果に基づき、関連性を高める方策を検討する。		

中期計画【計画2】(目標2に対応する計画)		達成度評価指標【指標2】	
	[2-1] 刊行物、ホームページ等を通じて公表する。またガイダンス等で周知し認知度の向上を図る		①刊行、掲載実績 ②教育目標、DP、CPの認知度調査
2019年度	年次計画内容	計画実施状況	指標に基づく中期目標の達成状況
	[2-1] ①地域社会マネジメント研究科の教育目標、ディプロマ・ポリシー及び教育課程の編成・実施方針、学位論文審査基準、学位論文提出までのスケジュールを大学院ホームページ、入試案内用パンフレット、大学院便覧等に記載し周知徹底する。 ②地域社会マネジメント研究科のパンフレットを更新、作成し、教育目標、教育課程の内容等を記載する。	①大学院研究科の教育目標、ディプロマ・ポリシー及び教育課程の編成・実施方針を大学院ホームページ、入試案内用パンフレット、大学院便覧、等に記載し、また大学院説明会を通じて周知徹底した。 ②パンフレットを作成し、教育目標、教育課程の内容等を記載した。	①入試パンフレット、ホームページ、大学院便覧等に記載した。 ②認知度調査は行っていないが、周知はしている。
2020年度	年次計画内容		
	[2-1] ①地域社会マネジメント研究科の教育目標、ディプロマ・ポリシー及び教育課程の編成・実施方針、学位論文審査基準、学位論文提出までのスケジュールを大学院ホームページ、入試案内用パンフレット、大学院便覧等に記載し周知徹底する。 ②地域社会マネジメント研究科のパンフレットを更新、作成し、教育目標、教育課程の内容等を記載する。 ③インターネット広告を実施し認知度の向上を試みる。		

大学基準4. 教育内容・方法・成果

4-2 教育課程、教育内容

中期目標

【目標1】教育課程の編成・実施方針に基づき、授業科目を適切に開設し、教育課程を体系的に編成する。

【目標2】教育課程の編成・実施方針に基づき、各課程に相応しい教育内容を提供する。

(1) 全学教務委員会

中期計画【計画1】(目標1に対応する計画)			達成度評価指標【指標1】
[1-1] 専門教育と教養教育をバランスよく配置し、順次性のある授業科目を体系的に配置して教育効果を高める。 [1-2] コースワークとリサーチワークをバランスよく配置し教育効果を高める。(修士課程)			[1-1, 1-2 共通] ①入学年度別単位取得状況分布・推移 ②入学年度別 GPA 分布・推移 ③カリキュラムマップやナンバリングによる体系性の表現と学生のアウトカム(成果)検証
2019年度	年次計画内容	計画実施状況	指標に基づく中期目標の達成状況
	[1-1] 教育課程の編成・実施方針に基づく授業科目の適正化や教育課程の体系的編成に資するため、順次性を明示するコースナンバーの導入等の検討を継続して行う。また、教養科目削減を引き続き検討する。	科目の体系的なナンバリングに着手し2020年度よりシラバスや履修要項に公表する。また、教養科目の削減も引き続き行った。	達成度 80% 科目のナンバリング導入により、履修する学生に体系的な学びの導入に至っているのかを検証していきたい。
2020年度	年次計画内容	[1-1] 科目のナンバリング導入により、履修する学生に体系的な学びの導入に至っているのかを検証する。また、教養科目削減を引き続き検討する。	

中期計画【計画2】(目標2に対応する計画)			達成度評価指標【指標2】
[2-1] 「社会人基礎力」の確認を行うとともに、その向上策を検討・実施する。 また、「学習習慣」を身につけさせる方策を検討・実施する。 [2-2] 入学前学習の効果を検証し、高等学校との連携の方策を検討する。			[2-1] ①入学時の基礎力確認 ②学年進行後の基礎力確認 ③学習ポートフォリオの整備や、蓄積された学修成果の検証 [2-2] ①学前学習の効果の評価(入学後の成績との関連性)
2019年度	年次計画内容	計画実施状況	指標に基づく中期目標の達成状況
	[2-1] 1) 基礎科目(国語、数学、英語)の入学時プレイメントテストの全学で導入する。 2) キャリア数学の位置づけを検討し、多くの学生が受講できる教養数学の開講を目指す。 3) クラス編成を行う教養科目のS T比を近づけるよう努力する。 [2-2] 入学前学習の状況や効果、入学後の活用といった各学科の取組みについて情報共有し、よりよい方法を各学科で追求する。	【2-1】 (1)基礎科目(国語、数学、英語)の入学時基礎力(プレイメント含む)テストは、2020年度入学 生に行うこととした。 (2)今年度は非言語分野の知識を習得してもらった科目の見直しを検討し、2021年度より3科目の追加を行う。 (3)英語のクラス数について外国語部門と調整し、学科の割り当ての調整を行った。 【2-2】入学前学習の実施内容は全学部間で情報共有した。	達成度 60% 【2-1】 (1)新入生ガイダンスに基礎力テストを組み入れたため、スケジュール調整に難航した。 (2)在学生の受講をどのように増やしていくかを検討していく必要がある。また、学科独自のキャリア教育とどのように連携して改善していくかも課題である。 (3)調整を行ったが、入学者数は流動的であることからさらに調整を進めていく。 【2-2】入学前学修は学科により取り組み方法、熱意が異なるため、提出しない入学予定者に対する対応を全学的に考える必要がある。
2020年度	年次計画内容	[2-1] 1) 基礎科目(国語、数学、英語)の入学時理解度を把握し、教育に活かす。 2) 2021年度より追加する非言語分野の科目を確実に開始する。 3) クラス編成を行う教養科目のS T比を近づけるよう努力する。 [2-2] 入学前学習の状況や効果、入学後の活用といった各学科の取組みについて情報共有し、よりよい方法を各学科で追求する。	

(2) 経営学部

中期計画【計画1】(目標1に対応する計画)			達成度評価指標【指標1】
[1-1] 専門教育と教養教育をバランスよく配置し、順次性のある授業科目を体系的に配置して教育効果を高める。 [1-2] コースワークとリサーチワークをバランスよく配置し教育効果を高める。(修士課程)			[1-1,1-2 共通] ①入学年度別単位取得状況分布・推移 ②入学年度別 GPA 分布・推移 ③カリキュラムマップやナンバリングによる体系性の表現と学生のアウトカム(成果)検証
2019年度	年次計画内容	計画実施状況	指標に基づく中期目標の達成状況
	[1-1] カリキュラム改訂の成果を見極めつつ、授業科目の適切な開設に取り組む。さらに、学部再編への円滑な接続を検討する。	教員数の変動に対応しながら開講科目の調整を図ってきた。学部再編に向けた新しい教育力を、現行カリキュラムでも活かせるように検討してきた。	カリキュラム改訂後の学生の単位修得状況からして、改善が求められる大きな問題・課題はなかった。また個々の学生へのきめ細かな指導・教育を継続している。
2020年度	年次計画内容	[1-1] 現行カリキュラムでの教育成果を高めるために、授業科目の適切な開設と運営に取り組む。さらに、学部再編への円滑な接続に取り組む。	

中期計画【計画2】(目標2に対応する計画)			達成度評価指標【指標2】
	[2-1] 「読み、書き、計算」の基礎力の確認を行うとともに、その向上策を検討・実施する。 また、「学習習慣」を身につけさせる方策を検討・実施する。経営学部では2013年度からの新カリキュラムにおいて専門科目として計算能力の向上を目指すビジネス数学Ⅰ、Ⅱを開設している。個別の検証を行いながら効果を測定していく。 [2-2] 入学前学習の効果を検証し、高等学校との連携の方策を検討する。		[2-1] ①入学時の基礎力確認 ②学年進行後の基礎力確認 ③学習ポートフォリオの整備や、蓄積された学修成果の検証 [2-2] ①入学前学習の効果の評価(入学後の成績との関連性)
2019年度	年次計画内容	計画実施状況	指標に基づく中期目標の達成状況
	[2-1] 基礎ゼミ、経営学入門等の基礎科目を含めた初年次教育の在り方について再検討する。	経営学入門での確認テストの問題を共有しながら、基礎ゼミにおいて復習・予習に取り組んだ。	経営学入門の単位取得率が向上しているので、基礎ゼミでの取り組みの効果が一定程度あると思われる。
	[2-2] 必要な改訂をさらに検討し、進める。	基礎ゼミから専門ゼミへの移行では、自己分析や将来設計について学生に考えさせながら、ゼミ選択の意識化を図った。	専門ゼミの選択では、ゼミに対する学生の意識の2極化が進んでおり、その対応について検討する必要がある。
2020年度	年次計画内容		
	[2-1] 基礎ゼミ、経営学入門等の基礎科目を核とした初年次教育の充実について検討する。		
	[2-2] 必要な改訂をさらに検討し、進める。		

(3) 経済学部

【計画1】(目標1に対応する計画)			達成度評価指標【指標1】
	[1-1] 教養科目と専門科目を体系的に配置し、教養教育と専門教育の理念の融合を図り、基礎教養科目と専門科目のリエゾンあるいは統合を行う。 [1-2] 異文化・多文化理解の深化、海外からの留学生(交換留学生)への教育、グローバル化での学士力の検討を進める。 [1-3] 経済学を中心とする社会科学分野を広く学習する。		[1-1] 「教養科目に関する方針」の策定とその運用状況 [1-2] 海外留学・海外研修および国内留学の派遣者数と受け入れ数の推移 [1-3] 「経済学部における社会科学分野の学修方針」の策定とその運用状況
2019年度	年次計画内容	計画実施状況	指標に基づく中期目標の達成状況
	[1-1] 1)2021年度以降の新カリキュラムにおいて教養科目の位置づけ等を検討する。 2)汎用性技能(日本語や外国語のリテラシー、情報リテラシー)の学習における基礎教育科目とその後の専門基礎科目との関連付けについて議論する。	1)現行の教養科目を精査し、学部再編後の新学科のカリキュラムにおける教養科目の配置を行った。 2)特に英語については、2年次以降の履修者を増やすための誘導を引き続き行った。	1)2021年度移行の新カリキュラムにおける教養科目の位置づけについては、議論する時間的余裕がなかった。全学共通科目の全体的な見直しが必要と考えるので、学部として全学教務に問題を投げかけたい。
	[1-2] 1)異文化・多文化の理解とグローバル社会に対応する3・4年次に向けた英語教育の充実を図る。具体的には、国際経済コースの学生に「英語と海外文化」や「海外フィールドワーク」の受講を促し、受講者増を達成させる。 2)学生の海外留学・海外研修あるいは国内留学および語学研修を推進する。	1)「英語と海外文化 A, B」の履修者を確保するため、国際経済コース登録者及び英語の基礎学力がある学生には履修を指導教員から促した。「海外フィールドワーク」については受講を促したものの、受講者はいなかった。 2)カリフォルニア大学デイヴィス校と、台湾の国立高雄大学にそれぞれ学生を1名ずつ短期海外留学で派遣した。セブ島への語学研修については、希望者はいなかった。	「英語と海外文化 A・B」の履修者が少なく(Aが3名、Bは1名)、また「海外フィールドワーク」及びセブ島への語学研修については希望者がいなかったことから、どのようにして履修・参加を促すかが今後の課題となっている。一方で、海外留学については1名、国内留学については沖縄国際大学から2名を受け入れた。
	[1-3] 1)2021年度以降のカリキュラムにおいて、他の社会科学分野(経営学、法学や情報学、社会学)の学習内容及びその位置づけについて検討する。 2)現行カリキュラムを点検し、社会科学分野の学修の到達点を分析する。	1)学部再編後の教育目標と学位授与方針及びカリキュラム方針における経済学と他の社会科学分野の関連・位置づけを定め、それをもとに学部再編後の新学科のカリキュラムを構築した。	1)学部再編後の教育目標と学位授与方針及びカリキュラム方針における経済学と他の社会科学分野の関連・位置づけを定め、それをもとに学部再編後の新学科のカリキュラムを構築した。 2)現行カリキュラムを総点検したが、社会科学分野の学修の到達点を分析するには至っていない。
2020年度	年次計画内容		
	[1-1] 1)2021年度以降の新カリキュラムにおいて教養科目の位置づけ等を検討する。 2)汎用性技能(日本語や外国語のリテラシー、情報リテラシー)の学習における基礎教育科目とその後の専門基礎科目との関連付けについて議論する。		
	[1-2] 1)異文化・多文化の理解とグローバル社会に対応する3・4年次に向けた英語教育の充実を図る。具体的には、国際経済コースの学生に「英語と海外文化」や「海外フィールドワーク」の受講を促し、受講者増を達成させる。 2)学生の海外留学・海外研修あるいは国内留学および語学研修を推進する。		
	[1-3] 1)2021年度以降の新カリキュラムにおいて、経営学科との共同する科目の内容について検討を開始する。		

【計画2】(目標2に対応する計画)		達成度評価指標【指標2】
[2-1] 経済のグローバル化、ユニバーサル段階、職業能力に対応する学習方法の開発		[2-1]

	<p>と推進</p> <p>[2-2] 基礎力と数的処理能力やコミュニケーション力や汎用的技能の養成・鍛錬</p> <p>[2-3] 経済的思考力のための学習</p> <p>[2-4] 社会力（チームワーク、リーダーシップなど）を身に付ける</p> <p>[2-5] 情報社会を意識した学習や職業能力と職業を意識する学習およびコンピュータ実習とコミュニケーション力の養成</p> <p>[2-6] 教育課程とエクステンションセンターの連続性を図る</p> <p>[2-7] データ収集/データ分析とマルチメディア処理と情報通信ネットワーク教育の連携</p> <p>[2-8] 入学前学習の効果を検証し、高等学校との連携の方策を検討する。</p>		<p>①学習ポートフォリオの整備や、蓄積された学修成果の検証</p> <p>②海外留学・海外研修および国内留学の派遣者数と受け入れ数の推移</p> <p>[2-2]</p> <p>①英語資格試験の取得状況</p> <p>②コンピュータ関連の資格取得状況</p> <p>③ゼミナール所属率</p> <p>[2-3]</p> <p>①授業評価アンケート</p> <p>②講義の受講状況</p> <p>③コンピュータ関連の資格取得状況</p> <p>[2-4]</p> <p>①職業と人生の履修率</p> <p>②インターンシップ参加者数</p> <p>③ジョブパス3級の合格率</p> <p>[2-5]</p> <p>①コンピュータ関連の資格取得状況</p> <p>②コンピュータ基礎の成績分布</p> <p>[2-6]</p> <p>①エクステンションセンター受講状況</p> <p>②エクステンションセンターによる資格取得者の推移</p> <p>③エクステンションセンター受講補助利用者数</p> <p>[2-7] ①情報関連科目の受講状況</p> <p>[2-8] ①入学前学習の効果の評価（入学後の成績との関連性）</p>
2019年度	年次計画内容	計画実施状況	指標に基づく中期目標の達成状況
	<p>[2-1]</p> <p>1)経済のグローバル化に対して、学生の日本語能力、数的処理能力、ならびに英語などの外国語の能力を鍛錬する学習方法の改善と推進を引き続き図る。</p> <p>2)学生の異文化体験やコミュニケーション力の向上を図るために、国内留学制度や海外の留学制度を引き続き活かす。</p> <p>3)国際コースの学生に対して語学留学の補助が実施できるよう学生に呼びかける。</p> <p>4)初年次教育における自校教育について検討する。</p>	<p>1)経済のグローバル化に対して、日本語能力に関しては「論述・作文」での能力別クラス編成、英語教育に関しては「英語と海外文化」の履修者数を増やすための方策ならびに教育内容の要望を行った。修学ポートフォリオについては、従来の1年次前期・後期および2年次に加え、新たに3年次にも実施した。</p> <p>2)海外留学制度にはカリフォルニア大学デイヴィス校と台湾の国立高雄大学にそれぞれ1名ずつの応募者があり、派遣した。</p> <p>3)語学研修の補助制度を周知したが、応募者はいなかった。</p> <p>4)具体的な検討はしていない。</p>	<p>経済のグローバル化に対する学習方法の改善は、次年度も継続して行う。また、修学ポートフォリオについては、学位授与方針への到達に関する認識を問う設問を追加する予定である。自校教育については、全学的な議論を待ちたい。</p>
	<p>[2-2]</p> <p>1)ユニバーサル段階の学生に対応し、学生の言語能力と数的処理能力などの基礎力の向上をはかる。</p> <p>2)「論述・作文 A、B」との連携を維持するとともに、能力別クラス編成の効果について検証する。</p> <p>3)ゼミナール活動などを通して学生のコミュニケーション・スキルの向上を引き続き図る。</p> <p>4)「英語と海外文化」受講者に対するTOEICの受講補助を活用し、語学能力向上の支援を行う。</p> <p>5)さらなるゼミナール間の相互交流などを検討する。</p>	<p>1)「論述・作文 A、B」では、能力別のクラス編成を行い、基礎力の向上に努めた。</p> <p>3)ゼミナール活動を通して学生のコミュニケーション・スキルの向上に努めた。</p> <p>5)卒業論文・ゼミナール論文の発表会を学部単位で行い、ゼミナールの相互交流を実現した。</p>	<p>基礎力、数的処理能力、コミュニケーション力、汎用的技能の養成・鍛錬には、継続して取り組んでいる。そのなかで、教養科目の英語の履修指導を取り入れた。</p>
	<p>[2-3]</p> <p>1)経済（学）的思考力のための授業内容の充実を引き続き図る。そのなかで、CUPの教育効果について検証する。</p> <p>2)経済学などの専門の基礎を固めるために、専門基礎科目の連携の現状を検証する。—たとえば「ミクロ経済学 I」と「ミクロ経済学 II」など科目の継続的な受講がどのくらいされているか</p> <p>3)コース別に的確な履修ができるよう学生に指導するとともに、現</p>	<p>1)各担当教員の努力により授業内容の充実をはかることができた。</p> <p>2)「ビジネス演習 A」の最終講時に、コースごとの「履修を推奨する科目」を提示して、基礎を固めるための体系的な履修を促している。専門基礎科目の連携、とくにI群（1年後期）とII群（2年前期）の受講者数は、「ミクロ経済学」171名→164名、「マクロ経済学」183名→91名、「政治経済学」131名→52名、「統計学」155名→49名であった。</p> <p>3)指導教員に学生への指導をお願いしているが、学部としては現状を把握してい</p>	<p>経済（学）的思考力の高めるための学修の充実に努めている。カリキュラムマップと整合性をとったコースごとの「履修を推奨する科目」やカリキュラム表を、ゼミナール等の時間に適宜提示し、学生に的確な履修を促している。</p>

	<p>状を確認する。</p> <p>[2-4]</p> <p>1) キャリア教育科目間の相互関連・連携を図る。特に「職業と人生 I から IV」、「インターンシップ」の受講率を上げる。</p> <p>2) OB・OGや官公庁や民間企業の学外講師を招き、学生の職業意識と職業能力の伸張を図る。</p> <p>3) ビジネス演習 A において、ジョブパス 3 級の合格率が 90%以上にするよう教育する。</p>	<p>ない。</p> <p>1) 「職業と人生 III・IV」や「ビジネス数学 B」については、ゼミ等での指導を通して、学生に履修を呼びかけた。</p> <p>2) 経済学特別講義 B において 13 人の学外講師を招いた。また、専門ゼミナール II の時間帯に 2 回学外講師を招き、学生の職業意識の伸張に努めた。またキャリア支援課との協同にて、企業説明会や講義「職業と人生 III あるいは IV」に OB・OG を招聘し、学生の職業観や就職意識の伸張に努めた。</p> <p>3) ジョブパスの合格率は 84.1%で、前年の 92.3%に比べて低下した。</p>	<p>①職業と人生の出席状況については、カードリーダーをかざすだけの学生がいるとの報告があり、実際の出席状況を把握する必要がある。</p> <p>②「インターンシップ」の履修者数は、2018 年度 14 名に対し 2019 年度は 8 名であった。学外のインターンシップを利用しやすくなっていることが背景にあると考えられる。</p> <p>③ジョブパスの合格率の低下は、今年度から試験形式が CBT に変更になり、学生が形式に慣れない状況で受験することになったことが理由として挙げられる。試験形式への対応が今後の課題である。</p>
	<p>[2-5]</p> <p>1) 学生の情報関連科目の履修状況の調査およびコンピュータ基礎の成績分布の分析を行う。</p> <p>2) CUP コース情報プログラムの学生には資格取得するよう教育するとともに実績を把握する。</p>	<p>1) 情報関連科目の履修状況およびコンピュータ基礎 A・B の成績分布を調査し、表にまとめた。「コンピュータ基礎 A・B」の単位取得者の割合は、それぞれ、77.8%、71.8%であった。昨年度に比べて A・B ともに単位取得率が低下しているところが気になるところである。</p> <p>2) IT パスポート試験に 6 名が合格した。</p>	<p>1) コンピュータ基礎の単位取得率が若干低下している点は、引き続き注視する必要がある。一方、情報関連科目の履修状況については、CUP コース情報 (IT) プログラム専攻の学生が過去 3 年で 8 名→18 名→21 名と増加していることを反映して、履修者数が増加傾向にある。特に「プログラミング I」の受講者は昨年度の 14 名から 32 名に急増しており、IT に興味・関心を持つ層を一定程度掘り起こしつつあると言える。</p> <p>2) 資格取得については、IT パスポート試験合格者を 6 名出したが、経済学科から単年度に複数の合格者を出したのは初めてである。背景には、学生側の IT 資格への関心の高まりと、関連科目を通じた指導強化があると考えられる。</p>
	<p>[2-6]</p> <p>1) エクステンションセンターを活用し、学生の資格取得の支援を行う。</p> <p>2) 全学的に実施されているエクステンションセンターの受講料補助を積極的に活用させる。</p>	<p>1) エクステンション受講生、及び受講料補助の実態を調べ、支援の在り方を検討する。特に、CUP・公共政策コースの 3 年生に対しては、公務員講座を受講するよう促す。</p>	<p>1) 公共政策コースの 3 年生の公務員講座受講が劇的に増加した。</p> <p>2) 受講料補助の拡大に向けた取組は出来なかった。</p>
	<p>[2-7] 経済学部カリキュラムにおいて情報関連科目の履修者の状況を把握するとともに、情報教育の位置づけの検討を行う。</p>	<p>CUP コース「IT プログラム」専攻の学生数は、過去 3 年で、8 名→18 名→21 名と増加しており、それに呼応して情報関連科目の履修者数も増加している。また、IT パスポート試験の合格者も 6 名出した。この結果から、これまで、やや限定的な学生が対象だった情報教育から、より幅広い学生に社会に必要な IT の素養を修得させる教育へ拡張しつつあることが示唆される。</p>	<p>現時点では、情報教育の位置づけが学部内で明確になっている訳ではない。しかし、左記の実績を踏まえれば、情報教育の位置づけが、特定の関心を持つ学生を対象とする限定的な教育から、幅広い学生に社会で必要とされる IT の素養を修得させる教育、という位置づけに拡張しつつあると言える。今後、教育実績を踏まえながら、学部における情報教育位置づけについて議論を進め、認識の共有を図ることが肝要である。</p>
	<p>[2-8]</p> <p>1) 過去 2 年間の入学前学習の状況と入学後の成績を比較して、効果の検証を検討する。</p> <p>2) 入学前学習の提出方法について moodle を用いた方法の実施を検討する。</p>	<p>1) 入学前学習の状況は調査したが、入学後の成績とは比較していない。</p> <p>2) 次年度入学生に対する入学準備学習は、「国語」と「政治経済」で従来通り、「数学」と「英語」で moodle を用いた方法で実施した。</p>	<p>入学準備学習の「結果」をどのように入学後の学修につなげていくかが課題である。また、出身高等学校との連携の方法についても検討したい。moodle を用いた方法の場合、用いない場合に比べて提出状況が良くないことから、提出状況の改善を目指した検討が必要になる。</p>
2020 年度	<p>年次計画内容</p>		
	<p>[2-1]</p> <p>1) 経済のグローバル化に対して、学生の日本語能力、数的処理能力、ならびに英語などの外国語の能力を鍛錬する学習方法の改善と推進を引き続き図る。</p> <p>2) 学生の異文化体験やコミュニケーション力の向上を図るために、国内留学制度や海外の留学制度を引き続き活かす。</p> <p>3) 国際コースの学生に対して語学留学の補助が実施できるよう学生に呼びかける。</p> <p>4) 初年次教育における自校教育について検討する。</p>		
	<p>[2-2]</p> <p>1) ユニバーサル段階の学生に対応し、学生の言語能力と数的処理能力などの基礎力の向上をはかる。</p> <p>2) 「論述・作文 A、B」との連携を維持するとともに、能力別クラス編成の効果について検証する。</p> <p>3) ゼミナール活動などを通して学生のコミュニケーション・スキルの向上を引き続き図る。</p> <p>4) 「英語と海外文化」受講者に対する TOEIC の受講補助を活用し、語学能力向上の支援を行う。</p> <p>5) さらなるゼミナール間の相互交流などを検討する。</p>		
	<p>[2-3]</p> <p>1) 経済 (学) 的思考力のための授業内容の充実を引き続き図る。そのなかで、CUP の教育効果について検証する。</p> <p>2) 経済学などの専門の基礎を固めるために、専門基礎科目の連携の現状を検証する。一たとえば「ミクロ経済学 I」と「ミクロ経済学 II」など科目の継続的な受講がどのくらいされているか</p> <p>3) コース別の的確な履修ができるよう学生に指導するとともに、現状を確認する。</p>		
	<p>[2-4]</p> <p>1) キャリア教育科目間の相互関連・連携を図る。特に「職業と人生 I から IV」、「インターンシップ」の受講率を上げる。</p>		

2)OB・OGや官公庁や民間企業の学外講師を招き、学生の職業意識と職業能力の伸張を図る。 3)ビジネス演習Aにおいて、ジョブパス3級の合格率が90%以上にするよう教育する。
[2-5] 1)学生の情報関連科目の履修状況の調査およびコンピュータ基礎の成績分布の分析を行う。 2)CUP コース情報プログラムの学生には資格取得するよう教育するとともに実績を把握する。
[2-6] 1)エクステンションセンターを活用し、学生の資格取得の支援を行う。 2)全学的に実施されているエクステンションセンターの受講料補助を積極的に活用させる。
[2-7] 経済学部カリキュラムにおいて情報関連科目の履修者の状況を把握するとともに、情報教育の位置づけの検討を行う。
[2-8] 1)過去2年間の入学前学習の状況と入学後の成績を比較して、効果の検証を検討する。

(4) 人文学部人間科学科

中期計画【計画1】(目標1に対応する計画)		達成度評価指標【指標1】	
[1-1] 専門教育と教養教育をバランスよく配置し、順次性のある授業科目を体系的に配置して教育効果を高める。 [1-2] 各種資格課程で必要となる科目相互および学科カリキュラムとのあいだで、時間割の衝突などによる履修上の不利益ができるだけ発生しないような工夫を試みる。		①カリキュラムマップやナンバリングによる科目の体系性の表現 ②入学年度別単位取得状況分布・推移 ③入学年度別GPA分布・推移	
2019年度	年次計画内容	計画実施状況	指標に基づく中期目標の達成状況
	[1-1] 専門教育からみて教養教育が効果的に配置されているかどうかについて検証する。とくにこのかん進められてきた教養科目精選が本学科学生への教育効果に与える影響を分析する。 [1-2] 2020年度新カリキュラムの時間割編成にあたり、資格課程で必要となる科目および教養・専門科目とのあいだで問題が発生しないよう配慮する。	[1-1] 2020年度からの新カリキュラム策定にあたり、教養科目についても精選と資格課程との整合性確保を前提に、教育課程を編成した。とくに資格課程の諸科目と専門ゼミナールの時間割の重複を避けるため、専攻ごとに専門ゼミナールの配置をおおむね固定することを検討し、また新札幌キャンパスへの一部学部の移転に伴い資格関連科目の時間割を検討した。	[1-1] 教養教育の教育効果の測定はなお今後の課題である。 【指標①カリキュラムマップ】 【指標②教養科目一覧表】 【指標③入学年度別GPA分布・推移】
2020年度	年次計画内容		
	[1-1] 専門教育からみて教養教育が効果的に配置されているかどうかについて検証する。とくにこのかん進められてきた教養科目精選が本学科学生への教育効果に与える影響を分析する。 [1-2] 2020年度新カリキュラムが年次進行していくなかで、時間割編成にあたって資格課程で必要となる科目および教養・専門科目とのあいだで問題が発生しないよう配慮する。 [1-3] 2019年度までの旧カリ学生を受講権を保障し、とくに専門ゼミナールの開講クラス数の確保と、旧カリ保証科目の計画的で円滑な閉講に努める。		

中期計画【計画2】(目標2に対応する計画)		達成度評価指標【指標2】	
[2-1] 教育課程の編成・実施方針に基づいた、各課程に相応しい教育内容を提供するための創意工夫に努める。 [2-2] 基幹科目「人間科学基礎論」や、公開講座として実施する「人間論特殊講義」において、教育目標1.「人間と人権を尊重する精神を身につけた学生を育成する」及び教育目標3.「既存の学問分野の相互連携と学際的な研究・教育を重視し、人間と人間を取り巻く環境の諸問題に関して広い視野をもつ学生を育成する」の達成に向けた教育内容の充実を図る。		[2-1] [2-2]共通 ①入学年度別単位取得状況分布・推移 ②入学年度別GPA分布・推移 ③カリキュラムマップやナンバリングによる体系性の表現と学生のアウトカム(成果)検証	
2019年度	年次計画内容	計画実施状況	指標に基づく中期目標の達成状況
	[2-1] 各課程にふさわしい教育内容の提供につながる創意工夫のアイデアについて情報を収集する。	[2-1] 各課程にふさわしい教育内容の提供につながる創意工夫のアイデアについては領域ごとの打ち合わせや学科会議の場で話し合った。また、授業評価アンケートの活用として情報を収集した。	[2-1] これまでも指摘したように、指標の妥当性を再検討する必要がある。「学生による授業評価アンケートの組織的活用について」(学科会議資料)
	[2-2] 【人間科学基礎論】今年度も同様に昨年度までと同様に継続し、人間科学科全体の学びの入門として、領域間のつながりについても考慮する。また新カリキュラムでの後継科目の実施方法と内容を具体的に確認する。	予定通りに13名の教員が各自の専門から初年次に相応しいテーマで授業を行い、毎回授業終了時に課題を提出させ、理解の定着をはかった。領域間のつながりを考慮する観点から、最終回には全体からおおむね領域ごとに1回、あわせて3回の講義を選び、まとめて論じるという教場レポートを課した。結果として、授業運営上の問題はなく、人間科学科での学びについて自分の関心に近い分野を中心に今後の学修につなげるという目的はおおよそ達せられた。10月の学科会議で総括を行った。また新カリキュラムの実施に伴い本科目の運営方法を検討し、大きなテーマは変えないものの、レイターマッチングのための判断材料となることを考慮し、各専攻から順繰りに担当者を出す日程に変更した。	受講者83名中、登録した再履修者が4名おりそのうち2名が合格した。残る2名は出席が0~6回で、学修全体が困難な学生である。1年生の不合格者は5名で、やはり欠席が多かった学生である。出席が十分であったにもかかわらず不合格となった学生はいなかった。【指標 第6回人間科学科会議資料1-1】
	[2-3] カリキュラム改革による見直しを行ったが、江別市及び近郊住民のニーズに応え、本学の新しい理念に取り入れるSDGsを軸に教育・研究の蓄積及びこれからの可能性を喧伝するため、2019年度も	今年度は「SDGsと地域づくりを結ぶ学び」をテーマとし、5~6月の土曜日に15回にわたって実施された。講師は人間科学科2名、こども発達学科1名、経営学部1名のほか学長にも登壇いただいた。また、学外講師を10名	学生の履修登録者は8名であったが、興味のある回に単発で聴講する学生、講師のゼミ生としてアクティビティのチューターとして講義づくりに協力した学生もいた。次年度からは本

	「道民カレッジ」の連携講座および「えべつ市民カレッジ」との共催で実施する。テーマは「SDGs と地域づくりを結ぶ学びへ」である。	招へいし、コラボレーションセンター及び日本社会教育学会と連携するなどし、参加者の増加や内容の充実を図った。 出席状況は、1 講義あたり学生が 2~6 名、市民の方々が 6~23 名であった。学生の履修登録者は 8 名であった。一方、日本社会教育学会東北北海道集会を兼ねた回では集会側受付を合わせると 60 名を超えた。感想からは、何らかの意識変革を迫られる臨場感のある講義だったことがうかがえた。	科目のような市民との交流を通じた学びの機会は、こども発達学科「生涯学習支援論 A」「一 B」に移される。次年度は、より学生の主体性や協働性が発揮できるよう改良を加えたい。 「人間論特殊講義」の情宣チラシ 「人間論特殊講義」の実施報告（9 月学科会議資料）
2020 年度	年次計画内容		
	[2-1] 各課程にふさわしい教育内容の提供につながる創意工夫のアイデアについて情報を収集する。		
	[2-2] 【人間科学基礎論】今年度も同様に昨年度までと同様に継続し、人間科学科全体の学びの入門として、領域間のつながりについても考慮する。また新カリキュラムでの後継科目の実施方法と内容を具体的に確認する。		

(5) 人文学部英語英米文学科

中期計画【計画 1】(目標 1 に対応する計画)		達成度評価指標【指標 1】
[1-1] 教育課程の編成・実施方針に基づき、順次性のある授業科目を体系的に配置して教育効果を高める。		①学年度別単位取得状況分布・推移 ②入学年度別 GPA 分布・推移
2019 年度	年次計画内容	計画実施状況
	[1-1] カリキュラムマップを活用し、順次性のある科目体系について、履修ガイダンスなどを通して理解・周知させる。また授業科目体系を評価する方策として、単位取得状況・GPA 分布などのデータの検証を継続して行う。	カリキュラムマップを教育支援課で掲示を継続し、履修ガイダンス等で言及した。また入学年度別 GPA 分布についても検証した。今年度卒業する 2016 年度入学生は、学年が上がるごとに GPA 値が 2.63、2.58、2.80、2.99 と推移しており、2 年次に若干の落ち込みがあったものの、順調に値が伸びていることが分かった。
		指標に基づく中期目標の達成状況 カリキュラムマップや履修モデルの学生への周知を今後も継続する。また単位取得状況・GPA 分布などのデータの検証も継続して行う。 【指標「カリキュラムマップ」「2019 年度人文学部入学年度別 GPA 分布」】
2020 年度	年次計画内容	
	[1-1] カリキュラムマップを活用し、順次性のある科目体系について、履修ガイダンスなどを通して理解・周知させる。また授業科目体系を評価する方策として、単位取得状況・GPA 分布などのデータの検証を継続して行う。	

中期計画【計画 2】(目標 2 に対応する計画)		達成度評価指標【指標 2】
[2-1] 一年次の導入教育から 4 年次専門ゼミナールまで、継続して英語運用能力を高めるために効果的な教育内容を検討する。 [2-2] 入学前学習の効果を検証する。		[2-1] ①入学時の基礎力確認 ②学年進行後の基礎力確認 ③蓄積された学修成果の検証 [2-2] 入学前学習の効果の評価（入学後の成績との関連性）
2019 年度	年次計画内容	計画実施状況
	[2-1] 今年度も引き続き英語運用能力に関わる新科目（英文講読 D、資格・検定英語、専門ゼミナール D）の円滑な運用を目指し、点検と評価を行う。	「英文講読 D」については、学科会議において担当教員から英語能力の向上がみられることがデータと共に示された。また「専門ゼミナール D」については、今年度は 6 名が履修し全員合格した。なお 2018 年度は 7 名が履修し 6 名合格、2017 年度は 10 名履修し全員合格している。3 年間の傾向としては、高い合格率と履修者の若干の減少が確認できた。
	[2-2] これまで行ってきた入学前課題を継続するとともに、その取り組み状況と、入学後の成績の関連性の検証を継続する。	学科会議において、入学前課題の提出状況と得点を検証し、過去 3 年間の結果と比較した。今年度は全体的にスコアの落ち込みがみられ、平均点が 5.6 点、最高点が 5 点下がる結果となった。（各年度の平均点は、2019 年度は 54.2 点、2018 年度は 59.8 点、2017 年度は 59.6 点。）
		指標に基づく中期目標の達成状況 今後もこれらの科目について検証を継続する。 【指標 2019 年度 第 5 回学科会議資料「英文講読 D クラス編成結果について」/ 2019 年度 第 6 回学科会議資料「専門ゼミナール D の登録結果について」】 入学前課題の提出状況と得点を検証し、その効果と課題を確認した。次年度も継続して検証を行う。 【指標 2019 年度第 10 回学科会議資料「AO・推薦入学者入学前課題の結果について」】
2020 年度	年次計画内容	
	[2-1] 今年度も引き続き英語運用能力に関わる新科目（英文講読 D、資格・検定英語、専門ゼミナール D）の円滑な運用を目指し、点検と評価を行う。	
	[2-2] これまで行ってきた入学前課題を継続するとともに、その取り組み状況と、入学後の成績の関連性の検証を継続する。	

(6) 人文学部こども発達学科

中期計画【計画 1】(目標 1 に対応する計画)		達成度評価指標【指標 1】
[1-1] 専門科目と教養科目をバランスよく配置し、順次性のある授業科目を体系的に配置して教育効果を高める。 [1-2] 専門教育と教養教育のバランスに留意しつつ、資格取得に向けた授業科目の順次性を考慮し、カリキュラムマップで構造化して教育効果を高める。		[1-1、1-2 共通] ①入学年度別単位取得状況分布・推移（全学） ②入学年度別 GPA 分布・推移（全学） ③カリキュラムマップなどによる体系性の表現と学生の成果検証 ④教職課程履修カルテ
2019 年度	年次計画内容	計画実施状況
		指標に基づく中期目標の達成状況

4-2. 教育課程、教育内容

年度	[1-1] 専門科目と教養科目がバランスよく効果的に配置されているかどうかについて検証する。	履修ガイダンスを通して、専門科目と教養科目がバランス及び順次性のある科目の配置を学生に周知した。また、その効果を検証する方策として、入学年度別単位取得状況や GPA 分布などのデータを活用し、定例会議において学生の修学状況について教職員で把握し、現状の課題に検討した。	現状分析を 3/3 実施。検証を 2/2 実施。達成 1/1 を実施。 【指標「計画表」D4-2-1:順次性のある授業科目を体系的に配置】 【指標①「入学年度別単位修得状況分布・推移」】 【指標②「入学年度別 GPA 分布・推移」】 【指標④「教職課程履修カルテ」】※現物 【指標「保育士指定科目修得チェック表」】※現物
	[1-2] 小学校教諭、保育士としての資格取得に向けた必要な専門科目、社会人として必要な教養科目を見渡せるカリキュラムマップや教職課程履修カルテ、保育士指定科目チェック表を活用する。また、現状の課題を抽出し、対策を検討する。	カリキュラムマップにより資格取得や社会人として必要な授業科目の順次性を学生に提示し、教職課程履修カルテや保育士指定科目チェック表などを活用した。 前々年度の再課程認定での教職資格取得のための専門科目見直し、前年度の指定保育士養成施設の指定及び運営の基準についての改正に伴う保育士養成カリキュラムの専門科目見直しにより生じた、新旧科目の並行開講を円滑に運営した。	現状分析を 2/2 実施。検証を 2/2 を実施。達成 1/1 を実施。 【指標「計画表」D4-2-1:資格取得に向けた授業科目の順次性を考慮し、カリキュラムマップで構造化して教育効果を高める】 【指標「子ども発達学科カリキュラムマップ」】 【指標④「教職課程履修カルテ」】※現物 【指標「保育士指定科目修得チェック表」】※現物 【根拠資料「保育士養成カリキュラム新カリキュラム」】
2020年度	年次計画内容		
	[1-1] 専門科目と教養科目がバランスよく効果的に配置されているかどうかについて、学生の単位修得状況、GPA 分布等を参照して検証する。		
	[1-2] 小学校教諭、保育士としての資格取得に向けた必要な専門科目、社会人として必要な教養科目を見渡せるカリキュラムマップや教職課程履修カルテ、保育士指定科目チェック表を活用する。保育士養成カリキュラムの見直しにより生じた新旧科目の並行開講を前年度に引き続き円滑に行う。また、現状の課題を抽出し、対策を検討する。		

中期計画【計画2】(目標2に対応する計画)		達成度評価指標【指標2】
[2-1]	「読解力、理解力、計算力」という基礎力を客観的に把握し、その向上策を検討・実施する。さらに、情報処理および伝達能力という応用力の獲得を目指し、学習習慣の定着を促す方策についても検討・実施する。	①入学時の基礎力確認 (全学) ②学年進行毎の基礎力確認 (全学) ③学習ポートフォリオの整備 (全学) ④資格講座の出席状況や模試評価
2019年度	年次計画内容	計画実施状況
	[2-1] 入学時の基礎力および学年進行に伴う基礎力の向上策や応用力の獲得について出席状況や成績結果等で検証し、資格取得を視野に入れ学生の能力に応じた補習教育、補充教育の実施について検討する。また、学生の自主的な学習を促進するための取り組みについて検討する。	入学時の基礎力を入学前課題などで把握し、学年ごとの基礎力の変化を成績 (GPA) などで分析を行い、教職員で定例的に共有した。応用力の獲得については成績 (GPA) や実践的な専門科目への出席状況や模擬試験の評価などで把握して教職員で定例的に共有し、対策を検討した。 また資格取得に関する補習、補充教育として教育実習事前指導や教員採用2次試験対策講座を実施した。学生の自主的な学習を促進するための取り組みについては、その方策をゼミ担当教員や授業担当教員などを中心に検討した。
		基礎力:現状分析を 4/4 実施。検証を 2/2 を実施。達成 2/2 を実施。 応用力:現状分析を 3/3 実施。検証を 2/2 を実施。達成 2/2 を実施。 【指標「計画表」D4-2-2:基礎力について】 【指標「計画表」D4-2-2:応用力について】 【指標①「入学年度別単位修得状況分布・推移」】 【指標②「入学年度別 GPA 分布・推移」】 【指標「子ども発達学科 FD」報告】 【指標「資格等取得状況」】 【根拠資料「教育実習事前指導」報告】 【根拠資料「教員採用2次試験対策講座」報告】
2020年度	年次計画内容	
	[2-1] 入学時の基礎力および学年進行に伴う基礎力の向上策や応用力の獲得について出席状況や成績結果等で検証し、資格取得を視野に入れ学生の能力に応じた補習教育、補充教育の実施について検討する。また、学生の自主的な学習を促進するための取り組みについて検討する。これらの検証・検討を新型コロナウイルス対策による状況変化に応じて進める。	

(7) 心理学部

中期計画【計画1】(目標1に対応する計画)		達成度評価指標【指標1】
[1-1]	専門教育と教養教育をバランスよく配置し、順次性のある授業科目を体系的に配置して教育効果を高める。	①学年度別単位取得状況分布・推移 ②学年度別 GPA 分布・推移
2019年度	年次計画内容	計画実施状況
	[1-1] 学年度別の単位取得状況分布・推移 GPA 分布・推移に加え、メンタルヘルスに関する指標などをとり、引き続き経時的・多面的に教育課程を検証する。	2019年度においても、単位取得状況や GPA 等の分析に基づき学年度別の傾向を検討した。学生の適応の経年変化と要因を把握するため、2019年度から、「学生生活困りごと調査」は進級時にも実施することにした。また 2018年度実施結果と合わせて分析し、時系列的变化も検討した。
	[1-2] 公認心理師養成プログラムに対応した学年進行になっているか、引き続き検証する。	2022年度から精神保健福祉士養成カリキュラムも心理学部において施行される予定であり、2つのプログラムの関係について将来構想 WG において検討した。科目の整理等に関しても、教務委員会で検討した。
		2018年度と2019年度の調査結果の比較をみると、入学時より進級時の困りごとが全体的に減少しており、マルチタスクの苦手感が増えていることが示された。 【指標:2018年度第17回心理学部教授会資料議事録 2018,2019年度学生生活困りごと調査データ】 【指標:なし】
2020年度	年次計画内容	
	[1-1] 学年度別の単位取得状況分布・推移、GPA 分布・推移に加え、メンタルヘルスに関する指標などをとり、引き続き経時的・多面的に教育課程を検証する。	

[1-2] 公認心理師養成プログラムに対応した学年進行になっているか、引き続き検証する。
--

中期計画【計画2】(目標2に対応する計画)		達成度評価指標【指標2】	
[2-1] 教育目標をより深い水準で達成するために下記の課題に取り組む ・上位層教育の整備。 ・修学困難者への適切な処遇 ・休退学者減少のための施策整備 [2-2] 入学前学習の効果を検証し、高等学校との連携の方策を検証する。		[2-1] ①入学年度別の入退学者数 ②蓄積された学修成果の検証 [2-2] ① GPA ②入学前学習の効果の評価(入学後の成績との関連性)	
2019年度	年次計画内容	計画実施状況	指標に基づく中期目標の達成状況
	[2-1] 既存のデータから、「上位層」「修学困難層」「休退学者」の傾向分析を継続し、引き続きそれぞれに応じた対策案を作成する。	1年次の演習を担当する教員間で情報交換を行うとともに、学部教務委員会等で収集された情報を基に諸傾向を検討した。また資格取得WG等において進路選択との関連で検討した。	学生層に応じた適切な進路選択を支援するための方策について、資格取得WGを中心に検討した。教員有志が、公務員・保育士勉強会を学生に提案し、希望者を募った。積極的に勉学に挑む層に対しては、卒論への早めの取り組みを促す提案した。【指標：案内チラシ】
	[2-2] AO入試の入学前課題の内容を、入試状況の変化に合わせて検討する。	AO入試の入学前課題の内容について、さらに適切なものとなるよう検討し修正を行った。	【指標：AOレポート課題】
	[2-3] 学生の学修目的とそれに対する学習成果に関して、学生本人の評価が可能となる方策を検討する。	1年次を担当する教員を中心に情報交換を行うとともに、適切な支援を行うため、「マイファイル」を作成することとし、WGで検討を行った。	マイファイルWGにおいて検討を重ね、試作版を作成した。 【指標：マイファイル試作版】
2020年度	年次計画内容		
	[2-1] 既存のデータから、「上位層」「修学困難層」「休退学者」の傾向分析を継続し、引き続きそれぞれに応じた対策案を作成する。		
	[2-2] リフレクション入試や学校推薦型入試で選抜された入学予定者の入学前課題について、より適切なものとなるよう検討する。		
	[2-3] 学生の学修目的とそれに対する学習成果に関して、マイファイルの利用状況等を検討する。		

(8) 法学部

中期計画【計画1】(目標1に対応する計画)		達成度評価指標【指標1】	
[1-1] 教養教育と専門教育の履修において、体系的に配置して教育効果を高める。 [1-2] 法律学を中心に、社会科学の隣接分野の専門教育を幅広く提供する。		[1-1, 1-2 共通] ①入学年度別単位取得状況分布 ②入学年度別GPA分布 ③コース選択状況	
2019年度	年次計画内容	計画実施状況	指標に基づく中期目標の達成状況
	[1-1] すでに現行カリキュラムの完成年度をむかえており、科目を共有する経済学部のキャンパス移転が決まっているため、カリキュラムの改編を検討する。必修科目の達成状況、専門科目の履修状況および年次配置、教養科目の修得状況等について検証を行ったうえで、法学の基礎を固めると同時に、新たな時代・社会の要請に応えるカリキュラムを模索する。	[1-1] 法学部が育てたい学生像を描きつつ、新たな教育目標とその下でのディプロマポリシー・カリキュラムポリシー・アドミッションポリシーおよび2021年度からの新カリキュラムを策定した。新カリキュラムの下では、公共コースと企業コースの2コース制を設け、プログラムを実質化するため、卒業試験とこれにいくつかの検定・資格試験を代替する仕組みを用意した。	2019年入学生のコース選択状況は、アドバンスト21人、スタンダード47人、CUP27人である。この3コース制は、2020年入学生が最終学年となる。
	[1-2] 現行カリキュラムの特徴である、経済学、社会学、情報分野といった隣接分野の科目を整理する。上記科目を履修しようとする在学生の受講保証とガイダンスにおける工夫を行う。	[1-2] 科目を共有する経済学部のキャンパス移転が決まっているため、2021年度からの新カリキュラムに先立ち2020年度入学生について、経済学、社会学、情報分野といった隣接分野の科目を整理した。	経済学部主開講の科目のうち、法学部生の履修が少ない14科目を削除した。
2020年度	年次計画内容		
	[1-1] すでに現行カリキュラムの最終学年が入学しており、科目を共有する経済学部のキャンパス移転が決まっているため、経済学部主開講科目の履修に関するガイダンスをする。必修科目の達成状況、専門科目の履修状況および年次配置、教養科目の修得状況等について検証を行ったうえで、法学の基礎を固めると同時に、新たな時代・社会の要請に応える新カリキュラムへと移行する。		
	[1-2] 現行カリキュラムの特徴である、経済学、社会学、情報分野といった隣接分野の科目を履修しようとする在学生の受講保証を工夫する。		

中期計画【計画2】(目標2に対応する計画)		達成度評価指標【指標2】	
[2-1] 初年次における基礎学力の確認とその育成を図る。 [2-2] 法の理念や解釈に関する基本的な知識の修得を図る。 [2-3] プレゼンテーションとコミュニケーションの能力育成を図る。		[2-1] ①基礎学力にかかわる入門科目の履修と単位取得状況 [2-2] ①法学検定試験ベーシックコースの合格状況 [2-3] ①基礎ゼミナール、専門ゼミナールのシラバスの確認 ②ディベート大会の開催実績	
2019年度	年次計画内容	計画実施状況	指標に基づく中期目標の達成状況

4-2. 教育課程、教育内容

年度	[2-1] 初年次の導入科目として基礎ゼミナールや憲法入門、民法入門の科目を配し、新入生全員の履修を義務づける。また憲法入門、民法入門、および基礎ゼミナールにおいても、法学部で学ぶ意味や法解釈学の方法論などを積極的に伝えることで、学生が積極的に法学部での学びに取り組むことができる環境を構築する。	[2-1] 初年次における基礎学力の確認とその育成を図るための基礎ゼミナールや憲法入門、民法入門の科目を配して新入生全員の履修を義務づけ、学生が積極的に法学部での学びに取り組む環境が定着しつつある。	基礎学力にかかわる科目について、憲法入門の単位認定率 77.2%、民法入門の単位認定率は87.6%であった。
	[2-2] 1年時より法学検定試験ベーシックを積極的に受けさせるとともに、エクステンションセンターによる講座を受けてもらうことで合格率を高める方策を取る。	[2-2] 1年時より法学検定試験ベーシックを積極的に受けさせるとともに、エクステンションセンターによる講座を受けてもらうことで合格率を高める方策を取った。	法学検定試験ベーシックコースについては、受験者 191 名中 103 名の学生が合格し、団体受験して合格した人数 99 名は、全国第 5 位であった。
	[2-3] プレゼンテーション及びコミュニケーション能力の育成については、1年次は基礎ゼミナール、2年次以降は専門ゼミナールを通じて行っており、さらに強化する。	[2-3] 基礎ゼミナールにおけるプレゼンテーション及びコミュニケーション能力の育成については、ディベート大会を開催することによって、その成果を生かすことができた。ただし、専門ゼミナールによるコミュニケーション能力の育成の効果については、それを判断する機会がないため、評価ができなかった。	プレゼンテーション及びコミュニケーション能力の育成のために、本年度も 1 月 21 日にディベート大会を開催した。出場したゼミは 4 ゼミナールであった。
2020年度	年次計画内容		
	[2-1] 初年次の導入科目として基礎ゼミナールや憲法入門、民法入門の科目を配し、新入生全員の履修を義務づける。また憲法入門、民法入門、および基礎ゼミナールにおいても、法学部で学ぶ意味や法解釈学の方法論などを積極的に伝えることで、学生が積極的に法学部での学びに取り組むことができる環境を構築する。		
	[2-2] 1年次より法学検定試験ベーシックを積極的に受けさせるとともに、エクステンションセンターによる講座を受けてもらうことで合格率を高める方策を取る。		
	[2-3] プレゼンテーション及びコミュニケーション能力の育成については、1年次は基礎ゼミナール、2年次以降は専門ゼミナールを通じて行っており、さらに強化する。		

(9) 大学院法学研究科

中期計画【計画1】(目標1に対応する計画)		達成度評価指標【指標1】
[1-1] 授業科目が適切に開設され、カリキュラムが体系的に配置されているかを定期的に検証し、迅速に改善しうる体制を作る。		[1-1] 検証作業を行った回数。
2019年度	年次計画内容	計画実施状況
	[1-1] 教育課程の編成・実施方針に基づき、適切に授業科目が配置されているか、運営会議や研究科委員会を通じて検証し、その結果を報告する。	[1-1] 税法各論特講の開講数が増えることによる履修科目の偏りが見られたため、是正に向けた議論を行なったが、次年度は変更しない旨の結論を得た。
2020年度	年次計画内容	
	教育課程の編成・実施方針に基づき、適切に授業科目が配置されているか、運営会議や研究科委員会を通じて検証し、その結果を報告する。	

中期計画【計画2】(目標2に対応する計画)		達成度評価指標【指標2】
[2-1] 開講科目の教育内容をシラバスで確認することを通じて、その適切性を継続的に検証する。		[2-1] 検証作業を行った回数。
2019年度	年次計画内容	計画実施状況
	[2-1] 開講科目の教育内容をシラバスで確認することを通じて、その適切性を継続的に検証する。	[2-1] 運営会議で開講科目の教育内容の適切性をシラバスで確認した。
2020年度	年次計画内容	
	開講科目の教育内容をシラバスで確認することを通じて、その適切性を継続的に検証する。	

(10) 大学院臨床心理学研究科

中期計画【計画1】(目標1に対応する計画)		達成度評価指標【指標1】
[1-1] 臨床心理士養成指定大学院としての要請に基づく教育課程・教育内容について、現有の人的教育資源に基づく効果的な対応を検討する。 [1-2] 新たな国家資格として検討されている公認心理師制度の動向を踏まえて教育課程・教育内容の検討を進める。		[1-1,1-2 に共通] ①開設科目・担当者・単位取得状況
2019年度	年次計画内容	計画実施状況
	[1-1] 適切な人的教育資源の活用を行う。	計画に沿って遂行した。
	[1-2] 公認心理師実習科目の整理を行う。	計画に沿って遂行した。
2020年度	年次計画内容	
	[1-1] 適切な人的教育資源の活用を行う。	
	[1-2] 公認心理師実習科目および臨床心理士科目の整理を行う。	

中期計画【計画2】(目標2に対応する計画)		達成度評価指標【指標2】
[2-1] コースワークとリサーチワークをバランス良く配置し教育効果を高める。 [2-2] 修了に必要な必修科目と認定協会から要請される選択科目を中心に 30 数単位程度の履修を大幅に上回る単位修得状態を把握し、対応を検討する		[2-1,2-2 に共通] ①単位修得状況・修士論文の状況(内容、レベル、執筆量)

2019年度	年次計画内容	計画実施状況	指標に基づく中期目標の達成状況
	[2-1] 研究指導計画の明示と周知の点検を、FD会議で行う。	計画に沿って実行した	① 達成
	[2-2] 院生の能力や学習進度、取得単位数等を把握し、補習・補充教育が必要かを判断するために、毎月の研究科委員会に昨年度同様FD会議を取り入れる。	計画に沿って実行した	① 達成
2020年度	年次計画内容		
	[2-1] 研究指導計画の明示と周知の点検を、FD会議で行う。		
	[2-2] 院生の能力や学習進度、取得単位数等を把握し、補習・補充教育が必要かを判断するために、毎月の研究科委員会に昨年度同様FD会議を取り入れる。		

(11) 大学院地域社会マネジメント研究科

中期計画【計画1】(目標1に対応する計画)		達成度評価指標【指標1】	
[1-1] 基本科目、コミュニティ科目、ビジネス科目をバランスよく配置するとともに授業科目を体系的に配置して教育効果を高める。 [1-2] 講義科目とフィールドワーク的な要素をもった演習科目、インターンシップ等をバランスよく配置し、教育効果を高める。		[1-1,1-2 共通] ①入学年度別単位取得状況分布・推移	
2019年度	年次計画内容	計画実施状況	指標に基づく中期目標の達成状況
	[1-1] 学部再編の議論の動向、法学研究科との再編の議論、新キャンパスへの移転計画を踏まえ、大学院のビジョンと理念を明確にし、カリキュラムの構成、基本科目、コミュニティ科目、ビジネス科目の内容を検討し、必要があればカリキュラムの見直しを行う。	カリキュラムの見直しについては基本科目や非常勤講師の科目についていくつかの意見があったが、十分な見直しは出来なかった。	①院生は、単位取得状況は良好である。1年目で修了に必要な単位を取得している。また長期履修者も十分な単位取得をしている。
	[1-2] ①院生へフィールドワーク、学会、外部のシンポジウム、政策提案公募等の学外で行われる情報を提供し、自主的な学習・研究機会を増やす。 ②フィールドワークをカリキュラムの中にもどのように取り入れるか、今後も検討を続ける。	フィールドワークを行った院生が3名いた。また、学会発表をおこなった院生が1名いた。フィールドワークの位置付けに関する議論は行わなかった。	
2020年度	年次計画内容		
	[1-1]新キャンパスへの移転を踏まえ、大学院のビジョンと理念を明確にし、カリキュラムの構成、基本科目、コミュニティ科目、ビジネス科目の内容を検討し、必要があればカリキュラムの見直しを行う。 [1-2] 院生へフィールドワーク、学会、外部のシンポジウム、政策提案公募等の学外で行われる情報を提供し、自主的な学習・研究機会を増やす。		

中期計画【計画2】(目標2に対応する計画)		達成度評価指標【指標2】	
[2-1] 定期的カリキュラム、科目の見直しを行い、教育課程の編成・実施方針に適合した教育内容の充実を図る。			
2019年度	年次計画内容	計画実施状況	指標に基づく中期目標の達成状況
	[2-1] 学部再編の議論の動向、法学研究科との再編の議論、新キャンパスへの移転計画、所属教員の研究と教育内容、社会のニーズを踏まえて地域社会マネジメント研究科の教育内容を検討する。	新キャンパスへの移転および新産学連携センターとの関わりの中で新しい教育内容を検討中であるが、具体的な部分に踏み込むまでには至っていない。	
2020年度	年次計画内容		
	[2-1] 新キャンパスへの移転、所属教員の研究と教育内容、社会のニーズを踏まえて地域社会マネジメント研究科の教育内容を検討する。		

大学基準4. 教育内容・方法・成果

4-3 教育方法

中期目標

- 【目標1】 教育目標を達成するために、適切な教育方法および学習指導を行う。
- 【目標2】 学生の学習意欲を促進させる適切なシラバスを作成し、これに基づいた授業を展開する。
- 【目標3】 単位制度の趣旨に基づいて、成績評価と単位認定を適切に行う。
- 【目標4】 教育効果について定期的な検証を行い、その結果に基づいて教育課程や教育内容・方法を改善する。

(1) 全学教務委員会

中期計画【計画1】(目標1に対応する計画)		達成度評価指標【指標1】	
[1-1] 教育目標の達成に向けた授業形態(講義・演習・実験等)の実施を検証する。 [1-2] 学習指導を充実させるとともに、本学の新しい学習環境を活用して、学生の講義への主体的参加を促す授業方法を行う。 [1-3] 履修システムや時間割、学事暦を教育目標の実現に最適な方法を試行し実証する。		[1-1,1-2,1-3 共通] ①学生による授業評価アンケート ②入学年度別単位修得状況分布・推移 ③入学年度別 GPA 分布・推移	
2019年度	年次計画内容	計画実施状況	指標に基づく中期目標の達成状況
	[1-1] 「10分FD」を、学部学生の修学状況や指導状況、有効な指導方法に関する情報提供の機会として活用する。全学実施を目指す。 [1-2] 1) 学生の主体的学び、特に能動的学習の実施率の数値目標を定める。 2) 学生の自主的な学習を促進するための環境づくりを検討する。 [1-3] 補講期間担保のため、授業時間を保持しながら授業回数の削減を検討する。併せて、前後期の授業時間および授業開始時刻の変更などについて検討を開始する。	【1-1】 定例の学部教授会で『10分FD』を引き続き実施している。 【1-2】 (1) 数値目標を定めるには至らなかった。 (2) アクティブ・ラーニングを取り入れた授業を推奨し受動的講義から能動的講義へ転換していく。また、毎回の講義の事前・事後学修の項目をシラバスに増やし、自主的な学修の環境を整備した。 【1-3】 100分授業の投入について全学的に検討したものの、実施の有無については結論に至らなかった。	達成度 30% 【1-1】 10分FDの議事録を確実に取っていることを確認するとともに出席者を記入するように変更している。 【1-2】 シラバスにアクティブ・ラーニング要素の有無を記入する項目を加えた。現状の実施率を確認したうえで、数値目標の策定に取り組みたい。 【1-3】 外部より講師をお招きし講演会を実施した。 教職員約 50名 学生約 25名
2020年度	年次計画内容		
	[1-1] 「10分FD」を、学部学生の修学状況や指導状況、有効な指導方法に関する情報提供の機会として活用する。全学実施を目指す。 [1-2] 1) 学生の主体的学び、特に能動的学習の実施率の数値目標を定める。 2) 学生の自主的な学習を促進するための環境づくりを検討する。 3) 遠隔授業を効果的に行うためのFDをFDセンターと連携して充実させる。 [1-3] 補講期間担保のため、学事暦の見直しを検討する。		

中期計画【計画2】(目標2に対応する計画)		達成度評価指標【指標2】	
[2-1] 授業の内容、到達目標、授業内容・方法、授業計画、成績評価方法等必要な事項を明記したシラバスを作成する。 [2-2] 授業内容・方法とシラバスとの整合性を検証し、維持する。		[2-1, 2-2 共通] ①シラバス作成ガイドラインとの一致度調査 ②教員によるシラバスに基づいた講義実施状況達成度調査 ③学生による授業評価アンケート ④教員による授業の自己評価	
2019年度	年次計画内容	計画実施状況	指標に基づく中期目標の達成状況
	[2-1] 1) 学部、学科の教育目標に従い、各科目の「授業のねらい」「履修者が到達すべき目標」を設定する。同時に「成績評価方法」を「履修者が到達すべき目標」への到達度を測定するものにする。以上を、シラバスに明記することとする。実施率100%を目指す。 2) 「学力の三要素」「社会人基礎力」「国語力」などの基礎学力やジェネリックスキルの獲得がどのように目指されているかを、「授業の進め方・時間外学習・学習上の助言」としてシラバスに明記する。実施率100%を目指す。 3) ゼミナールなどの科目においてアクティブ・ラーニングの要素の記載を義務付ける。 [2-2] 1) 上記のようなシラバス内容となっていることを、教務委員が中心となって各学科でチェックし、適切な記載になるようにする。 2) 授業内容とシラバスとの整合性の確保の取組み、すなわちシラバスの第三者評価を強化・徹底する。	【2-1】 (1) 各学部で3つのポリシーを見直し、シラバスにも「授業のねらい」「履修者が到達すべき目標」を設定する。同時に「成績評価方法」と「履修者が到達すべき目標」の入力を必須化したことで、100%の実施率となる。 (2) 「授業の進め方・学修上の助言」に変更したうえで、入力を必須化したことで、100%の実施率となる。 (3) ゼミなどの科目にアクティブ・ラーニングの要素の記載を義務付けるまでには至らなかった。 【2-2】 (1) (2) シラバスの様式変更に伴って、入力が必須としたものの、記載内容のチェック体制をどのように行っていくかについては、引き続き検討課題となった。	達成度 80% 【根拠資料】2020年度シラバス作成ガイドライン 【2-1】 (1) 記述されている内容を確認する必要がある。 (2) 記述されている内容を確認する必要がある。 (3) 「アクティブ・ラーニングの要素の有無」に関する記載方法を確認することにより、現状を把握したうえで100%の記載を目指す。 【2-2】 (1) (2) シラバスの様式変更に伴って、入力が必須としたものの、記載内容のチェック体制をどのように行っていくかについては、引き続き検討課題となった。
2020年度	年次計画内容		
	[2-1] シラバスの記載についてどのように確認するのかを検討する。 [2-2] 1) 上記のようなシラバス内容となっていることを、教務委員が中心となって各学科でチェック体制を確立する。		

2) 授業内容とシラバスとの整合性の確保の取組み、すなわちシラバスの第三者評価を強化・徹底する。

中期計画【計画3】(目標3に対応する計画)			達成度評価指標【指標3】
[3-1] 科目の特質に応じて多面的な評価を採用するとともに、評価方法・基準をシラバスに明記し、それに従った評価を行う。 [3-2] 単位の実質化を図ることができる教育方法、学修指導を行う。			[3-1] ①シラバス作成ガイドラインとの一致度調査(成績評価方法の記載状況) ②学生による授業評価アンケート ④教員による授業の自己評価 ⑤学生のGPA推移表 [3-2] ①シラバス作成ガイドラインとの一致度調査(事前・事後学習の記載状況) ②学生による学修時間の申告調査やe-learning等を用いた学修時間の計測 ③学生による授業評価アンケート ④教員による授業の自己評価
2019年度	年次計画内容	計画実施状況	指標に基づく中期目標の達成状況
	[3-1] 1) 教学IRや授業評価アンケートのデータを解析し、学生の実行動と成績評価の関連性を見出す。 2) GPA制度を用いた進級判定、退学勧告などの活用法を検討する。あわせて、教員間もしくは授業科目間の成績評価基準の平準化についても検討する。 [3-2] 単位取得状況や科目毎の成績分布から、学科毎の教育方法、学修指導の改善に生かす。	【3-1】 (1) 学生の授業に取り組む姿勢と教員への評価の相関がみられるようにしているが、確認していない。 (2) GPA制度を用いた進級判定、退学勧告などの活用法を検討したが、実施には至らなかった。成績評価基準については、「成績評価基準のガイドライン」を策定し、適切な評価を実施する基盤を構築した。 【3-2】 全学および学科ごとの成績分布(GPA)を作成した。平均GPAは例年とほぼ同じ2.29であった。学科ごとの差異も例年通りであった。今年度はスカラシップ入学生の初年度にあたり、学生個別の単位取得状況とGPAを算出し、修学指導を行なうこととなった。	達成度 50% [3-1~3] 単位制度の実質化としては、シラバスに各回の事前事後学修を明記する書式に変更し、学生に対して成績評価を受けるための取り組みを示している。GPA制度を用いた進級判定、退学勧告、CAP制の導入について提案したが反対意見が多い状況である。引き続き単位の実質化に向けた取り組みを強化したい。
2020年度	年次計画内容		
	[3-1] 1) 教学IRや授業評価アンケートのデータを解析し、学生の実行動と成績評価の関連性を見出す。 2) GPA制度を用いた進級判定、退学勧告などの活用法を再検討する。 [3-2] 単位取得状況や科目毎の成績分布から、学科毎の教育方法、学修指導の改善に生かす。		

中期計画【目標4】(目標4に対応する計画)			達成度評価指標【指標4】
[4-1] 教育目標と学位授与方針との関連性の検証と並行し、教育目標の達成状況を測定する指標を検討し適用する。 [4-2] 教育効果を上げるために、教育内容・方法について、FD等を通じて組織的な改善の取り組みを行い、さらなる教育成果の向上を図る。			[4-1, 4-2 共通] ①教育目標達成状況測定指標の作成 ②入学年度別単位修得状況分布・推移 ③入学年度別GPA分布・推移 ④入学年度別学位授与状況 ⑤進路決定状況 ⑥学部・学科FD、FD研究会等実施状況
2019年度	年次計画内容	計画実施状況	指標に基づく中期目標の達成状況
	[4-1] 教学IRの分析を組織的に行い、教育目標、学位授与方針の適正化に活かす。 [4-2] FDセンターと協力し、優れた教育方法、教育内容の実践事例を抽出し、「FD研修会」や「10分FD」などで紹介し、周知する。	【4-1】 IRの組織的活用は十分に行えていない。大学協議会で必要のある学科は申し出るように周知するに留まった。 【4-2】 今年度FD予算で採択された授業改善の研究・実践に携わった者の成果を、FD研修会で公表する計画をしたが3月中は開催を見合わせた。「10分FD」などでの紹介はできなかった。しかし、教員表彰に教育面の項目を増やし、優れた教育を行っている教員を表彰することになった。	達成度 50% 【4-1】 IRの組織的活用は十分に行えていない。どのように扱うか検討していく。 【4-2】 採択された授業改善の研究・実践に携わった者の成果を、FD研修会で発表を計画したが、感染症拡大の懸念もあり3月での開催を見合わせた。なお教員表彰は、優れた教育を行っている教員を表彰することになった。
2020年度	年次計画内容		
	[4-1] 教学IRの分析を組織的に行い、教育目標、学位授与方針の適正化に活かす。 [4-2] 1) FDセンターと協力し、優れた教育方法、教育内容の実践事例を抽出し、「FD研修会」や「10分FD」などで紹介し、周知する。 2) 遠隔授業改善のためのFDを継続的に行う。		

(2) 経営学部

中期計画【計画1】(目標1に対応する計画)			達成度評価指標【指標1】
[1-1] 教育目標の達成に向けた授業形態(講義・演習・実験等)の実施を検証する。 [1-2] 学習指導を充実させるとともに、本学の新しい学習環境を活用して、学生の講義への主体的参加を促す授業方法を行う。経営学部では実践教育科目であるフィールド実践科目群を中心に新しい学習環境の利用を積極的に行うことによって、その効果などの測定を行い、授業の改善に生かしていく。			[1-1, 1-2 共通] ①学生による授業評価アンケート ②入学年度別単位修得状況分布・推移 ③入学年度別GPA分布・推移

4-3. 教育方法

2019年度	年次計画内容	計画実施状況	指標に基づく中期目標の達成状況
	[1-1] 教育目標の達成に向け、多様な授業形態(講義・演習・実験)を充実させる。	実践科目、資格取得支援科目、ゼミナール、インターンシップにおいて担当教員の新しい挑戦が見られる。	FDなどで情報共有がさらに活発になれば、新しい挑戦として発展することが期待できる。
	[1-2] アクティブラーニングのさらなる展開に取り組む。	展開されている。	大教室においてもグループワーク、プレゼンテーション、現場視察などアクティブラーニングが展開された。
2020年度	年次計画内容		
	[1-1] 教育目標の達成に向け、多様な授業形態(講義・演習・実験)を充実させる。		
	[1-2] アクティブラーニングのさらなる展開に取り組む。		

中期計画【計画2】(目標2に対応する計画)			達成度評価指標【指標2】
[2-1] 授業の内容、到達目標、授業内容・方法、授業計画、成績評価方法等必要な事項を明記したシラバスを作成する。 [2-2] 授業内容・方法とシラバスとの整合性を検証し、維持する。			[2-1,2-2 共通] ①シラバス作成ガイドラインとの一致度調査 ②教員によるシラバスに基づいた講義実施状況達成度調査 ③学生による授業評価アンケート
2019年度	年次計画内容	計画実施状況	指標に基づく中期目標の達成状況
	[2-1] シラバスガイドラインに沿っているか検証作業を継続する。	2019年度のシラバスについての検証は行っている。	2020年度向けのシラバスの作成方法が変更になり、新たに検証が必要になった。
	[2-2] シラバスと授業内容・方法との検証作業を継続する。	具体的な検証作業はFD報告書に記載される幾つかの授業に対して行った。	2020年度のシラバス作成では、15回の授業概要だけでなく、事前・事後学習の項目が加わり、書式も含めて今後の検討が必要だと思われる。
2020年度	年次計画内容		
	[2-1] シラバスガイドラインに沿っているか検証作業を継続する。		
	[2-2] シラバスと授業内容・方法との検証作業を継続する。		

中期計画【計画3】(目標3に対応する計画)			達成度評価指標【指標3】
[3-1] 科目の特質に応じて多面的な評価を採用するとともに、評価方法・基準をシラバスに明記し、それに従った評価を行う。 [3-2] 講義の事前・事後学習も含めて学生の学修時間を確保し、単位の実質化を図ることができる教育方法、学修指導を行う。			[3-1]①シラバス作成ガイドラインとの一致度調査(成績評価方法の記載状況) ②学生による授業評価アンケート [3-2]①シラバス作成ガイドラインとの一致度調査(事前・事後学習の記載状況) ②学生による学修時間の申告調査やe-learning等を用いた学修時間の計測 ③学生による授業評価アンケート
2019年度	年次計画内容	計画実施状況	指標に基づく中期目標の達成状況
	[3-1] 評価方法・基準がシラバスに明記されているか確認作業を継続する。	全学教務事項として、第三者による検証作業が継続されている。	シラバスに明記されている。
	[3-2] 単位の実質化を図る教育方法・学修指導の検証作業を継続する。	具体的な検証作業は行わなかった。	基本的には各担当者に任されており、多様な評価方法で単位認定の実質化が図られている。
2020年度	年次計画内容		
	[3-1] シラバスの記入内容が2019年度に変更されたので、ガイドラインに沿って記入されているか確認作業をする。		
	[3-2] 単位の実質化を図る教育方法・学修指導の検証作業を継続する。		

中期計画【計画4】(目標4に対応する計画)			達成度評価指標【指標4】
[4-1] 教育目標と学位授与方針との関連性の検証と並行し、教育目標の達成状況を測定する指標を検討し適用する。その際GPAや単位取得状況など具体的な数値を利用した検証を行う。 [4-2] 教育効果を上げるために、教育内容・方法について、FD等を通じて組織的な改善の取り組みを行い、さらなる教育成果の向上を図る。			[4-1,4-2 共通] ①教育目標達成状況測定指標の作成 ②入学年度別単位修得状況分布・推移 ③入学年度別GPA分布・推移 ④入学年度別学位授与状況 ⑤進路決定状況 ⑥学部・学科FD、FD研究会等実施状況
2019年度	年次計画内容	計画実施状況	指標に基づく中期目標の達成状況
	[4-1] 学部再編に向け、既存の教育資源、教育成果を検証しつつ、新たな教育目標と学位授与方針を策定する。	現行カリキュラムの3つのポリシーの見直しと、学部再編での新学科の3つのポリシーを検討した。	既存学科と新学科の3つのポリシーの両方を公表するまでの取り組みを終えた。
	[4-2] FDをさらに実践し、教育内容・方法について組織的な改善に努める。	教授会内でFD関連の問題が議論され、FD活動として展開し、記録を残した。	組織的な改善に努めたが、なお具体的な成果があらわれるように努力しなければならない。
2020年度	年次計画内容		
	[4-1] 2019年度に検討した3つのポリシーと実際の教育内容・教育成果とが合致しているかを検証する。		
	[4-2] FDをさらに実践し、教育内容・方法について組織的な改善に努める。		

(3) 経済学部

【計画1】(目標1に対応する計画)			達成度評価指標【指標1】
[1-1] 教育目標の達成に向けた授業形態(講義・演習・実験等)の実施を検証する。 [1-2] 経済のグローバル化、ユニバーサル段階、職業能力に対応する学習方法の開発と推進 [1-3] 双方向型授業(講義)の推進			[1-1] ①入学年度別単位修得状況分布・推移 ②入学年度別GPA分布・推移

	[1-4] 本学の新しい学習環境を活用して、学生の講義への主体的参加を促す授業方法を行う。		[1-2] ①フィールドワーク補助制度利用状況 ②学外合同研究交流補助制度利用状況 [1-3] ①学生による授業評価アンケート ②入学年度別単位修得状況分布・推移 ③入学年度別 GPA 分布・推移 [1-4] ① アクティブラーニング教室や産業調査実習室の利用の仕方 ②コラボレーションセンターとの連携
2019年度	<p>年次計画内容</p> <p>[1-1] 各科目を授業形態別に分類したうえで、それぞれの修得状況を確認する。その上で、教育目標を達成するための授業形態を検討する。</p> <p>[1-2] 1)学生のエントリーシート作成を支援し、学生の就業力のアップを図るとともに、ゼミナールなどで面接の練習を実施する。 2)他大学とのゼミナール交流やフィールド補助調査の支援・推進を引き続き図る。 3)留学生など多様な学生に対する修学支援策を検討する。</p> <p>[1-3] 1)科目別の単位修得状況を確認し、少人数授業、双方向型科目が理解度にもどのように影響しているかを調べる 2)TA(SA)の活用方法を履修者や講義内容に基づいて再検討を行う。 3)プロゼミナールの SA の活用について状況を確認し、次年度以降の改善点を検討する。 4)プロゼミナールの適正規模について検討する。</p> <p>[1-4] 1)アクティブラーニング教室、経済学部調査実習室の利用状況を調査し、更なる利用を検討する。 2)コラボレーションセンターとの連携を検討する。 3)経済学部調査実習室について、学生が使いやすい利用方法や管理運営を図る。</p>	<p>計画実施状況</p> <p>各科目の修得状況の一覧表を作成し、確認を行っている。「学生による授業評価アンケート」を踏まえ、多人数講義形態および演習形態それぞれ1名の教員にインタビューを実施し、教育活動の実態を調査した。</p> <p>1) 外部講師を招き、3年生対象にエントリーシートの書き方についての講話をし、学生の理解を深めた。さらに、学生が講義「職業と人生 IV」で作成したエントリーシート(添削バージョン)の複写を各指導教員に返却し、情報を共有した。 2)学外合同研究交流として、2ゼミが立命館大学と北海道武蔵女子短大のゼミナールとゼミナール交流を行った。 3)今年度は留学生が4人入学したので、修学状況の把握を行った。</p> <p>1)昨年度と同様に少人数授業、双方向型科目を実施している。少人数の方が学生による授業評価が高い傾向にある。 2)TA(SA)については、各担当教員がそれぞれ科目の特性に応じた業務を行う形で活用し、学習目標の達成に貢献していることを確認した。ただ、一部科目については、TA・SAの確保が年々難しくなっているとの指摘もあった。 3)プロゼミナールの SA 活用の実態については、担当教員からの個々の取り組みを Web ページ上で集約し、学部で共有できるようにした。さらに、FD 研究会を開催して担当教員による活用事例の報告を行い、SA 活用のメリットと今後の課題を整理した。なお、今年度のプロゼミの単位取得率は 96.2%であった。 4)懸案ではあるが、現在クラス数を増やせる状況にはない。</p> <p>1) アクティブラーニング教室の利用可能性は全学の調整によって行われているため、使用状況を単純に授業の利用意思とみなすことはできない。よって、経済学部としては利用状況を調査することはできなかった。 2) コラボレーションセンターとの連携について具体的な検討は行わなかった。 3) 経済学部調査実習室について、地域経済コース担当の教員3名がゼミをはじめとする授業で利用している。学生が使いやすい利用方法や管理運営について、情報交換をしながらより良い活用方法について検討した。</p>	<p>指標に基づく中期目標の達成状況</p> <p>教育目標を達成するための授業形態の検討を引き続き行った。</p> <p>フィールドワーク補助や学外合同研究交流補助の申請が増えるよう努力したい。また、出席率・取得単位数が低い留学生が多いので、修学指導などの対応方法が今後の課題である。</p> <p>1)双方向型授業(講義)については従来の方で行った。さらなる推進を検討したい。 2) TA (SA)の組織的な運用のあり方について、引き続き検討する必要がある。 3) 今年度の各ゼミの活用事例については、うまく行かなかったケースも含めて Web 上にまとめた。そして、教授会で次年度もプロゼミナールに SA を活用することが確認されたので、それら事例集を各担当教員が咀嚼して、次年度以降の各々のゼミ運営に生かすことが望まれる。 4) クラス数を増やせない状況において近年入学者が増加した結果、1クラス当たりの履修者が 20 名弱となっている。</p> <p>1)本学の学習環境を活用しての学生の講義への主体的参加を促す授業方法については、全学における教室調整の問題もあり、教室利用というハード面だけをみることには限界もある。ゼミ時間を移動させるなど、教室を利用しやすい環境を整える必要がある。 2)コラボレーションセンターとの連携について、具体的な検討は行っていない。 3)地域経済コース担当の教員らによって、産業調査演習室とその備品の活用を行った。備品の充実、特に PC 環境の定期的なメンテナンスの必要性がある。</p>
2020年度	<p>年次計画内容</p> <p>[1-1] 各科目を授業形態別に分類したうえで、それぞれの修得状況を確認する。その上で、教育目標を達成するための授業形態を検討する。</p> <p>[1-2] 1)学生のエントリーシート作成を支援し、学生の就業力のアップを図るとともに、ゼミナールなどで面接の練習を実施する。 2)他大学とのゼミナール交流やフィールド補助調査の支援・推進を引き続き図る。 3)留学生など多様な学生に対する修学支援策を検討する。</p> <p>[1-3] 1)科目別の単位修得状況を確認し、少人数授業、双方向型科目が理解度にもどのように影響しているかを調べる 2)TA(SA)の活用方法を履修者や講義内容に基づいて再検討を行う。</p>		

4-3. 教育方法

<p>3)プロゼミナールの SA の活用について状況を確認し、次年度以降の改善点を検討する。 4)プロゼミナールの適正規模について検討する。</p>
<p>[1-4] 1)アクティブラーニング教室、経済学部調査実習室の利用状況を調査し、更なる利用を検討する。 2)コラボレーションセンターとの連携を検討する。 3)経済学部調査実習室について、学生が使いやすい利用方法や管理運営を図る。</p>

【計画2】(目標2に対応する計画)		達成度評価指標【指標2】	
<p>[2-1] 授業の内容、到達目標、授業内容・方法、授業計画、成績評価方法等必要な事項を明記したシラバスを作成する。 [2-2] 学生の質保証のための制度設計 [2-3] 補習や補助事業の計画的活用 [2-4] 授業内容・方法とシラバスとの整合性を検証し、維持する。 [2-5] 総合的学習と創造的思考力の伸張</p>		<p>[2-1] ①シラバス作成ガイドラインとの一致度調査 [2-2] ①休退学除籍者数一覧、②科目別成績分布 [2-3] ①学生による授業評価アンケート ②TA(SA)に対するヒアリング [2-4] ①専門科目の授業内容と方法の一覧表 [2-5] ①カリキュラムマップや履修要項 ②学生による報告会の報告者数 ③ゼミナール交流やフィールドワーク補助事業の申請状況 ④卒論発表会の報告者数</p>	
2019年度	年次計画内容	計画実施状況	指標に基づく中期目標の達成状況
	<p>[2-1] 1)シラバスに必要な事項が記入されているかを検証する。 2)コース内の科目との関連性についてシラバスで記入するかを検討する。</p>	<p>1)具体的な検証はしていない。 2)具体的な検討はしていない。</p>	<p>1)シラバスについては、その利用の在り方を抜本的に見直す必要があると考える。 2)来年度以降は、履修モデルを作成し、学生に提示したい。そのなかで、必要な限りコース内の科目の関連に触れる。</p>
	<p>[2-2] 1)学生の理解度に応じた適切な教育方法を模索する。</p>	<p>プロゼミナールへの SA の配置を引き続き行った。</p>	<p>授業の質保証のための制度設計については引き続き検証していく。</p>
	<p>[2-3] 1)学生の予習・復習がなされているかを調査する。 2) TA (SA) が有効に活用されているかを確認する。</p>	<p>1)全学的には、各科目の授業評価アンケート、学生満足度調査で学生の予習・復習について調査しているが、学部としての調査はしていない。 2)TA(SA)の有効性については、担当教員へのヒアリングを行った結果、概ね、学習目標を達成する為の有効であるとの回答を得た。 3)プロゼミナールの SA 活用の実態については、担当教員からの個々の取り組みを Web ページ上で集約すると共に、FD 研究会を開催して担当教員による活用事例の報告を行い、SA 活用のメリットと今後の課題をまとめた。</p>	<p>2) TA (SA) については、募集方法から活用のあり方に至るまで、学部として現状と課題を共有して改善を進める必要がある。 3) 各ゼミの活用事例、および、SA 活用に関する各担当教員の意見を Web ページに集約し、FD 研究会で報告するという形でプロゼミにおける SA 活用の総括を行った。次年度は、この蓄積を踏まえ、さらにゼミ運営を改善して行くことが望まれる。</p>
	<p>[2-4] 1)専門科目の授業内容と方法について一覧表を作成し、教員間で情報を共有することを検討する。 2)シラバスどおり適切に授業運営されているかを引き続き確認する。</p>	<p>授業内容と方法についての一覧表は作成していない。教員間のコミュニケーションにより適切な授業運営を確認した。</p>	<p>授業内容と方法に関する一覧表の作成は次年度以降の課題である。なお、学生による授業評価アンケートは学部全体では全学平均を維持している。</p>
	<p>[2-5] 1)体系的な学修が行われるための方策を検討する。 2)「産業調査演習」や「社会調査演習」、「インターンシップ」、「専門ゼミナール」など体験型科目における学生の報告会を昨年に引き続き実施する。 3)他大学とのゼミナール交流やフィールドワーク補助事業の支援・推進を引き続き図る。 4)卒業論文やゼミナール論文の教育課程における位置づけを明確にし、卒論発表会の参加者をさらに増やす方策を検討する。 5)コースの特徴づけがなされているかについて検討する。</p>	<p>1)コースごとに推奨する科目を定め履修要項に掲載している。 2)「専門ゼミナール I」の時間を使用して、10月にインターンシップ報告会、12月に学外活動報告会を実施した。 3)今年度は補助を得て他大学とのゼミナール交流を行ったゼミはなかった。フィールドワーク補助事業については、2年生 31名が栗山町でフィールドワークを行った。 4)卒業論文の教育課程における位置づけについては文書化している。 5)コース責任者を校務分掌のなかに設け、学部教務委員が兼務している。</p>	<p>総合的学習と創造的思考力の伸張に努めている。しかしカリキュラムマップと履修要項の検証は行っていない。 ④卒業論文については 62名が提出し、そのうち 53名が報告会で報告した。</p>
2020年度	年次計画内容		
	<p>[2-1] 1)シラバスに必要な事項が記入されているかを検証する。 2)コース内の科目との関連性についてシラバスで記入するかを検討する。</p>		

[2-2]	1)学生の理解度に応じた適切な教育方法を模索する。
[2-3]	1)学生の予習・復習がなされているかを調査する。 2)TA (SA) が有効に活用されているかを確認する。
[2-4]	1)専門科目の授業内容と方法について一覧表を作成し、教員間で情報を共有することを検討する。 2)シラバスどおり適切に授業運営されているかを引き続き確認する。
[2-5]	1)体系的な学修が行われるための方策を検討する。 2)「産業調査演習」や「社会調査演習」、「インターンシップ」、「専門ゼミナール」など体験型科目における学生の報告会を昨年引き続き実施する。 3)他大学とのゼミナール交流やフィールドワーク補助事業の支援・推進を引き続き図る。 4)卒業論文やゼミナール論文の教育課程における位置づけを明確にし、卒論発表会の参加者をさらに増やす方策を検討する。 5)コースの特徴づけがなされているかについて検討する。

【計画3】(目標3に対応する計画)		達成度評価指標【指標3】	
[3-1]	評価方法・基準をシラバスに明記し、厳格な成績評価を行う。	[3-1] ①シラバス作成ガイドラインとの一致度調査(成績評価方法の記載状況) ②学生による授業評価アンケート ③成績確認願の状況 [3-2] ①シラバス作成ガイドラインとの一致度調査(事前・事後学習の記載状況) ②学生による授業評価アンケート	
[3-2]	単位の実質化を図ることができる学事暦と教育体制の検討を行う。		
2019年度	年次計画内容	計画実施状況	指標に基づく中期目標の達成状況
	[3-1] 1)学生による授業評価アンケートや学生からの成績確認願に対する応答で厳格な成績評価を担保する。 2)学生による成績確認願の出願状況について確認する。 3)学生の修学指導と成績評価との関連について検討する。	1)学生による授業評価アンケートや成績確認願に対する応答で厳格な成績評価を担保した。 2)学生の成績確認願提出について各教員が成績確認することにより、成績評価の透明性を担保している。 3)学生の修学指導は十分おこなったものの、その後の成績評価との関連については学部全体として十分に調査・検討はできていない。	評価方法・基準をシラバスに明記し、厳格な成績評価に努めた。しかし、教員によるシラバスに基づいた講義実施状況達成度調査は行っていない。なお、学生による授業評価アンケートは学部全体では全学平均を維持している。
	[3-2] 単位の実質化を図ることができる学事暦と教育体制の検討を引き続き行う。	単位の実質化を図ることができる学事暦を議論し、半期15週確保することと補講期間を設けることで、教育体制を維持するよう努めている。	単位の実質化を図ることができる学事暦と教育体制の検討は引き続き行う。
2020年度	年次計画内容		
	[3-1] 1)学生による授業評価アンケートや学生からの成績確認願に対する応答で厳格な成績評価を担保する。 2)学生による成績確認願の出願状況について確認する。 3)学生の修学指導と成績評価との関連について検討する。		
	[3-2] 単位の実質化を図ることができる学事暦と教育体制の検討を引き続き行う。		

【計画4】(目標4に対応する計画)		達成度評価指標【指標4】	
[4-1]	教育目標と学位授与方針との関連性の検証と並行し、教育目標の達成状況を測定する指標を検討し適用する。	[4-1] ①教育目標達成状況測定指標の作成 ②入学年度別単位修得状況分布・推移 ③入学年度別GPA分布・推移 [4-2]①学部・学科FD、FD研究会等実施・参加状況 [4-3] ①就業力向上のための学部企画開催回数 ②フィールドワーク補助事業の参加者数 ③学業奨励制度利用者の動向 [4-4]①単位互換性度による派遣者数および受入者数 [4-5]①経済学特別講義の履修者数	
[4-2]	教育内容・方法について、FD等を通じて組織的な改善の取り組みを行い、教育成果の向上を図る。		
[4-3]	経済のグローバル化、ユニバーサル段階、職業能力に対応する学習方法の開発と推進		
[4-4]	学生の他学部・他大学での講義履修の便宜を図る		
[4-5]	ゲストスピーカーによる学生への総合学習の機会を設け、学生の社会との連携を促す		
2019年度	年次計画内容	計画実施状況	指標に基づく中期目標の達成状況
	[4-1] 教育目標の達成状況を測定する指標として、ジョブパス3級の合格率90%以上、実就職率90%以上を達成させる。	「ビジネス演習A」でのジョブパス能力資格試験の合格率は84.1%であり、90%以上の目標は達成できなかった。	ジョブパス能力試験については、試験形式の変更に対応する指導を行い、来年度以降は目標達成するよう努める。
	[4-2] 10分FDを継続的に行うとともに、全学的なFD活動に積極的参加を促す。	10分FDを11回行い、休退学予防、SAの活用方法、欠席がちな学生の情報共有、専門ゼミ募集方法などについて議論した。また、全学のFD研究会への参加も促し、特に第3回FD研究会「3つのポリシー+評価の基本と現状把握」へはワークショップを含めて多数の学科教員が参加した。	10分FDにより、定期的にFD活動を実施している。加えて、今年度は「プロゼミにおけるSA活用」をテーマとするFD研究会を開催した。10分FDについては、後に実施内容を確認できるよう報告書に資料等を添付している。
	[4-3]	1)就業力を上げるための企画として、3年	経済のグローバル化、ユニバーサル段

4-3. 教育方法

	<p>1) 学生の就業力をあげるための学部企画を開催する。さらに、これに関連した履修・修学指導のあり方を再検討する。</p> <p>2) 修学ポートフォリオについて、学習効果を向上させるための利用を引き続き検討する。</p> <p>3) 「フィールドワーク補助事業」の適切な運営を行い、参加者を増やす。</p> <p>4) 「専門ゼミナール I」の発表会を、学生の学習効果が上がるように教育課程に位置づけるかを検討する。</p> <p>5) 成績優秀者に対する学業奨励制度を有効活用する。</p> <p>6) 卒論懸賞制度の検討を厳格に実施する。</p>	<p>生対象に前期 1 回 (SPI 受検会)、後期に 1 回 (エントリーシート書き方講習)、1 年生対象に後期 1 回 (就職講話)、ゼミの時間に行った。</p> <p>2) 修学ポートフォリオは、学位授与方針への到達を意識させる設問を設け、学習効果を向上させるために役立てる予定である。</p> <p>3) 「フィールドワーク補助事業」による補助を得て 2 年生 31 名がフィールドワークを行った。</p> <p>4) 今年度も、インターンシップ報告会、学外活動報告会を通じて、学生の体験学習への取り組みを刺激したが、「専門ゼミナール I」の報告会については検討していない。</p> <p>5) 成績優秀者の表彰を 5 月に行った。</p> <p>6) 卒業論文懸賞審査委員会による厳格な審査の結果、最優秀賞 1 名、優秀賞 4 名を選び、表彰した。</p>	<p>階、職業能力に対応する学習方法の開発と推進に努めた。</p> <p>①就業力向上のための学部企画は 3 回行った。</p> <p>③学業奨励者は順調に学修している。</p> <p>④卒論懸賞の応募者が 18 名にとどまった。次年度はより多くの応募者を募りたい。</p>
	<p>[4-4] 札幌圏の単位互換制度を維持する。</p>	<p>単位互換制度により、1 名を受け入れた。派遣はなかった。</p>	<p>札幌圏の単位互換制度による相互協力は維持されているものの利用者がいない。経済学部の学生にとって、この単位互換制度がもつ意味を再検討する必要がある。</p>
	<p>[4-5] 経済学特別講義の履修率の向上に向けた施策の検討をする。</p>	<p>履修者向上に向けた施策は、特に検討していない。今年度の履修登録者は 46 名、うち履修放棄 8 名。残りの 38 名の出席状況はほぼ良好であった。引き続き、履修者の数を増やすことが今後の課題である。</p>	<p>来年度は休講とするが、再来年度以降は開講予定である。ゲストスピーカーによる学生への総合学習の機会を設け、学生の社会との連携を促すよう努めたい。</p>
<p>2020 年度</p>	<p>年次計画内容</p> <p>[4-1] 教育目標の達成状況を測定する指標として、ジョブパス 3 級の合格率 90%以上を達成する (なお、就職率については、今年度はコロナ問題に伴い、昨年度までのような目標値を設定しない)。</p> <p>[4-2] 10 分 FD を継続的に行うとともに、全学的な FD 活動に積極的参加を促す。</p> <p>[4-3]</p> <p>1) 学生の就業力をあげるための学部企画を開催する。さらに、これに関連した履修・修学指導のあり方を再検討する。</p> <p>2) 修学ポートフォリオについて、学習効果を向上させるための利用を引き続き検討する。</p> <p>3) 「フィールドワーク補助事業」の適切な運営を行い、参加者を増やす。</p> <p>4) 「専門ゼミナール I」の発表会を、学生の学習効果が上がるように教育課程に位置づけるかを検討する。</p> <p>5) 成績優秀者に対する学業奨励制度を有効活用する。</p> <p>6) 卒論懸賞制度の検討を厳格に実施する。</p> <p>[4-4] 札幌圏の単位互換制度を維持する。</p> <p>[4-5] 経済学特別講義の履修率の向上に向けた施策の検討をする。</p>		

(4) 人文学部人間科学科

中期計画【計画 1】(目標 1 に対応する計画)	達成度評価指標【指標 1】
<p>[1-1] 「基礎ゼミナール A・B および C」において、教育目標 2. 「人間科学科の専門領域である社会、心理・教育、福祉、文化、思想の諸分野の学問的基礎力を養成する」の達成に向けた展開を図る。</p> <p>[1-2] 教育目標 4. 「体験学習・実習を重視し、職業人として社会に貢献できる学生を育成する」の達成に向け、実験・実習科目の充実を図り、その効果について検証する。</p> <p>[1-3] 教育目標 5. 「社会福祉士、学芸員、中学校・高校・特別支援学校教員などの資格をもった専門的な職業人を養成し、地域社会の産業、福祉、文化、教育等に貢献できる学生を育成する」の達成に向け、資格関連科目の充実を図り、その効果について検証する。</p> <p>[1-4] 4 年間を通しての学習指導を充実させるとともに、学生の講義・演習への主体的参加を促す授業方法を検討する。</p>	<p>[1-1]</p> <p>基礎ゼミ AB 連絡会議実施状況 基礎ゼミ C 報告集</p> <p>[1-2]</p> <p>①「フィールドワーク」報告書 ②社会福祉実習報告書 ③「遊ベンチャー」実施状況 ④考古学実習報告書</p> <p>[1-3]</p> <p>①社会福祉国家試験受験者数および合格者数 ②社会福祉にかかわる OBOG との交流会実施状況 ③福祉実習準備室活用状況 ④学芸員課程登録者数および資格取得者数 ⑤教職課程登録者数および修了者数 ⑥教員採用試験受験者数および合格者数 ⑦「複免」取得者数 ⑧特別支援教育実習の実習生数と実習実施状況</p> <p>[1-4]</p> <p>①[1-1]と同じ ②卒論発表会の実施状況</p>

2019年度	年次計画内容	計画実施状況	指標に基づく中期目標の達成状況
	<p>[1-1]【基礎ゼミAB】 担当者は4年間の教育における初年次教育の重要性に鑑み、各クラスで、大学という高等教育機関での学問的基礎力の前提となる学修意欲の涵養に努めることをあらためて学科会議や担任会議で確認する。資質が多様な学生たちへの対応や今後増加することが予想される留学生を含めた初年次教育ゼミの適切な運営について、ある程度のルールをまとめることを企画する。</p>	<p>担任はクラス運営において前期は初年次学修の円滑さに留意し、後期はゼミ活動での学修成果を発表する全体発表会に向けての学修意欲向上に努めた。クラス運営に問題はとくになかった。留学生の日本語能力や大学生活の状況把握、修学不振学生への対応については担任連絡会議や打ち合わせを重ね、学科会議での報告を行った。初年次教育ゼミについては次年度に体制が変わるが、適切な運営について得られた見解は次年度担当者に引き継がれた。</p>	<p>79名、3クラスでスタートし、約1割が休退学となった。これは初年次教育の不十分さによるものではなく因子を抱えて入学してくる学生が多いことによる。それ以外の基礎ゼミAB不合格者はゼロである。 学修意欲の成果は全体発表会資料に見ることができる。 【指標1】 [1-1]学科会議基礎ゼミAB報告資料</p>
	<p>【基礎ゼミC】 基礎ゼミCでは、課題の設定、文献や資料の蒐集、検討、それに基づく報告、討議を通して、大学での学びに必要な基礎的能力を養う。各ゼミにおいて報告・検討された内容は、各ゼミが報告等の形でまとめ、論理的な記述や他者に伝える力の育成をはかる。学生の個別的な学修状況等を把握し、クラスでの成果を高めるために教員間の打ち合わせを適宜行い、SA間の情報共有の機会をもつ。また、カリキュラム上の位置づけをより明確化するため、運営手法、目的等の検討を行い、最終回にクラス間発表の場を設けるとともに、評価に関しては学びのプロセス評価の軸を4点に特定し、個別評価を行う。</p>	<p>【基礎ゼミC】 基礎ゼミCでは、文献や資料の蒐集、検討、それに基づく報告、討議を通して、大学での学びに必要な基礎的能力の育成をはかった。今年度は、全体の報告集を作成せず、各ゼミが成果を個別にまとめた。クラス間の情報共有のために、担当教員間でクラスへの適応状況や、学習状況について複数回の基礎ゼミ担当者打ち合わせを行い、学生の状況に応じたゼミ運営が行えるように配慮するとともに、成果のまとめ方について検討した。また、基礎ゼミCの位置づけや学習成果について、学科会議で報告を行った。</p>	<p>【基礎ゼミC】 各ゼミが、報告・討議を通じて、文集・プレゼンテーション等の形で、学習の成果をまとめることができた。各内容は、教員間の打ち合わせで共有した。成果のまとめについて、今後どのような形で実施していくかは、さらに検討が必要である。</p>
	<p>[1-2]【社会領域】 本年度も、社会領域の実験・実習科目である「フィールドワーク」において、体験的学習を実施する。具体的には、地域社会の活性化に尽力している人びとや機関を対象として調査研究を実施する。</p>	<p>2019年度は麦の里・江別において、個人経営のパンの製造・販売店を対象に、フィールドワークを行なった。履修者は1名であった。本人の経歴、開業に至る経緯、特徴あるパン、原材料の仕入等について、留め置きも含めてインタビュー調査を実施した。</p>	<p>12月中にフィールドワークを終え、1月と2月は報告書の作成の時間とした。2月末に報告書が提出された。</p>
	<p>【福祉領域】 教育目標4.「体験学習・実習を重視し、職業人として社会に貢献できる学生を育成する」の達成に向け、福祉の現場の具体的なイメージや専門職観を醸成すべく、学外講師を積極的に招へいする。</p>	<p>【福祉領域】 前年度に引き続き、社会福祉の各科目のなかで積極的に学外講師を招へいし、専門職観の養成に努めた。たとえば「社会福祉論A」では自立生活運動に携わる障がい当事者の方や、MSWとして相談援助に携わるソーシャルワーカーの方から、福祉の基礎的な見かた・考え方や、相談援助の基本的な立場について講話をいただいた。 社会福祉士養成課程の基幹科目「演習I」「演習II」では、現場実践を行っている複数の領域のソーシャルワーカーを学外講師としてお招きし、専門職としての基本的な視点の習得と実習の準備を十分できるよう働きかけをしていた。</p>	<p>【福祉領域】 ・社会福祉演習I学外講師・・・4名 ・社会福祉演習II学外講師・・・4名 ・社会福祉論A学外講師・・・2名 以上の学外講師の招へいは、教育目標4.「体験学習・実習を重視し、職業人として社会に貢献できる学生を育成する」の達成に向け、「実験・実習科目の充実を図った」実績として位置づけられる。具体的な効果測定は数値では検証できないが、学生の講義後のレポートや振り返りを確認する限り、ねらいは達成されていると受け止めている。</p>
	<p>【福祉領域】 2018年度から人間科学科のみ、且つ、社会福祉士との積み上げだけではなく、単独での履修も可となった精神保健福祉士課程を、学生が適切に履修・単位取得できるよう、円滑な課程運営に努める。そのために今年度も引き続き、精神保健福祉士課程を積極的に周知し、学生の確保に努め、専門的な職業人の養成と地域社会に貢献できる学生の育成を図る。</p>	<p>【福祉領域】 福祉領域の教員及び教育支援課担当職員の連携と協力のもと、オープンキャンパス・進学相談会・学修ガイダンス等において、精神保健福祉士の資格や仕事の紹介を行い、資格の取得について積極的にアピールした。また関係教員間の定期的な打ち合わせをもち、円滑な課程運営に努めた。</p>	<p>【福祉領域】 関心をもつ学生は潜在的に一定数いるものの、なかなか履修につながらない傾向がある。要因を分析するとともに、引き続き学生の確保に努める。 【指標なし】</p>
	<p>【福祉領域】 社会福祉士課程においては、実習前に相談援助職としての基本的技能と知識を客観的に評価・確認し実習に活かすために、SGU版実習前評価システムを引き続き実施する。</p>	<p>【福祉領域】 「SGU版当事者参加型実習前評価」として、13名の市民の方々にご協力いただき、29名の実習生が模擬面接を実施した。おおむね問題なく有意義に終了した。</p>	<p>【福祉領域】 事前実習前に模擬面接を実施することの意義は経験的に確認されているが、当初の計画では実習後の再訪問・再面接により面接技術の向上と定着を企図している。2回の面接実施につき検討を継続する。</p>
	<p>【福祉領域】 精神保健福祉士課程においては、実習</p>	<p>【福祉領域】 ・江別市内の精神科病院の2カ所の見学を実施</p>	<p>【福祉領域】 ・実際の実習現場を見学することで、</p>

<p>前の「施設見学」、「地域診断」等の体験的学習の機会と発表の場等を設け、実習に活かす。</p>	<p>した。</p> <ul style="list-style-type: none"> 札幌及び地域の福祉事業所3カ所（を見学し、体験学習を行った。その後、グループでレポートを作成し、発表した。 自分の生まれ育った街についてアセスメントし、個人で発表した。 江別市を江別地区、野幌地区、大麻地区に分け、3つのグループ毎に、フィールドワークをしたり図書館で調べる等したりして、地域アセスメントし、発表した。 	<p>体験的な事前学習が可能となった。精神保健福祉士として利用者の生活支援をしていくための地域診断の必要性が理解できた。また、実際の精神保健福祉士の業務や事例の話を通じて、他職種との視点や役割の違い等もイメージができるようになった。</p> <ul style="list-style-type: none"> 個人やグループでレポートを作成したり、PPTでの発表を行ったりすることで、専門職として必要な視点やプレゼンテーション力を育てる機会となった。一方、学習やその理解については、個人や集団力動等での差異が認められ、今後もその解消に努めたい。
<p>【心理・教育領域】</p> <ul style="list-style-type: none"> 職業人として必要な、分析的・合理的な視点とプレゼンテーション能力を養うために、「心理学実験実習」において少人数教育体制を活かした指導を引き続き行う。分析的・合理的な視点のためにはレポート作成を取り入れ、プレゼンテーション能力のためには授業内での発表活動を経験させる。 学生の地域連携活動（SGU遊ベンチャー）への支援を継続し、その成果を学生の協力を得て活動報告集にまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> 「心理学実験実習Ⅰ・Ⅱ」において、データの採取と分析、結果の発表活動やレポート作成などに力点を置いた指導を引き続き行った。 学生の地域連携活動の支援を継続した結果、学生は子どもとの活動を安全・円滑に実施することができた。しかし、インフルエンザなどの影響で、活動1回をキャンセルせざるを得ず、今年度の実施は3回に留まった。 	<ul style="list-style-type: none"> 発表活動やレポート作成を通じて、学生が職業人として必要な、分析的・合理的な視点とプレゼンテーション能力を涵養する機会を与えることができた。 活動の成果について学生の協力を得て活動報告集にまとめた。 <p>「心理学実験実習Ⅰ・Ⅱ」のシラバス 【指標「SGU遊ベンチャー活動報告集」】</p>
<p>【文化領域】</p> <p>今年度から新たに実施する上ノ国町での「考古学実習」の発掘調査が円滑に進むよう努める。またその調査成果を活用して学生が学習成果を主体的に発信する機会をどのように作ることができるか検討する。</p>	<p>【文化領域】</p> <p>上ノ国町での「考古学実習」は無事終了し、地元の町民および高校生との交流を図ることもできた。学生による主体的な学習成果の発信については今後の課題として残った。</p>	<p>【文化領域】</p> <p>調査概要報告書を作成したので、次年度に関係者に配布する予定である。本年度の「考古学実習」は4名が受講し、いずれも現地調査等において熱心に学習に取り組んだ。</p> <p>「考古学実習報告書」（印刷中）</p>
<p>[1-3]</p> <p>【社会福祉士・精神保健福祉士課程】</p> <p>社会福祉士及び精神保健福祉士国家試験対策では、卒論の早期提出、夏期集中講など従来からの取り組みを徹底するとともに、社会福祉士では新たに全学共通特別演習の開講、精神保健福祉士では基礎学力の強化にむけた工夫をはかる予定である。具体的目標として、全国平均以上の合格率（社福は30%以上、PSWは65%以上）を目指す。</p> <p>また、他大学の状況を調査するなどして、効果的な試験対策のあり方を継続して検討する。</p>	<p>【社会福祉士】</p> <p>社会福祉士課程においては、昨年度から引き続き、前期社会福祉演習Ⅲ後の国試問題解説、年間4回の模擬試験の実施、専任教員による夏季集中講座の実施、東京アカデミーに委託しての対策講座の実施、外部講師による共通科目の特別講座への参加促進など、さまざまな形で試験対策を実施するとともに、卒業論文の早期提出（10月末日）についても徹底した。</p> <p>【精神保健福祉士】</p> <ul style="list-style-type: none"> 精神保健福祉士国家試験対策では、全学共通特別演習C及びDにおける受験対策、従来からの自主模試や自主勉強会を実施した。 5/10に外部講師による共通3科目（社会保障、社会システムと社会理論、福祉行財政と福祉計画）の対策講座、10/5、10/12の両日、共通科目の強化対策講座を実施した。 合格率の高い北海道医療大学、北星学園大学、北翔大学の国家試験対策について、ヒアリングを行った。 	<p>【社会福祉士】</p> <p>年間を通して手厚い対策指導を行ったつもりだが、残念ながら目標には到達しなかった。進路等の違いから学生間でモチベーションに開きがあり、団体戦で取り組むという姿勢を醸成できないことも敗因のひとつと考えられる。</p> <ul style="list-style-type: none"> 社会福祉士国家試験受験者 12名中1名合格 <p>【指標 東京アカデミーの対策講座出席簿 プリント学習提出状況】</p> <p>【指標 社会福祉士受験資格取得状況】</p> <p>【精神保健福祉士】</p> <ul style="list-style-type: none"> 精神保健福祉士国家試験対策では、講座の周知を早めに行うなどして、前年度に比べて、外部講師による対策講座の出席率が向上した。 基礎学力を含めた基本的な知識の習得のために全学共通特別演習の対策を強化する。 引き続き、前期の早い時期（5月上旬）に外部講師による共通科目の対策講座を実施して、基礎力の向上に努める。 精神保健福祉士国家試験受験者 11名中7名合格 <p>【指標 精神保健福祉士受験資格取得状況】</p>
<p>【社会福祉士・精神保健福祉士課程】</p> <p>現場の実習指導者の実習報告会への積極的な参加を呼びかける。これにより実習成果に関して現場からのフィードバックを得るとともに、実習指導者・学</p>	<p>【社会福祉士課程】</p> <p>実習修了生27名による実習報告会を12月21日午後に学内で開催した。全実習施設に案内を送付し、実習指導者も3名程度の参加があった。また全体の総評として学外講師（寺田香</p>	<p>【社会福祉士課程】</p> <p>ほぼ例年通りの内容・質で実施できた。</p> <p>「実習報告会プログラム」※現物提出</p>

<p>生・教員間の連携を図る。</p> <p>また、昨年度検討課題となった実習指導者の実習報告会参加に係る交通費については他大学の状況を鑑みて次年度の予算要求を行うこととする。</p>	<p>氏：非常勤講師／北翔大学教員）からの講話をいただいた。なお、卒業生交流会は人間科学科及び厚生労働省のカリキュラム改変の関係から実施を見送り、開催の時期と方法については引き続き検討することとした。</p>	
<p>【社会福祉士・精神保健福祉士課程】</p> <p>精神保健福祉士課程においては、実習指導者打合せ会と実習報告会を実施する。</p> <p>また、実習報告会終了後、実習指導者と教員間で実習の振り返りを行い、今後の課題等の共有化を図るなどして連携する。</p>	<p>【精神保健福祉士課程】</p> <ul style="list-style-type: none"> 精神保健福祉士課程の学生 12 人と、実習指導者による打合せ会を 5 月 21 日に行った。実習施設 24 カ所のうち、実習指導者 20 人が出席した。 実習終了後、12 月 3 日に実習報告会を開催し、実習指導者 10 名が参加した。学生の報告後、実習指導者との懇談の機会を設け、学生の実習内容や実習方法等について共有した。 今年度、実習を中断した学生についても、個人情報保護に留意しながら情報交換を行った。学生の多様化（個別な課題を抱える学生）に伴う実習指導の困難や課題をを解決するための方策や、今後に向けての連携方法等を確認した。 精神保健福祉士課程の実習報告会については、次年度の予算に実習指導者の出席のための交通費等を計上することができた。 	<p>【精神保健福祉士課程】</p> <ul style="list-style-type: none"> 実習打ち合わせ会および実習報告会は、例年通り実施できた。 現場の実習指導者からのフィードバックは今後の演習や実習指導を行う上で重要な情報となることから、引き続き実習指導者との連携を図り、実習打ち合わせ会および実習報告会に参加しやすい環境を整える。 実習指導者と教員間だけでなく、学生支援課等とも連携して実習が完結できるように努めたい。万一、継続が困難な学生が生じた場合の対応や連携についても、実習先や実習指導者等と緊密に情報共有する等して、対応に努める。
<p>【社会福祉士・精神保健福祉士課程】</p> <p>「福祉実習準備室」の学生利用が促進されるよう、室内の資料の充実、自習しやすい環境整備を進めるとともに、安全性等を考慮した上で開放時間を延ばし且つ明示して、両課程の意欲ある学生ができるだけ自由に活用できる運営方法を模索する。</p>	<p>【社会福祉士・精神保健福祉士課程】</p> <ul style="list-style-type: none"> 昨年から引き続き、実習準備室前のホワイトボードを活用しての情報発信や交流を意識的に実施した。 教員およびパート不在時の開錠を警備にお願いしたことにより、特に PSW 課程（臨床心理学科）の学生を中心に一定の利用は見られた。 扇風機を 2 台購入して、夏の暑さが少し解消される環境が整備された。 	<p>【社会福祉士・精神保健福祉士課程】</p> <p>利用が限定的になっている社会調査室や社会調査資料室とともに改装し、レイアウトの変更や什器備品の交換について大学側に要求していきたい。そうしなければこれ以上学生の利用状況が改善することは難しいだろう。</p> <p>【指標なし】</p>
<p>【学芸員課程】</p> <p>学芸員資格課程を円滑に実施し、学生の資格取得を進めるとともに、講義・実習を通して博物館・生涯教育・文化財に関連する進路への意欲を高める。</p>	<p>講義・実習の双方において、カリキュラムを円滑に実施し、履修学生の資格取得が進んだ。講義では、博物館見学など自主的な取り組みを促す課題を出し、意欲向上に取り組んだ。また、学芸員課程履修生の文化財関連地域連携事業の参加を実施し、博物館活動・生涯教育・文化財への関心を高める取り組みを行った。</p>	<p>カリキュラムの円滑な運営により、今年度は 9 名（人間科学科 8 名、他学科 1 名）の学生が資格を取得した。今後も、教育方法・学習指導を見直しつつ、資格を活かした進路を検討し、人材の育成につとめる。</p>
<p>【教職課程】</p> <ul style="list-style-type: none"> 人間科学科生の教員免許取得と採用機会の更なる拡大を目指し、現役生および卒業生に対して合格への意欲を喚起させる取組を引き続き強める。 こども発達学科と結んだ小学校教員免許の取得に関わる「他学科教員免許履修制度（副免）」について、両学科間の調整の下、円滑に運営する。 特別支援学校教諭一種免許課程における履修指導と、教育実習の事前指導を引き続き充実させる。 「特別支援学校教育実習連絡協議会」において、他大学並びに特別支援学校長会と緊密に連携しながら、引き続き「特別支援教育実習」の円滑な推進を図る。 	<ol style="list-style-type: none"> 人間科学科の教職課程履修者数は、本年度 4 年生 14 名、3 年生 23 名、2 年生 16 名、1 年生 8 名の計 61 名であった。全学の履修者（347 名）の凡そ 17.6%となる。4 年生の内、教育実習を履修した学生（実履修数）は 7 名、教員免許を取得した学生は 6 名である。 教員採用の合格者は、現役生については今年度 0 名、既卒生（H12、高校地歴）1 名であった。期限付教員として奮闘している卒業生や教職をめざす現役生に対して合格への意欲を喚起させる取組が引き続き必要である。 SGU 教師教育研究協議会の開催等を通じ、現役生および期限付き教員として奮闘している卒業生に対して合格への意欲を喚起させる取組を強めることができた。SGU 教師教育研究協議会への人間科学科学生の参加は、26 名（全学で 107 名中）であった。 小学校教員免許取得のための「他学科教員免許履修制度」について、十分な調整及び学生への案内を行った。今年度は H19 の学生が 1 名履修を希望し、合格と判定された。 特別支援学校教諭一種免許課程における「特別支援教育実習」の 3 年次履修、4 年次履修の履修条件に基づく判定と、学生に対する事前指導を充実させることができた。 「特別支援学校教育実習連絡協議会」において、他大学並びに特別支援学校長会と緊密に連携しながら、「特別支援教育実習」の円滑な推進を図ることができた。 	<ol style="list-style-type: none"> 【SGU 教師教育研究第 34 号・p.82～84】 【第 9 回教職課程委員会・報告 1】 【第 9 回教職課程委員会・報告 2】 【第 11 回教職課程委員会・審議 4】 【第 8 回教職課程委員会・審議 5】、【第 11 回教職課程委員会・審議 3】 【第 1 回教職課程委員会・審議 2】
[1-4]	[1-4]	[1-4]

4-3. 教育方法

	<ul style="list-style-type: none"> ・学部学生への教育の一環という SA の制度の趣旨に立ち戻り、適切な教育効果が得られているか、過度な責任や負荷を負わされていないかを検討する。年度が改まるなか、この点について引き続きしかるべき機関に問題提起するとともに全学的な共通理解の形成を図る。 ・領域ごとの特性を生かしつつ、多くの学科教員・学生が参加・交流できるような卒論発表会のあり方を検討・実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎ゼミ担当教員会議での議論などを踏まえ、SA 制度を学部学生教育の一環という視点でとらえたうえで、引き続き全学的な「SA 研修」の動向を注視した。 ・卒論発表会は、領域ごとの特性に応じ、ポスター発表、口頭発表などさまざまな形式で、在学生の参加も得ながら実施した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・SA が下級生に過度に依存されたり教員からのハラスメントを受けたりすることなく、本来の任務を果たし本人の向上を図れるよう、さらに検討する必要があることは、全学的に理解されつつある。 ・卒論発表会の運営方法と効果については学科内での共通理解の形成が進んだ。【指標 学科会議資料】
2020年度	<p>年次計画内容</p> <p>[1-1] 【基礎ゼミナール】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大学生活を始めるにあたって新入生の不安を取り除き、スムーズに履修登録ができるよう、個々の学生に合わせたきめ細やかなサポートをおこなう。 ・授業のねらいと到達目標が達成されるよう、クラス担任間で密に連携しながら授業計画を実施する。 ・1 年次後期の入門演習選択に向けて、レイターマッチング・サポートを適切におこなう。 ・定期的にクラス担任間で担当者会議を開催し、学生の状況や教育上の課題を共有して解決策を考える。 ・引き続き SA の適切な活用に努める。 <p>【入門演習】新カリキュラム開始に伴い、3 専攻の入門的な演習として開講された。初年次の計画は以下のとおりである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各専攻が学生の興味関心を十分に喚起し、専攻の学修の導入に相応しい内容を工夫する。 ・学修の補助に加えて、学年間の縦の関係を促進し、2 年次以降の学修の見通しを持てるように、SA の活用方法をさらに工夫する。 ・年度末には、レイターマッチングによる入門演習選択過程の効果と課題を検証する。 <p>【基礎ゼミ C】基礎ゼミ C は最終年度となるが従来どおり課題の設定、文献や資料の蒐集、検討、それに基づく報告、討議を通して、大学での学びに必要な基礎的能力を養う。各ゼミにおいて報告・検討された内容は、各ゼミが報告等の形でまとめ、論理的な記述や他者に伝える力の育成をはかる。学生の個別的な学修状況等を把握し、クラスでの成果を高めるために教員間の打ち合わせを適宜行い、SA 間の情報共有の機会をもつ。また、カリキュラム上の位置づけをより明確化するため、運営手法、目的等の検討を行い、最終回に成果報告の場を設ける。遠隔授業においても学生情報の把握、ゼミ運営を適切に行うように担任・SA が緊密に連携する。</p> <p>[1-2] 【ソーシャルワーク専攻】教育目標 4. 「体験学習・実習を重視し、職業人として社会に貢献できる学生を育成する」の達成に向け、福祉の現場の具体的なイメージや専門職観を醸成すべく、学外講師を積極的に招へいする。</p> <p>【ソーシャルワーク専攻】2018 年度から人間科学科のみ、且つ、社会福祉士との積み上げだけではなく、単独での履修も可となった精神保健福祉士課程を、学生が適切に履修・単位取得できるよう、円滑な課程運営に努める。そのために今年度も引き続き、精神保健福祉士課程を積極的に周知し、学生の確保に努め、専門的な職業人の養成と地域社会に貢献できる学生の育成を図る。</p> <p>【ソーシャルワーク専攻】社会福祉士課程においては、実習前に相談援助職としての基本的技能と知識を客観的に評価・確認し実習に活かすために、SGU 版実習前評価システムを引き続き実施する。</p> <p>【ソーシャルワーク専攻】精神保健福祉士課程においては、実習前の「施設見学」等の体験的学習の機会と発表の場等を設け、実習に活かす。</p> <p>【心理・教育専攻】入門演習において、体験学習・実習を重視し、職業人として社会に貢献できる学生を育成することを意識した教育プログラムを実施する。</p> <p>【地域文化専攻】新カリキュラムで新たに設置された「地域文化入門演習」「デジタルアーカイブ論」などの円滑な運営に努める。学科としてのレイターマッチングの円滑な実施に協力する。</p> <p>【社会領域】「社会調査法」では、社会調査の方法を習得するために体験的な学習の機会を設ける。「フィールドワーク」では、対象地域の人びとと直接かかわり、地域社会やそこに暮らす人びとが抱える諸問題を体験的に把握するために、現地調査を実施する。</p> <p>【福祉領域】教育目標 4. 「体験学習・実習を重視し、職業人として社会に貢献できる学生を育成する」の達成に向け、福祉の現場の具体的なイメージや専門職観を醸成すべく、学外講師を積極的に招へいする。</p> <p>【福祉領域】2018 年度から人間科学科のみ、且つ、社会福祉士との積み上げだけではなく、単独での履修も可となった精神保健福祉士課程を、学生が適切に履修・単位取得できるよう、円滑な課程運営に努める。そのために今年度も引き続き、精神保健福祉士課程を積極的に周知し、学生の確保に努め、専門的な職業人の養成と地域社会に貢献できる学生の育成を図る。</p> <p>【福祉領域】社会福祉士課程においては、実習前に相談援助職としての基本的技能と知識を客観的に評価・確認し実習に活かすために、SGU 版実習前評価システムを引き続き実施する。遠隔授業（前期）のため模擬面接は中止となったが可能な限りその代替的手段をとる。</p> <p>【福祉領域】精神保健福祉士課程においては、実習前の「施設見学」等の体験的学習の機会と発表の場等を設け、実習に活かす。</p> <p>【心理・教育領域】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・職業人として必要な分析的・合理的な視点とプレゼンテーション能力を養うために、「心理学実験実習」において少人数教育体制を活かした指導を引き続き行う。分析的・合理的な視点のためにはレポート作成を取り入れ、プレゼンテーション能力のためには授業内での意見交換や、発表活動を経験させるよう努める。 ・学生の地域連携活動（SGU 遊ベンチャー）への支援を継続し、その成果を学生の協力を得て活動報告集にまとめる。 <p>【文化領域】旧カリ年度学生の受講権の保証に配慮しつつ、移行措置を進める。またコロナウィルスの感染が拡大するなかで、「考古学実習」の実施のありかたについて現地と密接に連絡を取りながら検討する。</p> <p>[1-3] 【社会福祉士・精神保健福祉士課程】社会福祉士及び精神保健福祉士国家試験対策では、卒論の早期提出、夏期集中講など従来からの取り組みを徹底するとともに、社会福祉士では引き続き全学共通特別演習の開講、精神保健福祉士では基礎学力の強化にむけた工夫を昨年に引き続きはかる予定である。また四年生には学習計画書の作成を促すとともに、国家試験受験意欲を引き上げ継続させるためのガイダンスの定期的な開催を行う。学習意欲を持った学生集団形成のサポートにも取り組む。具体的目標として、全国平均以上の合格率（社福は 30%以上、PSW は 65%以上）を目指す。また、他大学の状況を調査するなどして、効果的な試験対策のあり方を継続して検討する。</p> <p>【社会福祉士・精神保健福祉士課程】現場の実習指導者の実習報告会への積極的な参加を呼びかける。これにより実習成果に関し</p>		

て現場からのフィードバックを得るとともに、実習指導者・学生・教員間の連携を図る。 なお、今年度の社会福祉士実習報告会は、OBOG 交流会との合同開催を予定している。実施方法や内容について検討し、なるべく多くの OBOG に参加していただきたいと考えている。
【社会福祉士・精神保健福祉士課程】 精神保健福祉士課程においては、実習指導者打合せ会と実習報告会を実施する。 また、実習報告会終了後、実習指導者と教員間で実習の振り返りを行い、今後の課題等の共有化を図るなどして連携する。
【社会福祉士・精神保健福祉士課程】 「福祉実習準備室」の学生利用が促進されるよう、室内の資料の充実、自習しやすい環境整備を進めるとともに、安全性等を考慮した上で開放時間を延ばし且つ明示して、両課程の意欲ある学生ができるだけ自由に活用できる運営方法を模索する。
【学芸員課程】 学芸員資格課程を円滑に実施し、学生の資格取得を進めるとともに、講義・実習を通して博物館・生涯教育・文化財に関連する進路への意欲を高める。
【教職課程】 <ul style="list-style-type: none"> ・国や自治体による新型コロナウイルス感染予防対策を遵守し、教育実習指導の延期等に柔軟に対応するため、人間科学科指導教員と緊密に連携して学生指導にあたる。 ・人間科学科生の教員免許取得と採用機会の更なる拡大を目指し、現役生および期限付き教員として奮闘している卒業生に対して合格への意欲を喚起させる取組を引き続き強める。免許統合などの政策動向を注視しながら、こども発達学科と結んだ小学校教員免許の取得に関わる「他学科教員免許履修制度（副免）」の協定を両学科間の調整の下、円滑に運営し、その指導の安定的な運用を計る。 ・特別支援学校教諭一種免許課程における「特別支援教育実習」の3年次履修、4年次履修の履修条件に基づく判定と、学生に対する事前指導を引き続き充実させる。 ・「特別支援学校教育実習連絡協議会」において、他大学並びに特別支援学校長会と緊密に連携しながら、引き続き「特別支援教育実習」の円滑な推進を図る。 ・本学の北海道特別支援学校教育実習連絡協議会の幹事校業務（2025年度～2027年度）を見据え、業務内容等を把握、必要な準備を進める。
[1-4] <ul style="list-style-type: none"> ・学部学生への教育の一環という SA の制度の趣旨に立ち戻り、適切な教育効果が得られているか、過度な責任や負荷を負わされていないかを検討する。とくに今年度は遠隔授業が実施されるなか、ゼミ生により近い立場にある SA の存在感が大きくなると予想されるので、その的確な評価について、引き続き全学的な理解の醸成に努める。 ・領域ごとの特性を生かしつつ、多くの学科教員・学生が参加・交流できるような卒論発表会のあり方を検討・実施する。

中期計画【計画2】（目標2に対応する計画）		達成度評価指標【指標2】
[2-1] 授業の内容、到達目標、授業内容・方法、授業計画、成績評価方法等必要な事項を明記したシラバスを作成する。 [2-2] 授業内容・方法とシラバスとの整合性を検証し、維持する。		[2-1,2-2 共通] ①シラバス作成ガイドラインとの一致度調査 ②教員によるシラバスに基づいた講義実施状況達成度調査 ③学生による授業評価アンケート
2019年度	年次計画内容	計画実施状況
	[2-1] 今年度も「シラバス作成ガイドライン」を全教員に配布し、適正なシラバス作成に努力する。	[2-1] 授業の内容、到達目標、授業内容・方法、授業計画、成績評価方法等必要な事項を明記したシラバスを作成するよう、教授会で依頼するとともに、記述内容が適正か自己点検するためのチェックリストを盛り込んだ「シラバス作成ガイドライン」を全教員に配布した。
	[2-2] 「新入生意識調査」や「学生による授業評価アンケート」以外に授業内容・方法とシラバスの整合性を検証する適切な手段があるか否か、検討を進める。	[2-2] 「新入生意識調査」「学生による授業評価アンケート」では、これまでと同様、授業内容・方法とシラバスとの整合性を問う設問がないので、検証することができなかった。ただ、「新入生意識調査」の自由記述欄をみると、この点についての記述がないことから、両者の整合性についてはとくに大きな問題がないと考えられる。
		指標に基づく中期目標の達成状況
		[2-1] ガイドラインに基づき各教員がシラバスの向上に努めた。 【指標「シラバス作成ガイドライン」】
		[2-2] 学生による授業評価アンケートや「新入生意識調査」の自由記述欄のほかに、授業内容・方法とシラバスとの整合性を検証する必要があるか否か検討を進める。 【指標「2019年度新入生意識調査の集計結果」2020年3月12日 全学教務委員会資料】 【指標「学生による授業評価アンケート 2019年度前期・後期」】
2020年度	年次計画内容	
	[2-1] 今年度も「シラバス作成ガイドライン」を全教員に配布し、適正なシラバス作成に努力する。	
	[2-2] 「新入生意識調査」や「学生による授業評価アンケート」以外に授業内容・方法とシラバスの整合性を検証する適切な手段があるか否か、検討を進める。	

中期計画【計画3】（目標3に対応する計画）		達成度評価指標【指標3】
[3-1] 科目の特質に応じて多面的な評価を採用するとともに、評価方法・基準をシラバスに明記し、それに従った評価を行う。 [3-2] 講義の事前・事後学習も含めて学生の学修時間を確保し、単位の実質化を図ることができる教育方法、学修指導を行う。		[3-1] ①シラバス作成ガイドラインとの一致度調査（成績評価方法の記載状況） ②教員によるシラバスに基づいた講義実施状況達成度調査 ③学生による授業評価アンケート [3-2] ①シラバス作成ガイドラインとの一致度調査（事前・事後学習の記載状況） ②学生による授業評価アンケート
2019年度	年次計画内容	計画実施状況
	[3-1] 昨年度に引き続き、作成されたシラバスを調査し、どのような評価法・基準が採用されているか	[3-1] 成績評価方法・基準がシラバスに明記されているか否かについてシラバスチェックを行った。
		指標に基づく中期目標の達成状況
		[2-1] ガイドラインに基づき各教員がシラバスを自己点検した。 【指標「シラバス作成ガイドライン」】

4-3. 教育方法

	を把握する。		
	[3-2] 講義の事前・事後学習が行われている授業を選び、工夫している点を明らかにする。	[3-2] 学生による授業評価アンケートにおいて、事前事後学習をしていると答えた学生の割合が多かった教員2名を選び、ヒアリングを実施して、工夫している点などを公表するとともに、教務委員の所見を記した。	[3-2] 今年も学生による授業評価アンケートから、2つの事例を取り上げ、学科教員間で共有した。今後も、これを積み重ねていき、学生の時間外学習を増やす努力を継続していきたい。 【指標「2018年度「学生による授業評価アンケート」の結果分析(2019/7/11)」※第4回(7月)教務委員会資料】
2020年度	年次計画内容		
	[3-1] 昨年度に引き続き、作成されたシラバスを調査し、どのような評価法・基準が採用されているかを把握する。		
	[3-2] 講義の事前・事後学習が行われている授業を選び、工夫している点を明らかにする。		

中期計画【計画4】(目標4に対応する計画)			達成度評価指標【指標4】
[4-1] 教育効果について、既存の指標を用いて定期的に検証する。 [4-2] 教育効果を上げるために、教育内容・方法について、FD等を通じて組織的な改善の取り組みを行い、さらなる教育成果の向上を図る。			[4-1,4-2 共通] ①意識調査・学修行動調査 ②入学年度別単位修得状況分布・推移 ③入学年度別GPA分布・推移 ④入学年度別学位授与状況 ⑤進路決定状況 2 学科FDの実施状況
2019年度	年次計画内容	計画実施状況	指標に基づく中期目標の達成状況
	[4-1] 学修行動調査については、教務部と協議しつつ学科としての方針をもって調査の方法と内容を改める。	[4-1] 今年度人間科学科では、全学の学修行動調査および意識調査の設問のなかから、学生の人権および就学意欲に悪影響を及ぼすおそれのある設問をいくつか削除した。	[4-1] その後の集計結果を見るかぎり、人間科学科が実施しなかった設問からはそれほど有効な分析を引き出すことができず、本学科の対応は適切だったと判断される。 【指標「2019年度新入生意識調査の集計結果」2020年3月12日 全学教務委員会資料】
	[4-2] 一昨年度から定期的実施している学科FDにおいて、教育効果を上げる要因について明らかにする努力を継続する。	[4-2] 毎月の学科会議で学科FDをおこなった。第1回「2018年度卒業論文発表会の総括」(4月)、第2回「新入生の入学前課題」「新入生ガイダンス」(5月)、第3回「人間科学基礎ゼミナールA・Cの運営」(6月)、第4回「人間科学基礎ゼミナールAのNHK大学セミナーの参加とキャリア形成の課題」(7月)、第5回「高校訪問に伴う情報共有」(9月)、第6回「人間科学基礎論」(10月)、第7回「基礎ゼミナールの内容と運営①」(11月)、第8回「基礎ゼミナールの内容と運営②」(12月)、第10回「新カリキュラム以降の学生指導、専攻の運営」(2月)、第11回「2019年度基礎ゼミナールA・Bの総括」(3月)。	新カリキュラム開始の準備に伴い、学科共通科目の演習授業の目的と効果的な教育方法について重点的に検討できた。これからも引き続き、学科FDを実施して教育効果を上げる要因について明らかにする。 「2019年度学科会議資料(学科FD)」
2020年度	年次計画内容		
	[4-1] 学修行動調査にかんする昨年度の学科独自の改革の成果を継承し、学生の人権と就学意欲を尊重したかたちでの調査を実施する。		
	[4-2] 定期的実施している学科FDにおいて、教育効果を上げる要因について明らかにする努力を継続する。		

(5) 人文学部英語英米文学科

中期計画【計画1】(目標1に対応する計画)			達成度評価指標【指標1】
[1-1] 学生の講義への主体的参加を促す授業のあり方を検証する。 [1-2] 本学の学習環境の活用を検証し、学習指導を充実させる。			[1-1] ①学生による授業評価アンケート ②入学年度別単位修得状況分布・推移 ③入学年度別GPA分布・推移 [1-2] 教室利用状況一覧
2019年度	年次計画内容	計画実施状況	指標に基づく中期目標の達成状況
	[1-1] SAの活動、グループワークの採用、卒業論文の取り組み等について現状を分析し、学生の講義への主体的参加を促す方法を継続して検証する。	今年度は、English Writingの科目でのSAの取り組みとその課題について、学科教員間で情報共有を行った。活動が教室内に限定されることによる問題点が指摘され、より効果的な活用について意見交換を行った。	SAの取り組みとその課題について意見交換を行うことができた。次年度はその議論を生かした運用を行う。 【指標 2019年度第1回学科会議資料「SAの採用について」】
	[1-2] 本学の学習環境を効果的に利用している教員に、学科会議において利用状況の報告を継続して依頼する。	学科内で多目的教室を利用する教員が増えているということはないが、一般教室においても工夫次第で学生の能動的な参加を促すことができることが、学科会議で紹介された。	本学の学習環境の効果的な利用について、情報共有を継続する。 【指標 2019年度第10回学科会議資料「2020年度時間割について(教室入り)」/2019年度第4回学科会議資料「学生による授業評価アンケートの組織的活用について」】
2020年度	年次計画内容		
	[1-1] SAの活動、グループワークの採用、卒業論文の取り組み等について現状を分析し、学生の講義への主体的参加を促す方法を継続して検証する。		

[1-2]	本学の学習環境の効果的な利用について、情報共有を継続して行う。また前期における遠隔授業についても検証を行う。
-------	--

中期計画【計画2】(目標2に対応する計画)		達成度評価指標【指標2】				
[2-1] 授業内容、到達目標、授業の進め方、授業計画、成績評価方法など必要事項を明記したシラバスを作成する。		①シラバス作成ガイドラインとの一致度調査 ②学生による授業評価アンケート				
2019年度	<table border="1"> <thead> <tr> <th>年次計画内容</th> <th>計画実施状況</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>[2-1] シラバス作成の留意事項について学科会議においても注意喚起し、必要事項が明記された適切なシラバス作成を目指す。</td> <td>シラバス作成の留意事項について、学科会議の場での注意喚起は行わなかったが、「シラバス作成ガイドライン」で丁寧な説明がなされ、各教員が適切なシラバス作成につとめた。また今年度より「事前事後学習」の項目が、週ごとに記載することが必須となり、全シラバスで時間外学習に関する具体的な記載を行った。</td> </tr> </tbody> </table>	年次計画内容	計画実施状況	[2-1] シラバス作成の留意事項について学科会議においても注意喚起し、必要事項が明記された適切なシラバス作成を目指す。	シラバス作成の留意事項について、学科会議の場での注意喚起は行わなかったが、「シラバス作成ガイドライン」で丁寧な説明がなされ、各教員が適切なシラバス作成につとめた。また今年度より「事前事後学習」の項目が、週ごとに記載することが必須となり、全シラバスで時間外学習に関する具体的な記載を行った。	指標に基づく中期目標の達成状況 今年度も適切なシラバス作成へ向けた取り組みを継続した。 【指標 シラバス作成ガイドライン】
年次計画内容	計画実施状況					
[2-1] シラバス作成の留意事項について学科会議においても注意喚起し、必要事項が明記された適切なシラバス作成を目指す。	シラバス作成の留意事項について、学科会議の場での注意喚起は行わなかったが、「シラバス作成ガイドライン」で丁寧な説明がなされ、各教員が適切なシラバス作成につとめた。また今年度より「事前事後学習」の項目が、週ごとに記載することが必須となり、全シラバスで時間外学習に関する具体的な記載を行った。					
2020年度	<table border="1"> <thead> <tr> <th>年次計画内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>[2-1] シラバス作成の留意事項について学科会議においても注意喚起し、必要事項が明記された適切なシラバス作成を目指す。</td> </tr> </tbody> </table>	年次計画内容	[2-1] シラバス作成の留意事項について学科会議においても注意喚起し、必要事項が明記された適切なシラバス作成を目指す。			
年次計画内容						
[2-1] シラバス作成の留意事項について学科会議においても注意喚起し、必要事項が明記された適切なシラバス作成を目指す。						

中期計画【計画3】(目標3に対応する計画)		達成度評価指標【指標3】						
[3-1] 科目の特質に応じて多面的な評価を採用するとともに、評価方法・基準をシラバスに明記し、それに従った評価を行う。 [3-2] 講義の事前・事後学習も含めて学生の修学時間を確保し、単位の実質化を測ることができる教育方法、修学指導を行う。		[3-1] 成績評価方法の記載状況一覧 [3-2] ①シラバス作成ガイドラインとの一致度調査(事前・事後学習の記載状況) ②学生による授業評価アンケート						
2019年度	<table border="1"> <thead> <tr> <th>年次計画内容</th> <th>計画実施状況</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>[3-1] 科目の特質に応じた多面的な評価について検証を行う。また学習者の目標意識が高まる評価方法について、引き続き検討する。</td> <td>「学生による授業評価アンケートの組織的活用」において、2名の教員に報告を依頼した。受講生の参加度を促すために、意見を引き出す質問の仕方を工夫することや、質問へのフィードバックを効果的に行うことなどが紹介され、学習者の意欲を高める評価方法について、学科教員間で情報共有を行うことができた。</td> </tr> <tr> <td>[3-2] 今年度も学生による授業評価アンケートを参照し、時間外学習の取り組みに関して、学科会議での情報共有を継続して行う。</td> <td>「学生による授業評価アンケートの組織的活用」において、課題へのアクセスのし易さの効果について報告がなされ、スマートフォンのQRコードやグーグルフォームの活用について、学科教員間で情報共有を行うことができた。</td> </tr> </tbody> </table>	年次計画内容	計画実施状況	[3-1] 科目の特質に応じた多面的な評価について検証を行う。また学習者の目標意識が高まる評価方法について、引き続き検討する。	「学生による授業評価アンケートの組織的活用」において、2名の教員に報告を依頼した。受講生の参加度を促すために、意見を引き出す質問の仕方を工夫することや、質問へのフィードバックを効果的に行うことなどが紹介され、学習者の意欲を高める評価方法について、学科教員間で情報共有を行うことができた。	[3-2] 今年度も学生による授業評価アンケートを参照し、時間外学習の取り組みに関して、学科会議での情報共有を継続して行う。	「学生による授業評価アンケートの組織的活用」において、課題へのアクセスのし易さの効果について報告がなされ、スマートフォンのQRコードやグーグルフォームの活用について、学科教員間で情報共有を行うことができた。	指標に基づく中期目標の達成状況 引き続き、学習者の目的意識が高まる評価方法について、学科で問題意識を共有する。 【指標 2019年度第4回学科会議資料「学生による授業評価アンケートの組織的活用について」】 次年度も引き続き、授業評価アンケートを参照し、学科会議での情報共有を継続して行う。 【指標 2019年度第4回学科会議資料「学生による授業評価アンケートの組織的活用について」】
年次計画内容	計画実施状況							
[3-1] 科目の特質に応じた多面的な評価について検証を行う。また学習者の目標意識が高まる評価方法について、引き続き検討する。	「学生による授業評価アンケートの組織的活用」において、2名の教員に報告を依頼した。受講生の参加度を促すために、意見を引き出す質問の仕方を工夫することや、質問へのフィードバックを効果的に行うことなどが紹介され、学習者の意欲を高める評価方法について、学科教員間で情報共有を行うことができた。							
[3-2] 今年度も学生による授業評価アンケートを参照し、時間外学習の取り組みに関して、学科会議での情報共有を継続して行う。	「学生による授業評価アンケートの組織的活用」において、課題へのアクセスのし易さの効果について報告がなされ、スマートフォンのQRコードやグーグルフォームの活用について、学科教員間で情報共有を行うことができた。							
2020年度	<table border="1"> <thead> <tr> <th>年次計画内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>[3-1]科目の特質に応じた多面的な評価について検証を行う。また学習者の目標意識が高まる評価方法について、引き続き検討する。</td> </tr> <tr> <td>[3-2] 今年度も学生による授業評価アンケートを参照し、時間外学習の取り組みに関して、学科会議での情報共有を継続して行う。</td> </tr> </tbody> </table>	年次計画内容	[3-1]科目の特質に応じた多面的な評価について検証を行う。また学習者の目標意識が高まる評価方法について、引き続き検討する。	[3-2] 今年度も学生による授業評価アンケートを参照し、時間外学習の取り組みに関して、学科会議での情報共有を継続して行う。				
年次計画内容								
[3-1]科目の特質に応じた多面的な評価について検証を行う。また学習者の目標意識が高まる評価方法について、引き続き検討する。								
[3-2] 今年度も学生による授業評価アンケートを参照し、時間外学習の取り組みに関して、学科会議での情報共有を継続して行う。								

中期計画【計画4】(目標4に対応する計画)		達成度評価指標【指標4】						
[4-1] 教育目標の達成に向けて効果的な教育内容・方法を検証する。 [4-2] 教育効果を上げるために、教育内容・方法について、FD等を通じて改善の取り組みを行い、さらなる教育成果の向上を図る。		[4-1,4-2 共通] ①入学年度別単位修得状況分布・推移 ②入学年度別GPA分布・推移 ③入学年度別学位授与状況 ④進路決定状況 ⑤学部・学科FD、FD研究会等実施状況						
2019年度	<table border="1"> <thead> <tr> <th>年次計画内容</th> <th>計画実施状況</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>[4-1] 学習成果を把握し評価するため、4年生の成績、英語プレイスメントテストとTOEICのスコア、留学状況、進路決定状況などさまざまなデータから、教育効果の検証と分析を継続する。</td> <td>複数の資料に基づき、4年生の修学状況、TOEIC・英検、海外留学等、進路決定状況との関連性を検証した。また来年度から開始する修学ポートフォリオでは、1~3年生は各学年で英語の資格について前年度の振り返りを行うこととした。</td> </tr> <tr> <td>[4-2] 学科会議において、FD実施状況についての情報共有を継続し、教育方法の改善に努める。</td> <td>今年度も「10分FD」を継続して行い、「学科の3つのポリシー」、「学科の入学生の状況」、「授業改善の取り組み」等、幅広いテーマを扱った。「授業改善の取り組み」では具体的な</td> </tr> </tbody> </table>	年次計画内容	計画実施状況	[4-1] 学習成果を把握し評価するため、4年生の成績、英語プレイスメントテストとTOEICのスコア、留学状況、進路決定状況などさまざまなデータから、教育効果の検証と分析を継続する。	複数の資料に基づき、4年生の修学状況、TOEIC・英検、海外留学等、進路決定状況との関連性を検証した。また来年度から開始する修学ポートフォリオでは、1~3年生は各学年で英語の資格について前年度の振り返りを行うこととした。	[4-2] 学科会議において、FD実施状況についての情報共有を継続し、教育方法の改善に努める。	今年度も「10分FD」を継続して行い、「学科の3つのポリシー」、「学科の入学生の状況」、「授業改善の取り組み」等、幅広いテーマを扱った。「授業改善の取り組み」では具体的な	指標に基づく中期目標の達成状況 今年度も複数のデータを基に検証を進めることができた。 【指標 2019年度第1回英語英米文学科会議「新入生プレイスメントテストの結果について」/2019年度第3回英語英米文学科会議「第1回TOEIC-IP実施結果について」/2019年度第5回英語英米文学科会議「第2回TOEIC-IP実施結果について」/「英文講読B・Dクラス編成試験結果について」/「留学・観光英語Bの履修者について」/2019年度第8回英語英米文学科会議「第3回TOEIC-IP試験結果について」/2019年度第9回英語英米文学科会議「プレイスメントテストIIの結果について」/「英文講読Cのクラス編成試験結果について」/「英文講読Dの期末TOEIC模試の結果について」/2019年度第10回英語英米文学科会議「内定状況について」/「第4回TOEIC-IP試験実施結果について」/「半期海外留学生選考について」/「4年生取得単位・GPA一覧」】 「10分FD」を実施し、定期的な意見交換を行うことができた。来年度以降も同様の取り組みを充実させていきたい。 【指標 「10分FD報告書」(4月)/「10分FD
年次計画内容	計画実施状況							
[4-1] 学習成果を把握し評価するため、4年生の成績、英語プレイスメントテストとTOEICのスコア、留学状況、進路決定状況などさまざまなデータから、教育効果の検証と分析を継続する。	複数の資料に基づき、4年生の修学状況、TOEIC・英検、海外留学等、進路決定状況との関連性を検証した。また来年度から開始する修学ポートフォリオでは、1~3年生は各学年で英語の資格について前年度の振り返りを行うこととした。							
[4-2] 学科会議において、FD実施状況についての情報共有を継続し、教育方法の改善に努める。	今年度も「10分FD」を継続して行い、「学科の3つのポリシー」、「学科の入学生の状況」、「授業改善の取り組み」等、幅広いテーマを扱った。「授業改善の取り組み」では具体的な							

4-3. 教育方法

		教育方法の改善について情報共有を行うことができた。また「3つのポリシー」については今後のカリキュラム改革を見据えて、教育方法に関して意見交換を行うことができた。	報告書」(5月) / 「10分FD報告書」(6月) / 「10分FD報告書」(7月) / 「10分FD報告書」(10月)】
2020年度	年次計画内容		
	[4-1] 学習成果を把握し評価するため、4年生の成績、英語プレイスメントテストとTOEICのスコア、留学状況、進路決定状況などさまざまなデータから、教育効果の検証と分析を継続する。		
	[4-2] 学科会議において、FD実施状況についての情報共有を継続し、教育方法の改善に努める。		

(6) 人文学部こども発達学科

中期計画【計画1】(目標1に対応する計画)			達成度評価指標【指標1】
	[1-1] 教育目標の達成に向けた授業形態(講義・演習・実習等)の実施を検証する。 [1-2] 学習指導の充実を図るとともに、本学の新しい学習環境を活用し、学生主体の双方向の授業形態について検討する。		[1-1、1-2 共通] ①学生による授業評価アンケート(全学) ②入学年度別単位修得状況分布・推移(全学) ③入学年度別GPA分布・推移(全学)
2019年度	年次計画内容	計画実施状況	指標に基づく中期目標の達成状況
	[1-1] 教育目標の達成に向けた授業形態について学生による授業評価アンケートや教職員の授業評価とGPAなどで検証する。	教職員の授業評価とGPAなどの達成度を把握し、学生による授業評価アンケートで高評価を得た教員2名から授業方法の工夫及びその効果などについて学科会議で報告を受け、その指導方法について共有し、教育目標の達成に向けた授業形態について検討した。	現状分析を2/2実施。検証を1/1を実施。達成1/1を実施。 【指標「計画表」D4-3-1:教育目標の達成に向けた授業形態の検証】 【指標①「学生による授業評価アンケート」】 【指標②「入学年度別単位修得状況分布・推移」】 【指標③「入学年度別GPA分布・推移」】
	[1-2] 授業形態の特色に合わせて、コラボレーションセンターなどの学習施設の活用や小テスト、レポートなどのフィードバックを実施して学習指導の充実を図る。	基礎ゼミナールの授業形態を改善し、アクティブラーニング教室を活用したグループワークの機会を多数設ける演習を行うなど、学習指導の充実を図った。また、各授業において、小テストやリアクションペーパー、自己評価シートなど、学生と双方向の授業になるような工夫を行った。	現状分析を4/4実施。検証を4/4を実施。達成2/3を実施。 【指標「計画表」D4-3-1:新しい学習環境や授業形態の検証】 【指標①「学生による授業評価アンケート」】 【指標②「入学年度別単位修得状況分布・推移」】 【指標③「入学年度別GPA分布・推移」】
2020年度	年次計画内容		
	[1-1] 教育目標の達成に向けた授業形態について学生による授業評価アンケートや教職員の授業評価とGPAなどで検証する。		
	[1-2] 授業形態の特色に合わせて、学生の教育目標をめざす意識を高める授業、コラボレーションセンターなどの学習施設の活用や小テスト、レポートなどのフィードバックを実施して学習指導の充実を図る。		

中期計画【計画2】(目標2に対応する計画)			達成度評価指標【指標2】
	[2-1] 授業の内容、到達目標、授業方法、授業計画、成績評価方法等必要な項目を明記したシラバスを作成する。 [2-2] 授業内容・方法が明記されたシラバスと講義実施状況を検証する。		[2-1、2-2 共通] ①シラバス作成ガイドラインとの一致度調査(全学) ②教員によるシラバスに基づいた講義実施状況達成度調査(全学) ③学生による授業評価アンケート(全学)
2019年度	年次計画内容	計画実施状況	指標に基づく中期目標の達成状況
	[2-1] シラバス作成ガイドラインを各担当教員に配布し、適正なシラバスを作成するよう周知徹底を図る。	「シラバス作成ガイドライン」を全教員に配布し、授業の内容、到達目標、授業内容・方法、授業計画、成績評価方法等必要な事項を明記するよう周知徹底を図った。	現状分析を3/3実施。検証を1/1を実施。達成1/1を実施。 【指標「計画表」D4-3-2:適切なシラバスの作成】 【指標①シラバス作成ガイドラインとの一致度調査】 【指標③「学生による授業評価アンケート」】 【根拠資料「非常勤講師の説明会」(資料)】
	[2-2] シラバスと授業内容との整合性について「講義実施状況達成度調査」および学生による「授業評価アンケート」を通して検証し改善を図る。	シラバスで示した内容と実施状況との一致について、学生による「授業評価アンケート」を通して検証し、その改善を図った。	現状分析を2/2実施。検証を1/1実施。達成を1/1実施。 【指標「計画表」D4-3-2:シラバスに基づいた講義の実施】 【指標①シラバス作成ガイドラインとの一致度調査】 【指標③「学生による授業評価アンケート」】
2020年度	年次計画内容		
	[2-1] シラバス作成ガイドラインを各担当教員に配布し、適正なシラバスを作成するよう周知徹底を図る。		
	[2-2] シラバスと授業内容との整合性について「講義実施状況達成度調査」および学生による「授業評価アンケート」を通して検証し改善を図る。		

中期計画【計画3】(目標3に対応する計画)		達成度評価指標【指標3】
	[3-1] 科目の特質に応じて多面的な評価の視点を設定するとともに、評価方法・基準をシラバスに明記し、それに従った成績・単位認定評価を行う。 [3-2] 講義や実習の事前・事後学習も含めて学生の学修時間を確保し、単位の実質化を図ることができる教育方法、学修指導を行う。	[3-1] ①シラバス作成ガイドラインとの一致度調査(事前・事後学習の記載状況)(全学) ②学生による授業評価アンケート(全学) [3-2] ①シラバス作成ガイドラインとの一致度調査(事前・事後学習の記載状況)(全学) ②学生による学修時間の申告調査やe-learning等を用いた学修時間の計測(全学) ③学生による授業評価アンケート(全学)

2019年度	年次計画内容	計画実施状況	指標に基づく中期目標の達成状況
	[3-1] 作成されたシラバスを調査して科目の特質に応じてどのような評価法が採用されているかを把握し、検討を図る。	科目の特質に応じた評価方法を設定し、その方法及び評価基準をシラバスに明記して、それに従った成績・単位認定評価を行うことを周知徹底した。その結果については、学生による「授業評価アンケート」や成績などによって検証した。	現状分析を 3/3 実施。検証を 1/1 を実施。達成 0/1 を実施。 【指標「計画表」D4-3-3:適切な成績・単位認定評価】 【指標①シラバス作成ガイドラインとの一致度調査】 【指標②「学生による授業評価アンケート」】
	[3-2] 授業形態の特色に合わせて予習復習など学生の自主的な学習を促す教育方法、学習指導について検討する。	講義・演習・実習の事前・事後学習について授業の中で周知し、学生の自主的な学習を促した。また、シラバス等にも明記して、シラバスに基づいた学習指導に努めた。	現状分析を 3/3 実施。検証を 2/2 を実施。達成 1/1 を実施。 【指標「計画表」D4-3-3:単位の実質化を図る教育方法、学修指導】 【指標①シラバス作成ガイドラインとの一致度調査】 【指標②「学生による学修時間の申告調査」】 【指標③「学生による授業評価アンケート」】
2020年度	年次計画内容		
	[3-1] 作成されたシラバスを調査して科目の特質に応じてどのような評価法が採用されているかを把握し、検討を図る。新型コロナウイルス対策による評価方法の変更の影響を把握する。		
	[3-2] 授業形態の特色に合わせて予習復習など学生の自主的な学習を促す教育方法、学習指導について検討する。		

中期計画【計画4】(目標4に対応する計画)		達成度評価指標【指標4】	
[4-1] 教育目標と学位授与方針との関連性を検証しつつ、教育目標の達成状況を把握するための指標を検討し適用する。 [4-2] 教育の充実と学習成果の向上のために、教育内容・方法等について研究会等を通じて組織的な取り組みを行う。		[4-1、4-2 共通] ①教育目標達成状況測定指標の作成(全学) ②入学年度別単位修得状況分布・推移(全学) ③入学年度別 GPA 分布・推移(全学) ④入学年度別学位授与状況(全学) ⑤学部・学科 FD、FD 研究会等実施状況(全学) ⑥「はぐくみ」への記入 ⑦自己評価シート	
2019年度	年次計画内容	計画実施状況	指標に基づく中期目標の達成状況
	[4-1] 教育目標と学位授与との関連性を教職課程履修カルテなどの自己評価システム運用と教員がチェックする体制で検証し、教育目標の達成状況を把握する指標の確立に向けたとりまとめを行う。	教育目標と学位授与との関連性を教職課程履修カルテ及び保育士指定科目習得チェック表などの自己評価システムの運用及び教員がチェックする体制で検証し、教育目標の達成状況を把握する指標の確立について検討を行った。KI	現状分析を 2/2 実施。検証を 2/2 実施。達成を 0/1 実施。 【指標「計画表」D4-3-4:教育目標の達成状況を把握するための指標の適用】 【指標①「教育目標、DP、CP の認知度調査」】 【指標②「入学年度別単位修得分布・推移」】 【指標③「入学年度別 GPA 分布・推移」】 【指標④「入学年度別学位授与状況」】 【指標⑦「教職課程履修カルテ」】※現物 【指標⑦「保育士指定科目修得チェック表」】現物 【指標「入学年度別学位授与率・年間卒業率」】 【指標「こども発達学科 FD」報告】
	[4-2] GPA の分布や推移に注意し、学科全学生について教育の充実と学習成果向上を図る教育内容、方法を FD 等で組織的に検討し、単位の実質化するための取り組みを行う。	教育の充実や学習成果の向上のために、毎回の学科会議において、学科全学生の GPA の分布や推移を確認し、FD や修学状況に関して検討する情報交換の機会を設け、教育の充実と学習成果向上を図る方法、単位の実質化について組織的に検討を行った。	現状分析を 4/4 実施。検証を 1/1 実施。達成を 0/1 実施。 【指標「計画表」D4-3-4:教育内容・方法等についての組織的な取り組み】 【指標③人文学部入学年度別 GPA 分布・推移】 【指標⑥「学生指導シート(はぐくみ)のコミュニケーション記録の活用状況」】 【指標「こども発達学科 FD」報告】 【指標「資格等取得状況」】
2020年度	年次計画内容		
	[4-1] 教育目標と学位授与との関連性を教職課程履修カルテ、修学ポートフォリオなどの自己評価システム運用と教員がチェックする体制で検証し、教育目標の達成状況を把握する指標の確立に向けたとりまとめを行う。		
	[4-2] GPA の分布や推移に注意し、学科全学生について教育の充実と学習成果向上を図る教育内容、方法を FD 等で組織的に検討し、単位の実質化するための取り組みを行う。		

(7) 心理学部

中期計画【計画1】(目標1に対応する計画)		達成度評価指標【指標1】	
[1-1]カリキュラムマップに基づき、教育目標に合わせた講義を展開しつつ個別の指導を行う。		学年別 GPA 分布	
2019年度	年次計画内容	計画実施状況	指標に基づく中期目標の達成状況
	[1-1] 新学部および公認心理師課程運用に伴う指標の変化を引き続き経時的に分析・検証する。	全学方針に基づく FD 研修会に参加し、心理学部のカリキュラムマップを作成した。この中で公認心理師養成カリキュラムの位置づけを確認した。	公認心理師養成カリキュラムに対応する科目群の履修者数やアンケートから、かなりの人数が資格取得を希望していることがうかがわれる。
	[1-2] インターネット検索等を利用した自主的な学習を促す具体的方法について引き続き検討する。	一部の科目において、宿題としてインターネット検索を利用した復習をするように促した。	インターネット検索を利用した学習を促す方法について、教員間で引き続き検討していく。
2020年度	年次計画内容		
	[1-1] 新札幌キャンパスへの移行、公認心理師課程設置等の周知に伴う諸指標の変化について、引き続き分析・検証する。		

4-3. 教育方法

[1-2]	インターネットを利用した学習を進めるため、具体的方法について検討する。
-------	-------------------------------------

中期計画【計画2】(目標2に対応する計画)		達成度評価指標【指標2】
[2-1] シラバス作成ガイドに基づく適切なシラバスを作成し、各講義の目標を広く学生に周知する。		授業評価アンケート
2019年度	年次計画内容	計画実施状況
	[2-1] 学生の学習意欲を促進させるようなシラバスの内容について検討する。	全学方針に基づき、事前ならびに事後学習の明確化など、シラバスの内容の充実に努めている。
	[2-2] シラバスに関する学生アンケートについて引き続き検討し、学習意欲等に関して分析する。	学生アンケート等により、学習意欲等に関する分析・検討を行い、教員間で情報を共有する。また学生がディプロマ・ポリシー項目に関する実現度をチェックする欄をマイファイルに設け、学習意欲を高める工夫をする。
2020年度		年次計画内容
	[2-1] ICTを利用した学習の効果とシラバスとの関係について検討する。	
	[2-2] シラバスに関する学生アンケートについて引き続き検討し、学習意欲等に関して分析する。	

中期計画【計画3】(目標3に対応する計画)		達成度評価指標【指標3】
[3-1] シラバスに成績評価基準の明確化を行う。		シラバス作成ガイドランとの一致度調査
2019年度	年次計画内容	計画実施状況
	[3-1] 公認心理師演習科目や実習科目の成績評価方法やその基準について検討する。	公認心理師演習科目や実習科目について履修基準を設け、基準に達した学生が次の段階に進むものとした。成績評価方法については、引き続き検討する。
	[3-2] 講義・演習・実習等について、ルーブリック評価を用いる方法を引き続き検討する。	一部の科目において、レポート課題の評価にルーブリックを用いる準備をした。また学生の学修に関して、ディプロマ・ポリシーとの対応について、ルーブリックによる自己評価表を用いるよう検討した。
2020年度		年次計画内容
	[3-1] 公認心理師演習科目や実習科目の成績評価方法やその基準について引き続き検討する。	
	[3-2] 演習・実習等について、ルーブリック評価を用いる方法を引き続き検討する。	

中期計画【計画4】(目標4に対応する計画)		達成度評価指標【指標4】
[4-1] 教育効果の検証のために、既存の指標を用いて検証を行う。		①授業評価アンケート ②各講義ごとの単位修得率
2019年度	年次計画内容	計画実施状況
	[4-1] 学修履歴を本人と教員が共有し、学修を方向づけるしくみについて検討する。	マイファイルにおいて、履修に関わる課題を学生と教員が共有できるようにし、学生が問題点に気づき教員に相談しやすくなるよう検討した。
	[4-2] 教育課程・内容に対応した演習・実習中心の授業評価アンケートを引き続き検討する。	マイファイルにおいて、ディプロマ・ポリシー項目に関する達成度をチェックする欄を設け、演習・実習を含めた自らの学習を振り返りやすくするよう工夫した。
2020年度		年次計画内容
	[4-1] 学習に関わる課題や学修状況に関して、マイファイル等の利用のしかたを調査し検討する。	
	[4-2] 教育課程・内容に対応した演習・実習中心の授業評価アンケートを引き続き検討する。	

(8) 法学部

中期計画【計画1】(目標1に対応する計画)		達成度評価指標【指標1】
[1-1] 授業参観による自己研修、教員協議会における意見交換を通じて、授業方法および演習運営の工夫・改善を図る。		[1-1, 1-2, 1-3 共通]
[1-2] 授業理解度および出席率の低い学生に対し、個別面談を実施して学習方法を指導することで、講義への継続的出席を促す。		①学生による授業評価アンケート
[1-3] 学生が法の理念や解釈に関する知識を修得し、かつ将来の進路のために努力する姿勢を確立するため、法学検定試験ベーシックコースに合格させる。		②入学年度別GPA分布 ③学部専門講義科目出席統計 ④法学検定試験ベーシックコース合格率
2019年度	年次計画内容	計画実施状況
	[1-1] かねてより設けられている授業参観期間を今年度も設定し、授業方法がどのように工夫されているかを見て、自己の授業において改善することができるようにする。その結果を学部の10分FDで報告し検討する。	[1-1]今年度においても例年通りの授業参観を実施した。
	[1-2] 情報ポータルを積極的に活用すべきことをすべての教員に対して周知し、文書のみで説明できない内容については口頭で教員及び教育支援課職員に周知し、問題のある学生を早期に発見し、学部の10分FDなどを通じて情報の共有を図る。	[1-2]各教員がゼミ生と随時面談し、留年生等については担任教員が5月と10月に一斉面談を行い、その結果を「はぐくみ」に記入して情報を共有した。

	[1-3] 法解釈学の基礎は1年次の必修科目などで習得することを前提として、法律知識の定着度合いを測る指標の1つとして法学検定試験を受験させる。また、そのための対策授業である「法学スキル(基礎・応用)」を実施することに加え、エクステンションセンターの法学検定ベーシック講座の受講を主として1年生に勧め、法学検定試験の合格率向上及び成績優秀者の輩出に努める。それらの出席状況を、学部の10分FDで報告し欠席の多い学生に対する指導を徹底する。	[1-3] 法学スキル応用の授業について、法学スキル基礎の出席率と定期試験結果、および授業評価を踏まえ、4名の担当教員が統一的な方式で行うこととし、法学検定試験スタンダードの合格率向上に努めた。他方、ベーシックについては2018年からエクステンションセンターの法学検定ベーシック講座の受講を1年生に強く勧め、その結果、1年生の合格者数を着実に増やしてきている。	法学検定試験ベーシックについては、受検者191名中103名(団体受験者以外も含む)が合格し、合格率が53.9%となり、昨年よりも上昇している。団体受験の99名の合格者数は、20名以上の受験者がいる全国の大学の中で第5位になる。また1年生の合格者数が着実に増加してきている。
2020年度	年次計画内容		
	[1-1] かねてより設けられている授業参観期間を今年度も設定し、授業方法がどのように工夫されているかを見て、自己の授業において改善することができるようにする。その結果を学部の10分FDで報告し検討する。		
	[1-2] 情報ポータルを積極的に活用すべきことをすべての教員に対して周知し、文書のみで説明できない内容については口頭で教員及び教育支援課職員に周知し、問題のある学生を早期に発見し、学部の10分FDなどを通じて情報の共有を図る。		
[1-3] 法解釈学の基礎は1年次の必修科目などで習得することを前提として、法律知識の定着度合いを測る指標の1つとして法学検定試験を受験させる。また、そのための対策授業である「法学スキル(基礎・応用)」を実施することに加え、エクステンションセンターの法学検定ベーシック講座の受講を主として1年生に勧め、法学検定試験の合格率向上及び成績優秀者の輩出に努める。それらの出席状況を、学部の10分FDで報告し欠席の多い学生に対する指導を徹底する。			

中期計画【計画2】(目標2に対応する計画)		達成度評価指標【指標2】	
[2-1] 授業のねらい、到達目標、授業の進め方に関し、明確かつ具体的な記述がなされているか、教務委員会で点検する		[2-1, 2-2 共通]	
[2-2] 授業の進め方、学生の時間外学習等に関し、どのような成果と課題があるか、教員協議会における意見交換にて確認する。		①シラバス第三者点検にて修正依頼をした科目数 ②学生による授業評価アンケート	
2019年度	年次計画内容	計画実施状況	指標に基づく中期目標の達成状況
	[2-1] 学部コア科目を中心に、シラバスを点検する。重点項目として、専門ゼミナールにおけるゼミ論の指導、就活の指導の有無を点検する。	[2-1] 学部コア科目を中心に事前・事後の授業時間外学習ならびに学習上の助言に関するシラバスの記入に関する点検を行った。	事前・事後の授業時間外学習に関して、シラバスの修正を依頼する科目はなかった。ただし、シラバス上の課題を解決したとしても、実際に学生が学習しているかを確認することができないため、その検証作業が必要であろう。
	[2-2] FDの機会を積極的に活用し。授業評価アンケートに基づいた教育改善を行う。	[2-2] FDの機会を積極的に活用した。また授業評価アンケートについては、学生の回答に基づく教員側のフィードバックを得るところまで行ったが、実際の教育改善にまで結びつけることはできなかった。	学生による授業評価アンケート結果を受けて、2人の教員に、学習目標・教授方向に関する工夫・その成果と課題・FDに対する要望・大学の教育学習環境の改善に関する回答を提供して頂き、それをもとにして教務委員会としての所見をまとめた。
2020年度	年次計画内容		
	[2-1] 学部コア科目を中心に、シラバスを点検する。重点項目として、専門ゼミナールにおけるゼミ論の指導、就活の指導の有無を点検する。		
[2-2] FDの機会を積極的に活用し。授業評価アンケートに基づいた教育改善を行う。			

中期計画【計画3】(目標3に対応する計画)		達成度評価指標【指標3】	
[3-1] ①科目展開の特性を踏まえた評価方法・評価基準をシラバスに明記する。 ②シラバスに明記した評価方法・評価基準に従って評価を行う。		[3-1] ①シラバス作成ガイドラインとの一致度調査(成績評価方法の記載状況) ②学生による授業評価アンケート	
[3-2] ①事前・事後学習の必要性および目処をシラバスに明記する。 ②学生の学習時間を確保することを目的に適切な教育指導を行う。		[3-2] ①シラバス作成ガイドラインとの一致度調査(事前・事後学習の記載状況) ②学生による授業評価アンケート ③学生による申告調査を通じて計測した学習時間	
2019年度	年次計画内容	計画実施状況	指標に基づく中期目標の達成状況
	[3-1] シラバスに基づく授業展開を徹底する。成績評価や単位認定に大きなバラツキがみられないかを検証する。	[3-1] シラバスに基づく授業展開を行うよう教務委員会による直接的な注意や指導は行わなかったが、シラバスの記載から外れるような講義は、授業評価アンケートから見る限りなかった。また成績評価や単位認定に大きなバラツキがみられないかの検証については、全学的な動きが見られた。	成績評価方法の記載におけるシラバス作成ガイドラインとの一致に関しては、サンプル調査の結果、特に問題のあるシラバス記載は見当たらなかった。
	[3-2] 事前・事後学習における学修の位置づけを明確化し、各種指導を通じて学生に対し予復習の徹底を図る。授業評価アンケートへのレスポンスを通じたフィードバックないし双方向的活用にさらに取り組む。	[3-2] 授業評価アンケートへのレスポンスを通じたフィードバックないし双方向的活用にさらに取り組んだが、各種指導を通じて学生に対し予復習の徹底を図る機会、あまりなかった。ゼミナールによる指導が有効であるため、次年度以降の課題としたい。	学生による授業評価アンケートに対する教員側のフィードバックを行なった。また学生による申告調査を通じて計測した学習時間については、一週間の平均学習時間(分/週)は、平均値139.8分、中央値90分であった(2019年度2年生修学行動調査による。対象者73人)。

4-3. 教育方法

2020年度	年次計画内容
	[3-1] シラバスに基づく授業展開を徹底する。成績評価や単位認定に大きなバラツキがみられないかを検証する。 [3-2] 事前・事後学習における学修の位置づけを明確化し、各種指導を通じて学生に対し予復習の徹底を図る。授業評価アンケートへのレスポンスを通じたフィードバックないし双方向的活用にとさらに取り組む。

中期計画【計画4】(目標4に対応する計画)		達成度評価指標【指標4】	
[4-1] ①教育目標と学位授与方針との関連性を検証する。 ②教育目標達成状況を測定する指標の開発を検討する。 [4-2] ①学部内・学部間FD等を通じて教育内容・方法の組織的改善に取り組む。 ②FDのフィードバックを踏まえ、教育効果の継続的向上に努める。		[4-1, 4-2 共通] ①教育目標達成状況測定指標の検討状況 ②入学年度別単位修得状況・GPA分布 ③入学年度別学位授与・進路決定状況 ④優秀学生表彰、学生論文顕彰、学生論集発行状況 ⑤授業参観、FD等実施状況 ⑥教員協議会開催状況	
2019年度	年次計画内容	計画実施状況	指標に基づく中期目標の達成状況
	[4-1] コース別を含めた入学年度ごとの単位修得状況を多角的に把握し、成績下位学生に対する基礎力の底上げ、並びにスカラシップ入学者や成績優秀学生に対する質の高い教育を提供する。	[4-1] カリキュラムポリシーとディプロマポリシーの見直しを行い、教育目標と学位授与方針との関連を明確にした。同時に、教育目標達成状況を測定する指標についての検討を行った。スカラシップ入学者や成績優秀学生に対する質の高い教育を提供するため基礎ゼミナールの配属に配慮した。	カリキュラム検討委員会が作成した報告書について数回にわたり教授会で議論し、教育目標と学位授与方針との関連や教育目標達成状況を測定する指標を作成した。 実施過程における手続き上の課題については、今後さらに詰めていく必要がある。
	[4-2] 10分FDを中心に学部内のディベロップメントに取り組む。あわせて、学内のFD関連事業への教員の参加、学外でのFD関連の催しへの教員の派遣などに取り組む。教員協議会や10分FDの時間を使い、教員間の意見交換の場を設ける。	[4-2] 学科長が全学のFD委員として、全学のFD委員会に出席した。全学的なFDの取り組みに学部の構成員が積極的に参加した。また学部教授会の開催時に10分FDを随時開催することで、教員間の意見交換と情報共有をはかり、授業改革の参考になるように配慮した。	①全学的なFDの取り組みに学部の教員が6人参加し、法学部のカリキュラムの特徴などについて検討した。 ②学部教授会の開催時に10分FDを7回開催し、積極的な交流をはかった。
2020年度	年次計画内容		
	[4-1] コース別を含めた入学年度ごとの単位修得状況を多角的に把握し、成績下位学生に対する基礎力の底上げ、並びにスカラシップ入学者や成績優秀学生に対する質の高い教育を提供する。		
	[4-2] 10分FDを中心に学部内のディベロップメントに取り組む。あわせて、学内のFD関連事業への教員の参加、学外でのFD関連の催しへの教員の派遣の促進などに取り組む。教員協議会や10分FDの時間を使い、教員間の意見交換の場を設ける。		

(9) 大学院法学研究科

中期計画【計画1】(目標1に対応する計画)		達成度評価指標【指標1】	
[1-1] 研究指導計画に基づき、学位論文作成に向けて適切な研究指導を行う。		[1-1] ①学生による授業評価アンケート ②単位修得・GPA分布状況 ③学位授与率	
2019年度	年次計画内容	計画実施状況	指標に基づく中期目標の達成状況
	[1-1] ①学生による授業評価アンケートの実施。 ②副査担当の教員による論文指導の強化について慎重に検討し、実行可能な計画については速やかに着手する。	①学生による授業評価アンケートを実施した。 ②副査担当の教員による論文指導の強化策として、副査の割り当てを早めることによる中間発表段階での関与が可能になった。	①学生による授業評価アンケート：達成 ②単位修得・GPA分布状況：良好 ③学位授与率：90%(10/11)
2020年度	年次計画内容		
	授業評価アンケートの実施。		

中期計画【計画2】(目標2に対応する計画)		達成度評価指標【指標2】	
[2-1] シラバス作成ガイドラインに基づいて、授業の目的、到達目標、授業内容・方法、授業計画、成績評価方法等必要な事項を明記した統一的なシラバスを作成し、公表する。		[2-1] ①シラバス作成ガイドラインとの一致度調査(2019年度まで) ①シラバス作成ガイドラインに基づいた統一的なシラバスを作成し、これに基づいた授業を展開するよう研究委員会等を通じて。教員に周知する(周知の有無)(2020年度から) ②学生による授業評価アンケート(2019年度まで)	
2019年度	年次計画内容	計画実施状況	指標に基づく中期目標の達成状況
	[2-1] ①シラバス作成ガイドラインとの一致度調査の実施。 ②学生による授業評価アンケートの実施。	①シラバス作成ガイドラインとの一致度調査は、その必要性がなくなり実施しなかった。 ②学生による授業評価アンケートを実施した。	①シラバス作成ガイドラインとの一致度調査：不要 ②学生による授業評価アンケート：達成
2020年度	年次計画内容		
	シラバス作成ガイドラインに基づいた統一的なシラバスを作成し、これに基づいた授業を展開するよう研究委員会等々を通じ、教員に周知する。		

中期計画【計画3】(目標3に対応する計画)			達成度評価指標【指標3】
[3-1] 科目の特性に応じて多面的な評価を採用するとともに、成績評価方法・基準をシラバスに明記し、それに従って成績評価と単位認定を行う。			[3-1] ①適切な成績評価と単位認定(2019年度まで) ②シラバス作成ガイドラインとの一致度調査(成績評価方法の記載状況)(2019年度まで) ③学生による授業評価アンケート
2019年度	年次計画内容	計画実施状況	指標に基づく中期目標の達成状況
	[3-1] ①シラバス作成ガイドラインとの一致度調査の実施。 ③学生による授業評価アンケートの実施。	①シラバスに明記された成績評価方法・基準に従って、単位認定されている。 ②シラバス作成ガイドラインとの一致度調査は、その必要性がなくなり実施しなかった。 ③学生による授業評価アンケートは実施した。	①適切な成績評価と単位認定：達成 ②シラバス作成ガイドラインとの一致度調査(成績評価方法の記載状況)：不要 ③学生による授業評価アンケート：達成(院生からの問題の指摘などは特になかった)
2020年度	年次計画内容		
	学生による授業評価アンケートの実施。		

中期計画【計画4】(目標4に対応する計画)			達成度評価指標【指標4】
[4-1] 教育目標と学位授与方針との整合性を検証しつつ、教育目標の達成状況を測定する指標を検討・作成し、その指標を適用する(2019年度まで) [4-2] 教育効果を上げるために、FD等を通じて教育内容・方法の改善の組織的な取り組みを行う。			[4-1,4-2 共通] ①教育目標達成状況測定指標の作成(2019年度まで) ②単位修得・GPA分布状況 ③学位授与状況 ④修了生進路状況 ⑤研究科FD、FD研究会等実施状況 ⑥学生による授業評価アンケート(2019年度から)
2019年度	年次計画内容	計画実施状況	指標に基づく中期目標の達成状況
	[4-1] 教育目標達成状況測定指標の作成を検討する。	[4-1] 教育目標達成状況測定指標は作成しなかった。	[4-1] ①教育目標達成状況測定指標の作成：未達成 ②単位修得・GPA分布状況：良好 ③学位授与状況：90%(10/11) ④修了生進路状況：修了生進路状況：全員が税理士志望であり、税理士事務所勤務中であるか勤務を予定している。
	[4-2] ①研究科FD、FD研究会等を、適宜実施する。 ②学生による授業評価アンケートを実施する。	[4-2] ①FD研究会に準ずる研究会(11月21日法政研究部会研究会)を開催した。 ②学生による授業評価アンケートを実施した。	[4-2] ⑤研究科FD、FD研究会を実施状況：達成 ⑥学生による授業評価アンケート：達成
2020年度	年次計画内容		
	①研究科FD、FD研究会等を、適宜実施する。 ②学生による授業評価アンケートを実施する。		

(10) 大学院臨床心理学研究科

中期計画【計画1】(目標1に対応する計画)			達成度評価指標【指標1】
[1-1] 各学年定員10名の少人数教育に適切な授業評価調査方法を運営会議において継続的に検討する。 [1-2] 事例検討を通じて学習する機会を維持する。 [1-3] 専門科目によっては道内に適切な講師がいない現状を踏まえ、道外からの優秀な非常勤講師の確保に努める。 [1-4] 心理臨床センターは臨床心理士指定大学院として必須の実習教育施設であり、その運営を適切に維持し継続する			[1-1] ①研究科委員会議題(ワーキンググループ・運営会議からの報告・審議) [1-2] ①特別事例検討会実施状況 [1-3] ①道外非常勤講師数、②道外非常勤講師旅費・滞在費 [1-4] ①心理臨床センター相談室員数・運営日数ならびに時間数等
2019年度	年次計画内容	計画実施状況	指標に基づく中期目標の達成状況
	[1-1] 各学年定員10名の少人数教育に適切な授業評価調査方法を運営会議において継続的に検討する。	授業評価アンケートは全学的に見直され、本研究科もそれに沿ったが、本人数は院生数が少ないこと、また教員とは利益相反につながりやすいことから、研究科長の立場で授業について何度か聞き取りをおこなった。	① 達成
	[1-2] 本学教員の特徴を活かす事例検討を行う。それを通じて院生がより実際の学習を行う機会を維持する。	計画に沿って遂行した	① 達成
	[1-3] 専門科目によっては道内に適切な講師がいない現状を踏まえ、道外からの優秀な非常勤講師の確保に努める。	計画に沿って遂行した	① 達成 ② 達成
	[1-4] 心理臨床センターは臨床心理士及び公認心理師指定大学院として必須の実習教育施設であり、その運営を適切に維持し継続する。	計画に沿って遂行した。 なお、心理臨床センターの運営について、毎月定例で開かれる心理臨床センター運営会議で議論され、必要な対応を行った。	① 達成(心理臨床センター運営会議議事録・資料)
2020年度	年次計画内容		

4-3. 教育方法

年度	[1-1] 各学年定員 10 名の少人数教育に適切な授業評価調査方法を運営会議において継続的に検討する。
	[1-2] 本学教員の特徴を活かす事例検討や時代に即した最先端の多様な心理支援法の学習機会を設ける。それを通じて院生がより実地的な学習を行う機会を維持する。
	[1-3] 専門科目によっては道内に適切な講師がいない現状を踏まえ、道外からの優秀な非常勤講師の確保に努める。
	[1-4] 心理臨床センターは臨床心理士及び公認心理師指定大学院として必須の実習教育施設であり、その運営を適切に維持し継続する。

中期計画【計画2】(目標2に対応する計画)		達成度評価指標【指標2】
[2-1] 適切なシラバスを作成し、履修状況・学習状況に基づいて適切な柔軟性を維持しながら授業を展開する。		[2-1]①シラバス
[2-2] 実習科目に関わる指導では専任教員を含め有能なスーパーバイザーを確保する。		[2-2]①スーパーバイザー名簿リスト
2019年度	年次計画内容	計画実施状況
	[2-1] 本学シラバス作成基準および、公認心理師基準や臨床心理士基準に則ったシラバスになるよう、これまでどおりダブルチェックを行う。	計画に沿って遂行した。
	[2-2] 外部スーパーバイザーの位置づけについて整理する。	計画に沿って遂行した。
2020年度	年次計画内容	指標に基づく中期目標の達成状況
	[2-1] 本学シラバス作成基準および、公認心理師基準や臨床心理士基準に則ったシラバスになるよう、これまでどおりダブルチェックを行う。	① 達成
	[2-2] 外部スーパーバイザーの位置づけについて整理する。	① 達成

中期計画【計画3】(目標3に対応する計画)		達成度評価指標【指標3】
[3-1] 適切な成績評価を行い、院生に対する説明責任が伴うことを継続的に確認する。		① 成績表
2019年度	年次計画内容	計画実施状況
	[3-1] 不合格者の出た科目について、研究科運営会議ないし研究科委員会で理由・状況の確認を行う。	計画に沿って遂行した。
2020年度	年次計画内容	指標に基づく中期目標の達成状況
	[3-1] 不合格者の出た科目について、研究科運営会議ないし研究科委員会で理由・状況の確認を行う。	① 達成

中期計画【計画4】(目標4に対応する計画)		達成度評価指標【指標4】
[4-1] 回答の匿名性を保ちながら定員 10 名の少人数教育に適した授業評価アンケートの実施方法を検討する。		①授業評価アンケート(試案を含む)
2019年度	年次計画内容	計画実施状況
	[4-1] 院生の自主的な学習を促すためゼミ横断的な交流機会や、学部・大学横断的な研究交流の場を提供する。	2019年度から修士論文中間報告会を口頭発表形式へと変え、また修士論文発表会の一人当たりの持ち時間も10分間伸ばした。これらにより、多くのディスカッションが可能となった。また、ゼミ担任が学会など多くの学びの場の情報提供を行うようにした。
2020年度	年次計画内容	指標に基づく中期目標の達成状況
	[4-1] 院生の自主的な学習を促すためゼミ横断的な交流機会や、学部・大学横断的な研究交流の場を提供する。	①実施(研究科委員会議事録)

(11) 大学院地域社会マネジメント研究科

中期計画【計画1】(目標1に対応する計画)		達成度評価指標【指標1】
[1-1] 教育目標の達成に向けた授業形態(講義・演習等)を検討し、実施する。		
[1-2] 演習を中心として、院生の修論作成に向けた指導体制を実施、検証する。		
2019年度	年次計画内容	計画実施状況
	[1-1] 現在、設置している演習内容、演習のあり方を検討し、改善の必要な点があれば改善に向けて検討する。	会計系教員の演習に対する負担増が懸念されるが、抜本的な解決には至っていない。今後も継続して検討したい。
	[1-2] 指導教員による院生への指導の他、副指導教員制度の新設を検討する。	副指導教員制度に関しての検討は十分にされていない。
	[1-3] ① 個別指導以外に修士論文の中間報告会と報告会、リサーチペーパーの報告会を通じた、院生への集団指導を行う。 ② 各報告会への教員の参加を増やす。	修士論文の中間報告会、報告会、リサーチペーパーの報告会を行い、修士論文の作成の指導を行った。 報告会への教員の参加呼びかけを行った。
2020年度	年次計画内容	指標に基づく中期目標の達成状況
	[1-1] 現在、設置している演習内容、演習のあり方を検討し、改善の必要な点があれば改善に向けて検討する。	
	[1-2] 指導教員による院生への指導の他、副指導教員制度の新設を検討する。	
	[1-3] ① 個別指導以外に修士論文の中間報告会と報告会、リサーチペーパーの報告会を通じた、院生への集団指導を行う。 ② 各報告会への教員の参加を増やす。	

中期計画【計画2】(目標2に対応する計画)		達成度評価指標【指標2】	
[2-1] 到達目標、授業内容・方法、授業計画、成績評価方法等必要な事項を明記したシラバスを作成する。 [2-2] 授業内容・方法とシラバスとの整合性を検証し、維持する。		[2-1,2-2 共通] ①シラバス作成ガイドラインとの一致度調査 ②教員によるシラバスに基づいた講義実施状況達成度調査 ③学生による授業評価アンケート	
2019年度	年次計画内容	計画実施状況	指標に基づく中期目標の達成状況
	[2-1] シラバスの概要について説明書を配布し、適切なシラバスを作成することを教員に要請する。	適切なシラバスの作成を教員に要請した。	
	[2-2] シラバスに必要事項が記載されているかどうかを確認する。	シラバスの確認を行った。	①シラバス作成ガイドラインと一致している。 ②授業評価アンケートで質問をしなかったが、院生には大学院の演習・講義の全体的な評価を質問し、比較的高い評価を得ているため、問題はないと考える。
2020年度	年次計画内容		
	[2-1] シラバスの概要について説明書を配布し、適切なシラバスを作成することを教員に要請する。		
	[2-2] シラバスに必要事項が記載されているかどうかを確認する。		

中期計画【計画3】(目標3に対応する計画)		達成度評価指標【指標3】	
[3-1] 科目の特質に応じて多面的な評価を採用するとともに、評価方法・基準をシラバスに明記し、それに従った評価を行う。 [3-2] 講義の事前・事後学習も含めて学生の学修時間を確保し、単位の実質化を図ることができる教育方法、学修指導を行う。		[3-1] ①シラバス作成ガイドラインとの一致度調査(成績評価方法の記載状況) ②院生によるアンケート [3-2] ①シラバス作成ガイドラインとの一致度調査(事前・事後学習の記載状況)	
2019年度	年次計画内容	計画実施状況	指標に基づく中期目標の達成状況
	[3-1] シラバスに評価方法・基準を明記する。講義の特質に応じた院生への評価を行う。	シラバスに評価方法・基準を明記させた。	
	[3-2] シラバスや講義などで院生へ事前・事後学習をするように指導することを継続する。	本学のシラバス入力システムで事前・事後学習の入力が必須となったため、指導は行わなかった。	シラバスの確認調査により、シラバス作成ガイドラインと一致していることを確認した。
2020年度	年次計画内容		
	[3-1] シラバスに評価方法・基準を明記する。講義の特質に応じた院生への評価を行う。		
	[3-2] シラバスや講義などで院生へ事前・事後学習をするように指導することを継続する。		

中期計画【計画4】(目標4に対応する計画)		達成度評価指標【指標4】	
[4-1] 教育目標と学位授与方針との関連性の検証と並行し、修士論文や単位取得の状況、進路状況等をみて教育目標の達成状況を検証する。 [4-2] 教育効果を上げるために、教育内容・方法について、組織的な改善の取り組みを行い、さらなる教育成果の向上を図る。		[4-1,4-2 共通] ①教育目標達成状況測定指標の作成 ②入学年度別単位修得状況分布・推移 ③進路決定状況	
2019年度	年次計画内容	計画実施状況	指標に基づく中期目標の達成状況
	[4-1] ①院生の修士論文執筆や単位取得の状況、進路状況等をみて教育目標の達成状況を検証する。 ②修士論文・特定課題研究だけでなく、リサーチペーパーと修士論文中間報告によるフィードバックを促進する。	①修士論文等や進路状況から見て、教育目標は達成されている。 ②出席する教員を増やし、教員から論文等を改善するコメントを発言してもらった。	①修了者3名おり、社会人2名、定年退職者1名。勤務先の変更はない。
	[4-2] ①院生の講義に対する要望、意見等を調査し、今後の講義に反映させる。 ②昨年度のアンケート調査結果を踏まえた要望への対応策を検討する。検討結果を院生へ報告する。 [4-3] 教員の教育方法に問題が生じないように教員へ注意を喚起する。	院生に対するアンケート調査の結果、講義に対する要望が出てきている。その内容をふまえて、教員には問題が生じないように研究科委員会等で注意を喚起した。	①②2018年度アンケートには、特に要望と呼べるものはなかった。
2020年度	年次計画内容		
	[4-1] ①院生の修士論文執筆や単位取得の状況、進路状況等をみて教育目標の達成状況を検証する。 ②修士論文・特定課題研究だけでなく、リサーチペーパーと修士論文中間報告によるフィードバックを促進する。		
	[4-2] ①院生の講義に対する要望、意見等を調査し、今後の講義に反映させる。 ②昨年度のアンケート調査結果を踏まえた要望への対応策を検討する。検討結果を院生へ報告する。 [4-3] 教員の教育方法に問題が生じないように教員へ注意を喚起する。		

大学基準 4. 教育内容・方法・成果

4-4 成果

中期目標

【目標 1】教育目標に基づいた人材を育成する。

【目標 2】学位授与方針に基づいた能力を育成し、適切に学位授与を行う。

(1) 全学教務委員会

中期計画【計画 1】(目標 1 に対応する計画)		達成度評価指標【指標 1】	
[1-1] 教育目標達成の観点から、学生の学習成果を測定するための評価指標を開発し適用する。 [1-2] 各学部学科が実施する、学生の自己評価、卒業後の評価（就職先の評価、卒業生評価）を支援する。		[1-1] ①入学年度別 GPA 分布・推移 ②進路決定状況（業種別等を含む） ③資格等取得状況 ④入学年度別学位授与率・4年間卒業率 [1-2] ①学生満足度調査 ②卒業生満足度調査	
2019 年度	年次計画内容	計画実施状況	指標に基づく中期目標の達成状況
	[1-1] 1) 学部、学科の教育目標に従い、各科目の「授業のねらい」「履修者が到達すべき目標」を設定する。同時に「成績評価方法」を「履修者が到達すべき目標」への到達度を測定するものにする。 2) 「学力の三要素」「社会人基礎力」「国語力」などの基礎学力やジェネリックスキルの獲得がどのように目指されているかを明確にする。 3) 学習成果を把握及び評価するための方法を開発し、学生の学修指導、キャリア相談等に活用する。 [1-2] 入試成績、入学前学習等の入学前の情報から、初年次教育、専門教育に至る情報の連関、さらには進路情報、資格取得情報との連関を探るべく、教学 IR を活用する。その成果を教育目標、教育方法の適正化に活かす。	【1-1】 (1)「成績評価基準のガイドライン」を策定し、到達度を測定できるように改善した。 (2) 一部教養科目で実現された。 (3) ディプロマポリシーの改定時に測定可能な表現に変更してもらうとともに、その指標を策定した。 【1-2】一部の学部では、教学 IR の成果や入試成績に基づいて、合格水準や初年児教育に活用しているが、教育目標や教育方法の適正化には活用できていない。	達成度 50% 【1-1】(1)(2)根拠資料：2019 年度シラバス、成績評価基準のガイドライン 【1-1】(3)アセスメントポリシーの策定を検討する必要がある。 【1-2】エンロールメントマネジメントの導入を全学的に検討する必要がある。
2020 年度	年次計画内容		
	[1-1] 1) 学部、学科の教育目標に従い、各科目の「授業のねらい」「履修者が到達すべき目標」を設定する。 2) 「学力の三要素」「社会人基礎力」「国語力」などの基礎学力やジェネリックスキルの獲得がどのように目指されているかを引き続き明確にする。 3) アセスメントポリシーの策定を検討する。 [1-2] 入試成績、入学前学習等の入学前の情報から、初年次教育、専門教育に至る情報の連関、さらには進路情報、資格取得情報との連関を探るべく、教学 IR を活用する。その成果を教育目標、教育方法の適正化に活かす。		

(2) 教職課程委員会

中期計画【計画 1】(目標 1 に対応する計画)		達成度評価指標【指標 1】	
[1-1] 4年間の切れ目のない指導体制を確立し、教職に対する意識・態度を身につけ、教育実践的知識・スキルを十分に習得するような指導方法の工夫に努める。 [1-2] 教員採用の実績の向上に向けた改善を行う。 [1-3] 地域社会の要請に応じて、新たな免許教科開設の可能性を検討する。		[1-1] ①教職資格登録状況 ②教育実習を行った学生の人数 ③教育職員免許取得者数 [1-2] ①教員採用状況・推移 ②教員採用状況（期限付き）	
2019 年度	年次計画内容	計画実施状況	指標に基づく中期目標の達成状況
	[1-1] 4年間の切れ目のない指導を行い、教職に関する十分な知識、技能を身につけさせる。 (1) 学部教授会と協力し教職課程カリキュラムの編成と検証を行う。 (2) 教職課程履修カルテを活用して教科教育法、教職特講及び教職実践演習を軸とする4年間の継続した指導を行う。 (3) 小学校、中・高等学校及び特別支援学校の教職課程履修及び免許取得に向けたガイダンスを各学年に応じて実施する。 (4) 教職特講、教育実習事前・事後指導等に学外の現職教員等の協力を得て実践的に行う。また、授業見学	[1-1] 各学年、免許教科毎にガイダンス・個別指導を行い教職に関する知識、技能の取得を図った。 (1) 教職課程委員及び教職課程担当教務委員による教職課程委員会は、学部教授会と協力し教職課程カリキュラムの編成を行った。 (2) 教職課程履修カルテを活用して教科教育法、教職特講及び教職実践演習を軸とした指導を行った。 (3) 小学校、中・高等学校及び特別支援学校の教職課程履修及び免許取得に向けたガイダンスを各学年に応じて実施した。 (4) 教科教育法、教職特講、教育実習事前・事後指導、教職実践演習において予算の範囲で学外の現職教員等を招聘し、協力を得てより実践的に行った。地理歴史科教育法、公民科教育法等におい	[1-1] ①教職資格登録状況 2019年度の教職課程新規登録者は、84名であった。 (1年生80名、2年生3名、3年生1名) (第2回教職課程委員会・報告3、第6回教職課程委員会・報告6) ②教育実習を行った学生の人数 (科目等履修生含む) 小学校27名、特別支援学校27名、中学(社会)4名、中学(英語)6名、高校(商業)7名、(地歴)3名、(公民)2名、(英語)1名の77名であった。

<p>などを積極的に取り入れる。</p> <p>(5) 全教育実習生に対する訪問指導を学部ゼミ教員の協力を得て実施する。</p> <p>(6) 教職課程に関するFD活動を推進し、『SGU 教師教育研究』の充実を図る。</p> <p>(7) 教職課程に係る教員養成の目標、組織、研究業績、授業科目及び卒業者の状況等について情報を公表する。</p>	<p>て高校の授業見学を行った。</p> <p>(5) 全教育実習生に対する訪問指導を、学部ゼミ教員の協力を得て実施した。</p> <p>(6) 『SGU 教師教育研究第34号』を発行した。 (第5回教職課程委員会・審議4、第6回教職課程委員会・審議6、第7回教職課程委員会・報告8、第9回教職課程委員会・報告7、第11回教職課程委員会・報告2)</p> <p>(7) 教職課程に係る教員養成の目標、組織、研究業績、授業科目及び卒業者の状況等についてホームページに掲載した。 (※[1-1]に関わる内容は、毎回の教職課程委員会において、各教員や職員から学生に関する報告や運営に関する情報共有の時間をとって、情報共有し、学生対応や指導体制について確認を行っている。また、必要に応じ、各学部学科の担任等にも情報共有を行っている。)</p>	<p>(第1回教職課程委員会・審議2)</p> <p>③教育職員免許取得者数 (一括申請件数のみ。個人申請除く。科目等履修生含む) 免許の取得者は、実人数47名で、小学校26名、特別支援学校22名、中学(社会)6名、(英語)7名、高校(商業)7名、(地歴)7名、(公民)8名、(英語)5名、のべ88名(免許)であった。 (第11回教職課程委員会・報告1)</p>
<p>[1-2] 教員採用の実績の向上に向けた改善を進める。</p> <p>(1) 学科に設置された教職課程の履修に加えて複数免許取得の促進を図る。</p> <p>(2) 教職特講等の授業において教員採用試験を想定した教科指導、個別・集団面接等の指導を行う。また、小論文等の提出書類の添削指導、二次試験対策指導を実施する。</p> <p>(3) 「教職をめざす学生交流会」、「教育実習生交流会」、「教師教育研究協議会」等を通じて教員採用試験突破への意欲を高める。</p> <p>(4) 学生の自主学習、学生指導の場として教職課程室の充実と利用促進を図る。</p> <p>(5) 東京アカデミー等の課外講座の活用を進める。</p> <p>(6) 札幌市、江別市、北海道及び特別支援学校等の学校ボランティアに取り組む。</p> <p>(7) 期限付き任用教員及び非常勤講師等の採用に関わる情報を提供する。</p>	<p>[1-2] 教員採用実績向上のために次のような取り組みを行った。</p> <p>(1) 2020年度(2019年度入学生対象)新規副免許登録者として、小学校1名(人間科学科1名)と中学校英語2名(こども発達学科)の履修を許可した。(第11回教職課程委員会・審議4)</p> <p>(2) 教職特講等の授業や授業時間外において教員採用試験を想定した教科指導、個別・集団面接等の指導を行った。また、小論文等の提出書類の添削指導、二次試験対策指導を実施した。 (第3回教職課程委員会・審議1、第6回教職課程委員会・報告1)</p> <p>(3) 「教育実習生交流会」、「教職をめざす学生交流会」、「教師教育研究協議会」等において現職OB教員等の具体的な指導を受け、教職に関する認識を深め、教員採用試験突破への意欲を高めた。 (第1回教職課程委員会・審議6、第2回教職課程委員会・報告6、第3回教職課程委員会・審議2、第4回教職課程委員会・報告6、第5回教職課程委員会・審議2、審議3、第6回教職課程委員会・審議4、審議5、第8回教職課程委員会・報告4、審議1、第9回教職課程委員会・報告2、第10回教職課程委員会・審議4、第11回教職課程委員会・審議1)</p> <p>(4) 教職課程室の配置資料を随時更新した。特別支援教育演習室についても特別支援教育担当教員を中心に使用しており、学生指導や学生が自習、演習を行えるようになっている。</p> <p>(5) こども発達学科と連携の下、東京アカデミー等の試験対策講座を継続して行った。</p> <p>(6) 札幌市、江別市との協定に基づくボランティア派遣を行い援助金を支出した。また、北海道及び特別支援学校等の学校ボランティアについて学生に紹介した。 (第1回教職課程委員会・報告5、第2回教職課程委員会・報告2、第3回教職課程委員会・報告3、第4回教職課程委員会・報告4、第8回教職課程委員会・報告2)</p> <p>(7) 期限付き任用教員及び非常勤講師等の採用に関わるガイダンス・指導を行った。また各自治体からの募集案内は学生及び関係教員へ情報ポータル等を利用して案内を行った。 (第6回教職課程委員会・報告5、第8回教職課程委員会・報告5)</p>	<p>[1-2]</p> <p>①教員採用状況・推移 ・教員採用者は、現役18名(小学校、特別支援学校、中学校(社会)・(英語)、高校(商業))、卒業生13名(小学校、特別支援学校、高校(地理歴史))、合計31名であった。(※卒業生に関しては、本学に連絡があり合格が確認できた者のみ。)現役学生では小学校、特別支援学校で高い合格率となっている。また、中学校社会、英語でも現役学生の合格があった。そして、卒業生が期限付き教員等を行いながら採用に向けて頑張っているといえる。 (第7回教職課程委員会・報告1、第8回教職課程委員会・報告1、第9回教職課程委員会・報告1)</p> <p>②教員採用状況(期限付き・時間講師) 2019年度採用14名であった。 (第1回教職課程委員会・報告1)</p> <p>③その他 ・学校ボランティアに、札幌市6名、江別市4名が登録した。 ・教師教育研究協議会は、卒業生教員46名に出席いただいた。</p>
<p>[1-3] 地域社会との連携を図り、新たな免許教科開設の検討を行う。</p> <p>(1) 学部教授会及び申請準備委員会と密接な連携をとり免許教科の保持及び再申請に必要な準備を進める。</p> <p>(2) 免許状更新講習を「札幌圏教職課程コンソーシアム」と連携して開講する。</p> <p>(3) 各教育委員会、校長会、全私教協・道私教協及び道特支学校教育実</p>	<p>[1-3]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2019年4月より改正法適用による、教職課程新カリキュラムがスタートした。コアカリキュラムについては、教職課程科目と英語の科目で設定されているが、今後、ほかの教科でも作成される可能性があり、教育の質保証も含めて、本学のカリキュラムの検討が必要となってくる。 ・2018年度に行った(2019年度開始)再課程認定申請について、小学校英語の指導法の研究業績の留意事項について対応を行い、事後調査対応を完 	

	<p>習連絡協等と協力して教職課程の充実・発展を図る。</p>	<p>了させた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2021年度の社会科学系学部の再編（経済経営学部）に係る教職課程認定申請を行った。学部や設置準備委員会の協力のもと、早い段階から準備を行い、また、文部科学省への事前相談を経て、免許のあり方、学部カリキュラムと免許の相当関係、卒業要件との相当関係について、学部と何度も検討を行い、教職課程認定申請を行った。（※下記（1）にも記載。） ・人文学部人間科学科の高等学校福祉の教職課程について、北海道における採用がないこと、免許取得希望者がいないことを理由として、2021年度入学生から廃止することとした。 （第6回教職課程委員会・審議8、ほか、人文学部人間科学科科学科会議、人文学部教授会等でも審議されている。） <p>（1）経済学部と経営学部の再編に関わる教職課程認定申請について教職課程委員会及び経済学部、経営学部で連携し、申請書類にかかる対応を行った。 （第3回教職課程委員会・報告7、第7回教職課程委員会・報告11、第10回教職課程委員会・審議9、第11回教職課程委員会・報告5）</p> <p>（2）「札幌圏教職課程コンソーシアム」において、2019年度総括及び2020年度講習の開講について確認した。2019年度は選択領域講習を2講習行った。 （第5回教職課程委員会・審議1、第7回教職課程委員会・審議1、審議7、第8回教職課程委員会・審議7）</p> <p>（3）各教育委員会、校長会、全私教協・道私教協及び道特支学校教育実習連絡協等の主催する会議に出席し意見を述べた。 （第1回教職課程委員会・報告8、第3回教職課程委員会・報告1、報告2、第4回教職課程委員会・報告1、第7回教職課程委員会・報告9）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2020年1月10日に一般社団法人全国私立大学教職課程協会の教職課程質保証特別委員会の委員が本学に来学し、私立大学に適した認証評価制度のあり方（文部科学省委託研究）について、認証評価の基準と実施方法案のインタビューが実施された。開放制教職課程における質保証評価が今後行われていく可能性があり、本学で実施している自己点検評価（事業報告）で教職課程の体制等を確認するとともに、全学としても質保証評価に対する認識をもつ必要がある。そのため、2021年度の教職課程委員会から一部教職課程委員の特定事項の議題のみの参加という形をやめ、全ての議題について参加いただくことに決定した。 （第9回教職課程委員会・報告その他） 	
2020年度	<p>年次計画内容</p> <p>[1-1] 4年間の切れ目のない指導を行い、教職に関する十分な知識、技能を身につけさせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> （1）学部教授会と協力し教職課程カリキュラムの編成と検証を行う。 （2）2021年度からの2キャンパス運営に係る教職課程カリキュラムの運営、時間割等について、ワーキンググループと協同し、検討、調整を行う。 （3）教職課程履修カルテを活用して教科教育法、教職特講及び教職実践演習を軸とする4年間の継続した指導を行う。 （4）小学校、中・高等学校及び特別支援学校の教職課程履修及び免許取得に向けたガイダンスを各学年に応じて実施する。 （5）教職特講、教育実習事前・事後指導等に学外の現職教員等の協力を得て実践的に行う。また、授業見学などを積極的に取り入れる。 （6）全教育実習生に対する訪問指導を学部ゼミ教員の協力を得て実施する。 （7）教職課程に関するFD活動を推進し、『SGU教師教育研究』の充実を図る。 （8）教職課程に係る教員養成の目標、組織、研究業績、授業科目及び卒業者の状況等について情報を公表する。 <p>[1-2] 教員採用の実績の向上に向けた改善を進める。</p> <ul style="list-style-type: none"> （1）学科に設置された教職課程の履修に加えて複数免許取得の促進を図る。 （2）教職特講等の授業において教員採用試験を想定した教科指導、個別・集団面接等の指導を行う。また、小論文等の提出書類の添削指導、二次試験対策指導を実施する。 （3）「教職をめざす学生交流会」、「教師教育研究協議会」等を通じて教員採用試験突破への意欲を高める。 （4）学生の自主学習、学生指導の場として教職課程室の充実と利用促進を図る。 （5）こども発達学科予算で開講している、東京アカデミー等の課外講座の活用を進める。 （6）札幌市、江別市、北海道及び特別支援学校等の学校ボランティアに取り組む。 		

(7) 期限付き任用教員及び非常勤講師等の採用に関わる情報を提供する。
[1-3] 地域社会との連携を図り、新たな免許教科開設の検討を行う。 (1) 経済経営学部の教職課程認定申請について学部教授会と密接な連携をとり、認定に係る対応を行う。 (2) 学部教授会と密接な連携をとり免許教科の保持に必要な準備を進める。 (3) 免許状更新講習を「札幌圏教職課程コンソーシアム」と連携して開講する。 (4) 各教育委員会、校長会、全国私立大学教職課程協会、北海道私立大学・短期大学教職課程研究連絡協議会及び北海道特別支援学校教育実習連絡協議会等と協力して教職課程の充実・発展を図る。 (5) 本学の北海道特別支援学校教育実習連絡協議会の幹事校業務（2025年度～2027年度）を見据え、業務内容等を把握、必要な準備を進める。

(3) 経営学部

中期計画【計画1】(目標1に対応する計画)			達成度評価指標【指標1】
[1-1] 教育目標達成の観点から、学生の学習成果を測定するための評価指標を開発し適用する。その際、GPAや資格取得状況、進路決定状況など具体的な数値によって検証する。 [1-2] 学生の自己評価、卒業後の評価（就職先の評価、卒業生評価）を行う。			[1-1] ①入学年度別 GPA 分布・推移 ②進路決定状況（業種別等を含む） ③資格等取得状況 ④入学年度別学位授与率・4年間卒業率 [1-2]①学生満足度調査、②卒業生満足度調査
2019年度	年次計画内容	計画実施状況	指標に基づく中期目標の達成状況
	[1-1] 学習成果の測定について GPA、取得資格などのデータにより検証する。	各学習成果の報告において、GPA、資格取得などのデータが教授会で示され、検証を行った。	各種指標については教授会で確認、教員各自の参考とされた。学科独自のさらなる具体的な検証作業は行われなかった。
	[1-2] 学生の自己評価、卒業後の評価方法についての検討を継続する。	十分な検討を行うには至らなかった。特に、卒業後の評価方法については未検討である。	授業評価アンケートでは学生の当該科目に対する取り組みの自己評価があるが、個々の科目については担当教員が把握している。しかし、組織としての検証が必要だと思われる。
2020年度	年次計画内容		
	[1-1] 学習成果の測定について GPA、取得資格などのデータにより検証する。		
	[1-2] 学生の自己評価、卒業後の評価方法についての検討を継続する。		

中期計画【計画2】(目標2に対応する計画)			達成度評価指標【指標2】
[2-1] 学位授与方針が、教育目標の成果を評価できる内容であることを継続して検証する。			①対照表による評価（4-1参照） ②進路決定状況（業種別等を含む） ③資格等取得状況 ④入学年度別学位授与率・4年間卒業率
2019年度	年次計画内容	計画実施状況	指標に基づく中期目標の達成状況
	[2-1] 学位授与方針が、教育目標の成果を評価できる内容であることを継続して検証する。	3つのポリシーを検討する際に、検証を行った。	卒業する学生へのアンケート調査も含めて、今後とも検討していく必要がある。
2020年度	年次計画内容		
	[2-1] 2019年度に検討した学位授与方針が、教育目標の成果を評価できる内容であるかを検証する。		

(4) 経済学部

【計画1】(目標1に対応する計画)			達成度評価指標【指標1】
[1-1] 教育目標達成の観点から、学生の学習成果を測定するための評価指標を開発し、適用する。 [1-2] 学生の自己評価、卒業後の評価（就職先の評価、卒業生評価）を行う。 [1-3] 留年者および休・退学者の状況を把握し、教育効果の検証を行う。 [1-4] キャリア支援課と連携を強めながら学生の進路支援を組織的に行う。 [1-5] 教育効果を踏まえて、補習・補充学習の必要性を検討する。			[1-1] ①入学年度別 GPA 分布・推移 ②進路決定状況（業種別等を含む） [1-2] ①学生満足度調査 ②卒業生満足度調査 [1-3] ①休退学除籍者数一覧 ②入学年度別学位授与率・4年間卒業率 [1-4] ①資格等取得状況 ②進路決定状況（業種別等を含む） ③内定率・就職率
2019年度	年次計画内容	計画実施状況	指標に基づく中期目標の達成状況
	[1-1] 学習成果を測定する評価指標の検討を行う。	全開講科目の成績分布を一覧表にして教授会で確認しているが、具体的な評価指標の検討には至っていない。	GPAの分布を作成し、学習効果を評価する方向を模索しているが、学習成果を測定する評価指標の開発は進んでいない。
	[1-2] 卒業アンケートおよび満足度調査に対する分析をし、学生からの評価を検討する。評価対象を企業、卒業生にも広げること検討する。	調査については報告したものの、検討は行わなかった。	来年度から、全学的に卒業時に学位授与方針への到達を問うアンケートを実施する予定なので、学部の卒業アンケートについては設問等の見直しをする必要がある。
	[1-3] 1) 退学・除籍率を4%未満にする。 2) 学生の実態を引き続き再確認する。さらに、厳格な成績評価の観点から退学や休	1)2019年3月～2020年2月の1年間で、退学10名(1.8%)、除籍3名(0.5%)、退学・除籍率は2.3%である。昨年に続き、目標を達成している。	①休退学除籍者数については、ここ数年休退学予防を重点課題として取り組んできたため、近年減少の傾向がある。 ②卒業率は2年連続で上昇している。また、

4-4. 成果

	<p>学に関する課題を検討する。それと同時に、休・退学者を減らすために専門科目の出欠を全科目調査する。</p> <p>3)2)の結果を履修・修学指導に活用し、学生支援の改善を図る。</p>	<p>2)休・退学者の状況を把握し、初年次教育における出席管理を重点的に強化することにより、成績評価を向上させる取り組みを引き続き行った。また、非常勤をふくめ学部の専門科目のすべてで出欠情報の調査を行った。さらに、学生の実態把握の観点から、修学上不安のある学生について適宜情報を収集し、逐次Excelファイルにまとめた。そして、学部教職員間で当該情報を共有できるようにした。</p> <p>3)出欠情報の調査は、各指導教員の修学指導には活用されているが、学部として学生支援の改善策を講じてはいない。</p>	<p>4年間卒業率は80%を上回った。これは2007年度以来である。</p>
	<p>[1-4]</p> <p>1)「専門ゼミナール II」や「専門ゼミナール III、IV」において、学生のコミュニケーション力を培うために、学生の自己分析や自己アピールなどを支援する。</p> <p>2)学生の就業力のアップを図るために、学生のエントリーシート作成を支援するとともに、学部企画を開催する。</p>	<p>1)各ゼミナールにおいて、指導教員などにより学生の自己分析や自己アピールなどを支援した。</p> <p>2)「専門ゼミナール II」の時間を使用して、学部企画としてエントリーシートの書き方について外部講師を招いて指導した。また、学生が「職業と人生」で作成したエントリーシート(添削バージョン)の写しを指導教員に配布して情報を共有し、就活支援に利用した。また、1年生の「ビジネス演習 A」において「キャリア支援課職員の講話」を実施した。</p>	<p>3年生の「専門ゼミナール II」を「職業と人生」と同じ曜日に行い履修率を高める、学生の就職状況をキャリア支援課と連絡を密にして正確に把握する、ゼミナールにおいて学部全体のキャリア教育を実施するなど、キャリア支援課との連携を強めながら学生の進路支援を組織的に行うことができた。</p>
	<p>[1-5]</p> <p>1)サポートセンター利用も含めた講義以外の学習方法について検討する。</p> <p>2)学生の能力に応じた補習教育、補充教育の在り方について検討する。さらに、自主的な学習を促進するための方法を検討する。</p>	<p>1)講義以外の学習方法については検討していない。</p> <p>2)学生の能力に応じた補習教育・補充教育、さらに自主的な学習を促進するための方法については検討していない。</p>	<p>教育効果を踏まえて、補習・補充教育の必要性を検討していきたい。</p>

2020年度	年次計画内容		
	[1-1]	学習成果を測定する評価指標の検討を行う。	
	[1-2]	卒業アンケートおよび満足度調査に対する分析をし、学生からの評価を検討する。評価対象を企業、卒業生にも広げること検討する。	
	[1-3]	<p>1)退学・除籍率を4%未満にする。</p> <p>2)学生の実態を引き続き再確認する。さらに、厳格な成績評価の観点から退学や休学に関する課題を検討する。それと同時に、休・退学者を減らすために専門科目の出欠を全科目調査する。</p> <p>3)2)の結果を履修・修学指導に活用し、学生支援の改善を図る。</p>	
	[1-4]	<p>1)「専門ゼミナール II」や「専門ゼミナール III、IV」において、学生のコミュニケーション力を培うために、学生の自己分析や自己アピールなどを支援する。</p> <p>2)学生の就業力のアップを図るために、学生のエントリーシート作成を支援するとともに、学部企画を開催する。</p>	
	[1-5]	<p>1)サポートセンター利用も含めた講義以外の学習方法について検討する。</p> <p>2)学生の能力に応じた補習教育、補充教育の在り方について検討する。さらに、自主的な学習を促進するための方法を検討する。</p>	

	【計画2】(目標2に対応する計画)	達成度評価指標【指標2】
	[2-1] 学位授与方針が、教育目標の成果を評価できる内容であることを継続して検証する。	<p>①進路決定状況(業種別等を含む)</p> <p>②資格等取得状況</p> <p>③入学年度別学位授与率・4年間卒業率</p> <p>④卒業論文提出者数</p>
2019年度	年次計画内容	計画実施状況
	[2-1] 卒業論文やゼミナール論文の質の向上をはかるとともに、卒論発表会を今年度も実施する。卒論発表会の参加率をさらに増やすよう検討する。	<p>卒業論文については62名が提出し、そのうち53名が報告会で報告した。報告会は「専門ゼミナール II」の時間に設定して、3年生が先輩の報告を聞き、自身の卒業論文作成の参考になるようにしている。</p>
		指標に基づく中期目標の達成状況
		<p>③卒業率は91.2%で、2年連続で上昇した。4年間卒業率は83.3%となり、2007年度以来で80%を上回った。</p> <p>④卒業論文提出者は62名であった。</p>
2020年度	年次計画内容	
	[2-1] 卒業論文やゼミナール論文の質の向上をはかるとともに、卒論発表会を今年度も実施する。卒論発表会の参加率をさらに増やすよう検討する。	

(5) 人文学部人間科学科

	中期計画【計画1】(目標1に対応する計画)	達成度評価指標【指標1】
	<p>[1-1] 教育目標達成の観点から、学生の学びの成果を点検し評価する(学生の自己評価を含む)。</p> <p>[1-2] 教育目標に基づいた人材育成の観点から、卒業後の評価(就職先の評価、卒業生評価)に関する調査結果を検証する。</p>	<p>[1-1]</p> <p>①意識調査・学修行動調査</p> <p>②入学年度別GPA分布・推移</p>

			③学生満足度調査（アンケート）の活用 ④入学年度別学位授与率 ⑤卒論の最終評価の構成比 [1-2] ①進路決定状況（業種別等を含む） ②資格等取得状況 ③卒業生満足度調査の活用
2019年度	年次計画内容	計画実施状況	指標に基づく中期目標の達成状況
	[1-1] 学習の集大成である卒業論文の未提出と不合格の理由を探り、未提出者と不合格者を減らす努力を継続する。	[1-1] 卒論の未提出者は3人、不合格者は0人とほぼ例年並みの数字であった。卒論以外にかなりの未修得単位があるケースや卒論指導の長期欠席者が多く、早期の修学指導などの対策が必要である。また2020年度からの新カリキュラムで選択科目となる卒論の運営方法を検討した。	[1-1] 今後とも、未提出と不合格者を減らす努力を継続今後とも、未提出と不合格者を減らす努力を継続していく。2020年度入学生からの選択科目となる卒論の履修・運営方法を確定し、新年度の履修要項に明示した。 【指標「2019年度 人文学部卒論評価一覧」】2020年3月5日、人文学部教務委員会資料
	[1-2] 卒業後の評価については、キャリア支援課における追跡調査が行われていないため、学科で独自の調査を行うことはむずかしいと考えられることから、計画から除外する。人間科学科の学びの成果を生かした就職を実現するには、資格取得は学修の成果ではあるものの進路と結びつけて取得していないという場合もあり、今後の方針を策定するために、成果をどうとらえるかという根本を明確にする話し合いを学科会議において行う。	学科会議にて随時、資格取得と学修との関連における学生の個別の困難性について話し合い、アドバイスを交換した。福祉系の資格取得志望者には成績優秀学生が増えており、今後に期待できるかもしれない。学科会議で検討する余裕はなかったが、教職や学芸員課程の学生の課題については関連教員どうしの意見交換が行われた。	①進路決定状況（業種別等を含む） ②資格等取得状況 ③卒業生満足度調査
2020年度	年次計画内容		
	[1-1] 学習の集大成である卒業論文の未提出と不合格の理由を探り、未提出者と不合格者を減らす努力を継続する。新カリの3・4年次教育の具体的な運営について、新入生の状況を把握しつつ、検討を継続する。 [1-2] 多様な学生が教育・学修の成果としてそれぞれに希望する就職を、100%実現することを引き続き目標とする。		

中期計画【計画2】（目標2に対応する計画）		達成度評価指標【指標2】	
[2-1] 学位授与方針が、教育目標の成果を評価できる内容であることを継続して検証する。		①対照表による評価（4-1参照） ②資格等取得状況 ③入学年度別学位授与率	
2019年度	年次計画内容	計画実施状況	指標に基づく中期目標の達成状況
	[2-1] 引き続き、卒業論文の指導および発表会・審査会などとおして、学位授与方針に示された諸点を踏まえた学位の授与を行い、その成果を学科会議で総括する。	卒業論文の審査にあたっては、ポスター発表会（社会、福祉、心理・教育領域）、口頭発表会（文化、思想領域）を実施し、その後領域ごとの会議において評価基準の統一を図りながら評価を行った。学科としての総括は例年どおり4月の学科会議で前年度ぶんについて実施した。	今年度（前期末および後期末）の卒業論文の提出者は60名（うち前期末3）、未提出者は3名、提出率は95パーセントだった。後期末合格者の内訳はS6、A11、B29、C14であり、卒業論文は学科の教育成果を評価する指標としても有効に機能しているといえる。 【指標「2019年度 人文学部卒論評価一覧」】2020年3月12日、人文学部教務委員会資料
2020年度	年次計画内容		
	[2-1] 引き続き、卒業論文の指導および発表会・審査会などとおして、学位授与方針に示された諸点を踏まえた学位の授与を行い、その成果を学科会議で総括する。		

（6）人文学部英語英米文学科

中期計画【計画1】（目標1に対応する計画）		達成度評価指標【指標1】	
[1-1] 教育目標達成の観点から、学生の学びの成果を点検し評価する。 [1-2] 教育目標に基づいた人材育成の観点から、卒業後の進路について点検し評価する。		[1-1, 1-2 共通] ①入学年度別 GPA 分布・推移 ②進路決定状況（業種別等を含む） ③資格等取得状況 ④入学年度別学位授与率・4年間卒業率 ⑤国際交流活動の参加状況	
2019年度	年次計画内容	計画実施状況	指標に基づく中期目標の達成状況
	[1-1] 今年度も引き続き TOEIC 等英語検定のスコア、資格等取得状況、国際交流活動の参加状況について調査を行い、学生の学びの成果を点検し評価する。	今年度も4年生に関して、TOEIC のスコアの推移・留学状況・国際交流活動参加状況・進路決定状況について、学びの成果を検証した。また来年度からは「修学ポートフォリオ」を導入し、各学年で英語検定のスコアを調査することとした。	次年度も TOEIC 等英語検定のスコア、資格等取得状況、国際交流活動の参加状況について調査を継続する。 【指標 2019年度第10回学科会議資料「英語英米文学科4年生の内定状況について」／「4年生取得単位・GPA 一覧」】
	[1-2] 当該年度の卒業生の進路について、入学時からの修学状況および進路決定状況に鑑みた検証をさらに継続し、教育目標に基づいた人材育	TOEIC スコアと卒業生の進路の関係性については未検証となった。その他については毎学科会議で情報を共有している。	2019年度学位授与式中止のためデータ取得が2020年度前期となるが、進路と英語学力との関係性の検討を2020年度において行う。進路の情報提供は引き続き学科会議で行

4-4. 成果

	成の観点から点検と評価を行うための準備を進める。	う。【指標 2019 年度毎月学科会議資料「内定状況」】
2020 年度	年次計画内容	
	[1-1] 今年度も引き続き TOEIC 等英語検定のスコア、資格等取得状況、国際交流活動の参加状況について調査を行い、学生の学びの成果を点検し評価する。また今年度から開始する修学ポートフォリオの結果について検証する。 [1-2] 2019 年度卒業生の進路と学力（とくに英語）との関係を調べる（20 年度前期）。当該年度（20 年度）の卒業生の修学状況および進路決定に鑑みた検証を継続し、教育目標に基づいた人材幾隻の観点から点検と評価を行う（20 年度末）。	

中期計画【計画 2】（目標 2 に対応する計画）		達成度評価指標【指標 2】
[2-1] 学位授与方針が、教育目標の成果を評価できる内容であることを継続して検証する。		①進路決定状況（業種別等を含む） ②資格等取得状況 ③入学年度別学位授与率・4 年間卒業率
2019 年度	年次計画内容	計画実施状況
	[2-1] 今年度も継続して、学生の資格取得状況、進路決定状況などを参照し、学位授与方針が、教育目標の成果を評価できる内容であることを検証する。	今年度は全学部で、学位授与方針を中心に 3 つのポリシーの見直しを行った。また今年度も引き続き 4 年生の資格取得と進路決定状況などを参照し、教育目標と学位授与方針との関連性を検証した。
		指標に基づく中期目標の達成状況
		今年度も 4 年生の資格取得状況と進路決定状況などを参照し、教育目標と学位授与方針との関連性を検証した。来年度も同様の取り組みを継続する。 【指標 2019 年度第 10 回学科会議資料「英語英米文学科 4 年生の内定状況について」/ 3 つのポリシーに関する規定(新旧対照表)(英語英米文学科)】
2020 年度	年次計画内容	
	[2-1] 今年度も継続して、学生の資格取得状況、進路決定状況などを参照し、学位授与方針が、教育目標の成果を評価できる内容であることを検証する。	

(7) 人文学部こども発達学科

中期計画【計画 1】（目標 1 に対応する計画）		達成度評価指標【指標 1】
[1-1] 教育目標を念頭に学生の学習成果を評価する指標を検討し、運用する。 [1-2] 学生の自己評価（修学状況、単位取得状況等を含む）、卒業後の進路（教員、保育士採用等、卒業生評価）評価を行う。		[1-1] ①入学年度別 GPA 分布・推移（全学） ②進路決定状況（業種別等を含む） ③資格等取得状況 ④入学年度別学位授与率・4 年間卒業率（全学） ⑤教員・保育士採用等の採用状況 [1-2] ①学生満足度調査（全学） ②卒業生満足度調査（全学）
2019 年度	年次計画内容	計画実施状況
	[1-1] 学科全学年の学習成果を GPA、卒業率、進路および資格取得状況など把握できる仕組みや、評価する方法の開発を検討する。	学科全学年の学習成果を入学年度別 GPA、卒業率を、ゼミを中心に実施された進路希望や資格取得状況の調査や個別面談から把握した。また、それらの情報を学科会議において共有し、学習効果について評価する方法を検討した。
		指標に基づく中期目標の達成状況
		現状分析を 2/2 実施。検証を 1/1 を実施。達成 0/1 を実施。 【指標「計画表」D4-4-1:学習成果を評価する指標の検討と運用】 【指標①「入学年度別 GPA 分布・推移」】 【指標②「進路決定状況（業種別等を含む）」】 【指標③「資格取得状況」】 【指標④「入学年度別学位授与率・年間卒業率」】 【根拠資料「進路希望調査」】
		現状分析を 3/4 実施。検証を 2/3 を実施。達成 0/1 を実施。 【指標「計画表」D4-4-1:学生の自己評価と卒業後の進路の評価】 【指標「進路決定状況（業種別等を含む）」】 【指標「資格取得状況」】 【指標「教職履修カルテ」】 【指標「保育士指定科目習得チェック表」】
2020 年度	年次計画内容	
	[1-1] 学科全学年の学習成果を GPA、卒業率、進路および資格取得状況などで把握し、それらの状況を学科教職員で共有する仕組みと評価する方法の開発を検討する。 [1-2] 学科全学年について修学状況や進路希望状況を把握し、学科教職員で情報の共有を図る。卒業生や進路先への聞き取りを通じ、学生の教職課程履修カルテや保育士指定科目習得チェックシートを合わせて分析することにより、在学中や卒業後の満足度が向上できるように努める。	

中期計画【計画 2】（目標 2 に対応する計画）		達成度評価指標【指標 2】
[2-1] 学位授与方針が、教育目標の成果を評価できる内容であることを継続して検証する。		①対照表による評価（4-1 参照） ②進路決定状況（業種別等を含む） ③資格等取得状況 ④入学年度別学位授与率・4 年間卒業率（全学） ⑤教員・保育士採用等の採用状況
2019	年次計画内容	計画実施状況
		指標に基づく中期目標の達成状況

年度	[2-1] 学位授与方針に基づいた能力が、4年間の教育を通して身につけているか、進路希望、資格取得のそれぞれの状況および進路決定状況などから検討する。	学位記授与方針に基づいた能力が4年間の教育を通して身につけているかを、在学生の進路希望、教員免許状を含む資格取得、及び進路決定の各状況を調査・集計で得られた資料をもとに検討した。また、学位授与方針の見直しを、教育課程の編成・実施方針及び学生受け入れ方針の見直しと一体的に行った。	現状分析を3/3実施。検証を2/2を実施。達成1/1を実施。 【指標「計画表」D4-4-2】 【指標「こども発在学生の進路希望調査」】 【指標「進路決定状況」】 【指標「新入生意識調査【委員会用】】】 【指標「2年生学修行動調査【委員会用】】】 【指標「卒論評価2019年度」】 【指標「こども発達学科の4年間の学修目標」】
2020年度	年次計画内容		
年度	[2-1] 学位授与方針に基づいた能力が、4年間の教育を通して身につけているかを、進路希望調査、資格取得状況、および進路決定状況などから把握し、学位授与方針の見直しの必要性について検討する。		

(8) 心理学部

中期計画【計画1】(目標1に対応する計画)		達成度評価指標【指標1】
[1-1] 教育目標達成の観点から、学生の学習成果を測定するための評価指標(学生による自己評価を含める)を適用する。		①入学年度別GPA分布・推移 ②進路決定状況(業種別等を含む) ③資格等取得状況 ④学生満足度調査 ⑤卒業生満足度調査
2019年度	年次計画内容	計画実施状況
年度	[1-1] データベースの分析・学科内での共有・教育課程へ結果を活かす、といったPDCAサイクルを引き続き継続する。	IRデータを得て、入試に関連する分析を行った。引き続き、入学生の資質に対応するカリキュラムを工夫し、評価していく方法を検討する。
	[1-2] 就職先等へのアンケートにより、心理学部としてのアウトカムを評価する方法について引き続き検討する。	就職先アンケートは実施していないが、関係者から就職状況に関連する聞き取りを行い、現状に関して検討した。
2020年度		指標に基づく中期目標の達成状況
年度	年次計画内容	
	[1-1] データベースの分析・学科内での共有・教育課程へ結果を活かす、といったPDCAサイクルを引き続き継続する。	2019年度における「2年生学修行動調査の集計結果」では、臨床心理学科の回答割合が最も高く、積極性が認められた。一週間の平均学習時間は、2018年度よりも平均40分ほど減少していた。調査人数が倍になっていることもあるが、検討を要する。 【指標「2年生学修行動調査の集計結果」】 (第15回教授会3/17 全学教務委員会報告)
	[1-2] 就職先等への聞き取りなどにより、心理学部としてのアウトカムを評価する方法について引き続き検討する	【指標：なし】

中期計画【計画2】(目標2に対応する計画)		達成度評価指標【指標2】
[2-1] 学位授与方針が、教育目標の成果を評価できる内容であることを継続して検証する。		①進路決定状況(業種別等を含む) ②資格等取得状況 ③年度別学位授与率
2019年度	年次計画内容	計画実施状況
年度	[2-1] 卒業生の進路決定状況、資格取得状況を参考に、学位授与方針が教育目標の成果を評価できる内容になるように引き続き検討する。学生一人一人が自分の強みを生かした進路決定ができるよう、専門性を生かした進路決定推進とともに、多様な進路モデルを引き続き提示する。また、進路決定に困難を抱えている学生へのフォローも引き続き重視する。	マイファイルにおいて、学生自身にディプロマ・ポリシーの達成度を評価してもらう欄を作り、自らの学習を方向づけやすくするように工夫した。また公務員や保育士を希望する学生を募り、勉強会を組織して参加するように促した。公認心理師養成カリキュラムにおいて、学部卒段階で関連指定施設に就職して研修を受ける方法について、近隣の施設と覚書を交わして希望する卒業生が応募可能となる見込みである。
2020年度		指標に基づく中期目標の達成状況
年度	年次計画内容	
	[2-1] 学位授与方針と教育目標の成果の整合性について引き続き検討する。学生一人一人が自分の強みを生かした進路決定ができるよう、専門性を生かした進路決定推進とともに、多様な進路モデルを引き続き提示する。また、進路決定に困難を抱えている学生へのフォローも引き続き重視する。	【指標：マイファイル最終版】

(9) 法学部

中期計画【計画1】(目標1に対応する計画)		達成度評価指標【指標1】
[1-1] 教育目標達成の観点から、学生の学習成果を測定するための評価指標を開発し適用する。 [1-2] 留年、休学及び退学の状況を把握し、それらの減少に努める。 [1-3] 資格取得者、及び検定合格者の増加を図る。		[1-1] ①入学年度別GPA分布 ②進路決定状況 ③資格等取得状況 ④入学年度別学位授与率・4年間卒業率 [1-2] ①留年者、休学者・退学者の推移 [1-3] ①格取得者及び検定合格者の推移
2019年度	年次計画内容	計画実施状況
年度	[1-1] 卒業論文の履修率と執筆率、	[1-1] 関連データの収集に努めた。経年変
		卒業論文履修率10/103(9.8%)、履修者中

4-4. 成果

	内定獲得の延べ人数と実人数など、データを収集する。数値の評価を多角的におこなう。	化を分析し評価する指標の開発には至らなかった。	の執筆率 10/14 (71.5%) 2 月末日時点の内定者 85/89(95.5%)
	[1-2] 留年、休学、退学減少のための努力を引き続きおこなう。はぐくみへの記入を精力的におこなう。学籍異動の状況の可視化を通じた問題把握と対策を、教授会や 10 分 FD の中で適宜おこなう。	[1-2] 各教員が、ゼミ生との随時面談および担任する学生との一斉面談を通じて修学指導を行い、その結果を「はぐくみ」に記入した。毎教授会にて、前年同月比の休学・退学・除籍数を確認した。	「はぐくみ」には、ほぼすべての学生について記載がなされている。
	[1-3] 法学検定試験（とりわけスタンダード）、TOEIC・TOEFL・英語検定試験、宅地建物取引士、行政書士などの各種検定試験、資格試験の受検を促す。	[1-3] 法学検定試験スタンダードに、二桁の合格者を出した。合格率は 52.3%であった。昨年度より合格率は大きく低下したが（受験者数が少ないため比率の変化が大き）、合格者は昨年度より 1 人減っただけであり、来年度に合格率を高められる可能性を示したと言える。英語検定試験も外国語講読などの授業を通じて積極的に誘導しており、受験者が現れている。	法学検定試験スタンダード合格 11 名、不合格 10 名 法学スキル基礎単位修得状況：認定 25 名（1 年次に受験し合格）、SABC 88 名、D 38 名、当日試験欠席 10 名、受験未登録 20 名。 学長裁量経費に申し込み、レックに法学部生対象にスタンダード試験対策をおこなってもらった。ガイダンス時から予告できなかったこともあり、受講生が少なかった。
2020 年度	年次計画内容		
	[1-1] 卒業論文の履修率と執筆率、内定獲得の延べ人数と実人数など、データを収集する。数値の評価を多角的におこなう。		
	[1-2] 留年、休学、退学減少のための努力を引き続きおこなう。はぐくみへの記入を精力的におこなう。学籍異動の状況の可視化を通じた問題把握と対策を、教授会や 10 分 FD の中で適宜おこなう。		
	[1-3] 法学検定試験（とりわけスタンダード）、TOEIC・TOEFL・英語検定試験、宅地建物取引士、行政書士などの各種検定試験、資格試験の受検を促す。		

中期計画【計画 2】（目標 2 に対応する計画）		達成度評価指標【指標 2】
	[2-1] 学位授与方針が、教育目標の成果を評価できる内容であることを継続して検証する。	①進路決定状況 ②資格等取得状況 ③入学年度別学位授与率・4 年間卒業率
2019 年度	年次計画内容	計画実施状況
	[2-1] 学位授与方針に適合する、ディベート大会等を計画・実施する。基礎ゼミナール、専門ゼミナール間の連携を模索する。その他、学位授与方針に基づく教育の成果があがるよう、資格取得、卒業、就職の面で改善を図る。	[2-1] 基礎ゼミナール対抗ディベート大会を実施した。
		ディベート大会には 1 年生の 4 基礎ゼミが参加した。短い準備期間であったが、有意義な討論ができた。 法学検定試験ベーシック合格者法学検定試験ベーシック合格者 103 名、法学検定試験スタンダード合格者 11 名。
2020 年度	年次計画内容	
	[2-1] 学位授与方針に適合する、ディベート大会等を計画・実施する。基礎ゼミナール、専門ゼミナール間の連携を模索する。その他、学位授与方針に基づく教育の成果があがるよう、資格取得、卒業、就職の面で改善を図る。	

(10) 大学院法学研究科

中期計画【計画 1】（目標 1 に対応する計画）		達成度評価指標【指標 1】
	[1-1] 指標に基づき、教育目標の達成度を適切に評価し、改善に努める。	①単位修得状況 ②GPA 分布 ③資格等取得状況 ④学位授与率 ⑤修了生進路状況 ⑥検証作業の実施状況
2019 年度	年次計画内容	計画実施状況
	指標に基づき、適切な人材育成ができていないか、検証する。	指標（修了生進路状況）に基づき、適切な人材育成ができていないかの検証を行った。
		①単位修得状況：良好 ②GPA 分布：良好 ③資格等取得状況：税理士試験科目合格者有り ④学位授与率：90%(10/11) ⑤修了生進路状況：全員が税理士志望であり、税理士事務所勤務中であるか勤務を予定している。 ⑥検証作業の実施状況：達成
2020 年度	年次計画内容	
	指標に基づき、適切な人材育成ができていないか、検証する。	

中期計画【計画 2】（目標 2 に対応する計画）		達成度評価指標【指標 2】
	[1-1] あらかじめ学位授与方針を学生に明示し、明確な責任体制の下で審査を行い、適切に学位を授与する。	①学位授与率
2019 年度	年次計画内容	計画実施状況
	学位授与方針に基づき、明確な責任体制の下で審査を行い、適切に学位を授与する。	学位授与方針に基づき、主査、副査の 2 名を基本に、十分な時間をかけて適切に学位を授与した。
		①学位授与率：90%(10/11)
2020 年度	年次計画内容	
	学位授与方針に基づき、明確な責任体制の下で審査を行い、適切に学位を授与する。	

(11) 大学院臨床心理学研究科

中期計画【計画1】(目標1に対応する計画)			達成度評価指標【指標1】
[1-1] 臨床心理士試験合格者数ならびに修了後の進路を把握する。			①臨床心理士試験合格者数 ②修了後の進路
2019年度	年次計画内容	計画実施状況	指標に基づく中期目標の達成状況
	[1-1] 合格者数と進路、その経年変化を把握する。	計画に沿って遂行した。 例年通り合格者数・進路について調査し把握した。	①達成 ②実施(就職先など)
2020年度	年次計画内容		
	[1-1] 合格者数と進路、その経年変化を把握する。		

中期計画【計画2】(目標2に対応する計画)			達成度評価指標【指標2】
[1-1] 単位修得状況と修士論文を総合的に把握する。			①単位修得状況 ②修士論文評価(修論審査報告書)
2019年度	年次計画内容	計画実施状況	指標に基づく中期目標の達成状況
	[1-1] 単位修得状況と修士論文の適正な質・量を把握する。	計画に沿って遂行した。修士論文の審査基準を整理し、質的には修論発表会や中間発表会で、教員が広く検討できるようにした。	①達成 ②達成
2020年度	年次計画内容		
	[1-1] 単位修得状況と修士論文の適正な質・量を把握する。		

(12) 大学院地域社会マネジメント研究科

中期計画【計画1】(目標1に対応する計画)			達成度評価指標【指標1】
[1-1] 教育目標達成の観点から、院生の学習成果を測定するため、修士論文の評価や進路状況などからなる評価指標を開発し適用する。 [1-2] 学生の進路状況を把握し、就職活動の支援を行う。			[1-1] ①入学年度別 GPA 分布・推移 ②進路決定状況(業種別等を含む) ③修士論文の検証
2019年度	年次計画内容	計画実施状況	指標に基づく中期目標の達成状況
	[1-1] 院生の修士論文等の評価や進路状況などからなる評価指標についての検討を行う。	院生の評価指標は非常に複雑でありその多くを指導教官の判断に任せている。統一した指標で院生の資質を評価するのは困難なため、慎重に検討を行う必要がある。	①GPAは3を大きく上回る院生が多く問題はない。2019年度の1年生4名の平均GPAは3.74、2年生8名の平均GPAは3.37と良好である。 ②今年度の修了者は3名である。2名は有職者(税理士事務所勤務、大学教員)であり、1名が定年退職者である。 ③修士論文等は修了要件に必要な水準を充たしている。
	[1-2] ①キャリア支援課と協力して学部から進学した職を持たない院生の就職活動の支援を行う。 ②大学院での研究分野と関連した進路へ進めるよう、院生への支援を行う。	①2019年度修了者については、学部進学者はいなかった。 ②修了者1名が税理士の会計科目免除を申請する。	
2020年度	年次計画内容		
	[1-1] ①キャリア支援課と協力して学部から進学した職を持たない院生の就職活動の支援を行う。 ②大学院での研究分野と関連した進路へ進めるよう、院生への支援を行う。		

中期計画【計画2】(目標2に対応する計画)			達成度評価指標【指標2】
[2-1] 学位授与方針が、教育目標の成果を評価できる内容であることを継続して検証する。			①対照表による評価 ②進路決定状況(業種別等を含む) ③資格等取得状況
2019年度	年次計画内容	計画実施状況	指標に基づく中期目標の達成状況
	[2-1]院生の修士論文の作成状況、進路状況を見ながら、教育した院生の能力が学位授与方針と合致しているかどうかを検証する。 [2-2]教育した院生の能力が学位授与方針と合致しているかどうかを検証する方法の検討を開始する。	修士論文から見て学位授与方針は適切なものであるといえる。今年度の修了生の進路は教育目標に合致したものであったといえる。	
2020年度	年次計画内容		
	[2-1]院生の修士論文の作成状況、進路状況を見ながら、教育した院生の能力が学位授与方針と合致しているかどうかを検証する。 [2-2]教育した院生の能力が学位授与方針と合致しているかどうかを検証する方法を検討する。		